

中國書畫

卷

13



西膝ノ中間ニ當リ鎗ノ方ナル大ハヲ落シ玉ハ刀ハ平  
カニノ柄ノ方カシ上ル服差ノ柄ハ刀ヨリ又少シ上ル登  
城ノ時不乘内手ニ袖口ヲ把セウレ袖ハ体ヨリ少シ前ニ  
出微俯シホク候急ノ宜ニ中リ威儀ヲ修飾セズメ自ラ演  
容ケルカノ懊深ク見エ玉ヲ〇照堂常ニ夕房ノ具ホ飾テ  
セウルノナク机一階ト肩棚ニ透ス誠ニ清洒澄泊也掛  
幅ハ折ニ掛指ハ肩律奇若クハ大中小字屋ハ和漢南北ヲ  
扱ハス但其時ニハ物ヲ好ミ玉一尺又夏日ニ雪ハ屋ヲ  
見玉フ非アリ哉外十前後水気ニ浮腫ヨ極マセウシシ比  
半時ニ過ス又夜寐シ玉ヲアリ其外曾テ主眠シ玉ハ又夜  
令前夕終初寝ナセウレス凡聖日坐跪シ玉フ下更ニ見奉  
ラ大徳テ有ノ寝付遅ク曉ノ目奄ハ早シ飲レ凡有ニ五〇

半時言上スレハ程ナク床中ニ入セウレ朝六ツ半時言上  
セカレハ寝所ヨリ出玉フナシ夜中因覺ル時種々筆記或  
歌杯流シ玉ヲ故常ニ机上ニ筆視リ短察ヲ出シ置セウ  
ル寢玉フ時夫ト別テ難キ程静カニテ熟睡シ玉フカト思  
ハ聞ニ忽時刻ヲ問セラレ又少シハ地震遠大ノ半鐘ノ音  
モ直ニ尚恐玉ト不寢前直ニ丸モ熟睡ハ程ハ窺得ナリシ  
ト也〇炭寒ノ朝ニテモ炬燵ヲ圍玉フ下ナシ處政ノ末自  
川ニ在シ烈寒ニテ一朝机上人視池筆尖モ凍ルル時今朝  
ハ殊ニ寒威甚シトテ手ヲ煖メ玉ヒシテアルハ是末必  
ハ病疾エシモ情弱ヲ慎ミ玉フヨリカリ常ニ成セ玉ヒシ  
也際極ノ後工夫ノ置炬燵ヲ簡易ニ流ラシメ玉ヒシカ只  
汝ハ置セウレハ是ニ當テ當テ困玉フ下ナシ〇退殿ノ後

於酒ヲ飲玉フ其時当直ノ側役ヲ出テ物語アリセリシ  
 用人モタル、ナリ例夕方睡後ニテ別ニ有棟ヲ設ケテ  
 ル、下倦ヲナシ有八ノ有モナキ時ハ樽菜ト蘿蔔ヲ口  
 ノ齋節ニ和シテ奉ル又大洲産ノ鰯ヲ好玉ヒケレハ  
 君ヨリ常ニ進セリル魚物ハ膠臙ナルヲ好マセリテ  
 有、鮮魚ノ作リ身ヲ好玉ヒシハ散テ救メナセリ、  
 下ナシ性未酒ヲ深リ好玉トエアラフ年染キ時血氣ニ注  
 セ大魚ニテ重テ傾玉ヒシ下モアリシカ其力ニ事ヲ遺忘  
 シ或ハ其醉倒レ玉フ下他テナシ浮腫ヲ病ミ玉フ時酒  
 ヲ禁シ其後モ象ハ替ソ益ヲ傳サセリシ持病ニ成キ煮ア  
 リテ温煖ノ物好玉ヒケレハ寒時ハ徳又飲玉フ親戚ノ婦  
 人ヲ饗シ玉フ時ハ廣席ト和メ婦人方モ思憚ナリ具シ玉

一田安所ニ於テ毎年早春使者ニ来リ対坐メ款セリ且  
 熊麩ニナシ玉フ公ノ勇偉ヲ憚リテ来ルヲ憚リ合フ由  
 窮ニ肉工シカ来掲シテ河史物語アレハ素ヨリ何ノ然ル  
 ハキ下モナクイツモ帰途ヲ惜ミシトナリ凡奥向ノ廣席  
 ニハ男女ヲ兩班ニ分テ伎ニモ標ナル下ナシ常ニ侍臣亦  
 ニ対テ肉ニテ酒宴ノ節ハ極分打和キ果ム下ナリ力宜  
 終シテ常ノ如ク之如リ乱ニ及ハナシルヲ肯トスル下ナリ  
 下宜一リハ江戸上船ノ益室ニ内徳盛トシ頼ヲ掲ケ玉フ  
 佐和黃内治或時酒ノ下春セ玉フ文アリ

此の書は...  
 ...  
 ...



親ニ事テ奉教見才ニ交テ友愛同友ニハ蓄信臣下ニハ慈  
 愛深ク在シ玉ヲ養光ハ清照夫人ニ孝生母香詮院尼公長  
 ノ世ニ在マシ帝ニ親看ヲ以テ安否ヲ問ヒ好奢ノ物ヲ養  
 ンセ自モ屢伺候シ此方ニモ指セラル宗武婦ノ好マセ  
 レシトナレハ申樂ハ舞又鼓舞ホヲ奏人饗シ祭位ノ役  
 ハナシ玉ハ武ハ卓子盤ニテ膳ヲ進人自ヲ給仕シ玉ヲ  
 丁モアリ武時搦鉤兵六ノ門醉ニ兼ノ踊リ出シテ公毛  
 ニノ舞ノ如ク立玉ハ八尾公殊ニ笑ハセラレシトソ又  
 尾公ヨリ新ニ製シタリ進人形ヲ贈テレシカハ流セ玉ヲ歌  
 好曲相を授けし事見る志を奉るに於て

尾公康健ナリ性質ニテ疾病絶テ無リシカ父他九年申  
 十一月廿七日朝ヨリ気色悪ク何トナリ宿塞ノ昼餉ニ進  
 至ハ八ノ田安ヨリ告未リシニ折節上邸ニ在シケルカ直  
 駕ヲ還ノ行セラレ其後音復ノ為止宿願玉ヒシカ未  
 何濟ナレハ夜半ニ竹橋ヨリ梯子倚ノ辺ヲ廻リ折返シ田  
 安ニ行セテ聊モ病床ヲ去ス奉養アリセラレシカ終ニ  
 十二月二日ハ十五歳ニテ逝シ玉ヲ武時田安面相御侍坐  
 人ハ親ノ病ニ奉養スルノヨキ虬範ヲ見シカトト難  
 事下ナリト浴リ玉ヒシトソ歳尾ニ至リ面相御ヨリ使  
 カ以テ公老年ニ在シ因炭寒ノ時十ハ撰養ノ竹葉炭元  
 且ヨリ表ヲ解キ常ノ規或行ヒ玉ハトテ生奠ヲ贈ラレ  
 ケルカ孝心深リ在シ全ク服終リシ後藏首ノ式ヲ行ヒ玉

つ〇松代侯ニ嫁シ玉ヒシ母若真松院足公ハ昔 辭德  
夫人ノ遺托モアリケレハ給厚ク奉養シ時ニ招カセラル  
屋公年先我ニ庭園ノ歩行モニ三十間ニ過サレハ或日未  
玉フ時岡舟ト云物ニ齒ヲ重子ニ載テウセ此所偶ノ費手  
ヲ以侍臣ト共ニ持セウレ物借ノ辭ニ庭ヲ巡ラセラル  
是ヲ勞ヒスノ花ノ景色ヲ見尽セリトテ歎ヒ玉一リ此屋  
以モ長壽ニ云七十余迄在シ玉ヲ奉養一品ハ其方ニヨ  
リテ種ニ愛リアレモ何レモ以ノ心ヲ用玉フテテ歎ヒ  
適貴ニ見エサセウレシトノ  
実方ノ兄才多ク在セシカ松山侯ハ在府年異ナルハ例  
ニ三十日ニ過スソ別テ告玉一リ疾病ニテ滞府或ハ早ク  
奉府ノ時ハ月ニ一兩度互ニ往来アリ終日何レ汝モアウ

セウレヌ親睦ミテ心静ニ間斷ナリ物語モ玉ヲ侯酒ヲ好  
テトサシハ只菓子ヲ知ラセリハ種々ノ物語ノ内  
ハ木ノ道ト大和檢ノ下民ハ丸細トニ論シ玉ヲ又馬  
ノ故実服飾潤度ホノ下ハ女君實出卿ノ志ヲ健キ共ニ古  
代ノ所々好マシレカハ上古ノ冊子教訓ヨリテ新ニ画  
圖ヲ撰造ミテ互ニ示シ合樂ミ玉ヲ情致殊ニ親リ何レ奉  
ト小倉崎ハ一月ニ再三往返スル下モアリ享和ニ年燈ニ  
同共ハ日浦千鳥ノ給ニ空武郎ノヨマセテラレシニ  
子多ク入有リシハ其ノ事ハ人の知り給ハシム  
ハ云教ヲ継ぎ紙ニ命ヲ玉ハル一シト後ニ亦玉トシニ日  
アラスノ又侯ヨリモ同キ昼餐ヲ遣サレコロシニモ命ヲ玉  
ハルノニ命ヲ如河ニテ可ナラシムト命合サレ河ニ

日已、時互ニ使テ馳テ向邊ニ参リセシレ女時ヨク也玉  
 一歌

了（抄）

其ル下ニ三モ友愛ノ厚キヲ察シ奉ル一也○直奉院種姫  
 君ハ公ノ妹也ニテ波明大君ニ養ハレ在年大御言治富  
 御ニ入連アリ其後ニ屢向玉ヲ吹上ノ濱、白菊ヲ此姫若  
 ヲリ贈ラレシメテ添園恩秋風池ノ江ニ植置玉ヲシカ姫若  
 遊去アリシカハ愁歎、余則世江ノ一亭ヲ感故亭ノ名付  
 玉ノ入田湍院湍姫居肥前攝津郡媛前姫君治長門長松平  
 仙和院脩姫居唐内氏酒井氏謙照院直姫居海越前姫君治長門長松平  
 人足公ハ皆世ニ長ク在レカハ折ニ同行ラセテレシ以  
 毛然日靜ニ待テ玉ヲ此方ニ何レモ天性ノ賢キ且容貞

美廉ニ在セリ藤照君ハ父才尤勝レテ回學ニ長シ歌ヲモ  
 好シ之代集此ノ風調ヲ自在ニヨク玉ノ月夜ノ折ハ更也  
 常時欠唇ノ性素ニモ必ス一二首ノ贈次ハ有シトソ長遊  
 ノ後詠歌ヲ集メ藤玉集ト名付玉ヲ此姫居一殊ニ親ク在  
 シ、カ長遊ノ時香衿足公ノ大喪ニ居玉ハ尚ヒレシ  
 其外ノ足公疾病ノ時ハ日毎ニ向セシ菜餚ノ下氏委リ  
 心ヲ用玉ヲ丸両友以下ノ妾ニモ病マシレ、直奉飲食亦極  
 テ深切ニ心ヲ尽レ玉一リ  
 奉取中ハ從テ外交シ玉ハナリシカ畏戰ノ後年ヲ積ムニ  
 定メ愈慮後ヲ慕メ懇切ニ交リ玉ヲ多クシ一橋尾法紀伊  
 水戸ノ諸親藩玉ヲ親メ田安ハ別テ厚ク待セシレ茶席亦  
 御夫人ハ共ニ饗應シ玉一リ又高松侯、亭ニ招待ノ

日水戸流保仰之... 時一橋... 親交玉... 汎... 又當時奉... 玉... 時... 口... 掃... 中... 依... 今... 上... 高... 和... 度... 賴... 後... 改... 寺... 街... 飯... 田... 侯... 親... 憲... 和... 年... 杯... 川... 後... 館... 門... 花...

日水戸流保仰之... 時一橋... 親交玉... 汎... 又當時奉... 玉... 時... 口... 掃... 中... 依... 今... 上... 高... 和... 度... 賴... 後... 改... 寺... 街... 飯... 田... 侯... 親... 憲... 和... 年... 杯... 川... 後... 館... 門... 花...



シキニ寛政十二年申、二月三日、春城、新内外市井、定焼込、時、  
隣封、好、非常、火厄、昇向、セ、ル、可、ウ、ス、ト、老、臣、ニ、命、  
遣、札、ヲ、以、テ、向、シ、メ、又、用、人、奉、翰、ヲ、以、テ、承、テ、三、十、餘、ヲ、贈、リ、玉、  
ツ、○、後、見、ノ、依、頼、ハ、廿、三、多、カ、ラ、ウ、ル、丁、十、七、日、兄、見、松、山、  
定、國、朝、臣、四、十、三、ニ、テ、世、子、五、丸、居、幼、弱、ニ、テ、德、封、  
後、引、ツ、キ、早、世、アリ、テ、其、中、定、通、居、家、皆、シ、玉、ニ、累、年、幼、主、  
ホ、ツ、キ、レ、ハ、老、臣、ホ、藩、政、ノ、全、カ、ラ、サ、ル、丁、ヲ、憂、一、テ、  
出、ニ、後、見、ノ、期、ニ、願、奉、リ、外、十、三、カ、ル、徳、ヲ、レ、ハ、領、掌、ニ、玉、ニ、  
洗、有、日、来、テ、指、揮、ヲ、乞、奉、レ、リ、定、通、朝、臣、稍、成、長、アリ、サ、レ、ハ、  
子、孫、ノ、方、ニ、均、ク、心、ヲ、注、サ、セ、リ、先、ツ、文、武、ノ、修、行、ヲ、進、  
メ、玉、ノ、心、カ、松、山、ニ、ハ、学、校、ノ、設、テ、ク、学、風、モ、正、シ、カ、ラ、サ、レ、  
由、開、セ、テ、シ、林、大、学、設、テ、乞、テ、師、ト、シ、松、廣、瀬、典、ヲ、白、川、ヨ、リ、

松、山、上、郎、ニ、寓、居、シ、侍、流、庭、講、ヲ、命、シ、又、松、山、ノ、徳、居、  
ヲ、治、テ、本、照、宮、ノ、神、有、リ、何、十、學、ハ、濂、洛、關、雎、ニ、非、レ、ハ、不、  
可、ナ、ル、丁、ヲ、教、諭、シ、徳、典、ニ、命、テ、委、ク、告、諭、セ、シ、ト、松、山、ノ、学、  
風、一、変、セ、シ、ト、リ、侯、モ、屢、来、リ、セ、リ、其、時、毎、ニ、改、道、文、武、ノ、  
丁、ヨ、リ、勤、作、威、儀、ニ、至、ル、迄、徐、シ、ト、リ、訓、導、シ、玉、ヲ、致、仕、ノ、後、  
ハ、平、時、ノ、政、務、侯、ニ、徳、ヲ、テ、大、綱、ノ、ニ、謀、後、ニ、興、リ、玉、ヲ、文、化、  
ノ、五、年、成、始、ニ、松、山、ニ、入、部、ノ、時、送、別、ノ、宴、ヲ、設、テ、伊、勢、ノ、守、  
長、作、ヲ、鞍、鐙、ヲ、贈、リ、玉、ヲ、補、佐、ノ、老、臣、稻、川、八、七、内、ニ、年、柯、  
如、ク、後、ヲ、○、龜、山、侯、信、志、ハ、聲、ヲ、十、七、カ、歳、著、リ、メ、公、ヲ、父、ノ、  
如、ク、教、ニ、以、事、ヲ、之、内、シ、カ、不、幸、ニ、ノ、早、世、アリ、世、子、未、タ、  
幼、稚、ナ、レ、ハ、是、ニ、松、山、ノ、如、ク、後、見、同、様、ニ、ト、親、族、老、臣、ノ、乞、  
ニ、ヨ、リ、松、山、ノ、緊、要、ノ、丁、ヲ、其、リ、肉、セ、リ、心、從、シ、家、借、財、多、ク、信、







御幼年ヨリ 公後ヲ放重人下ヲ申上置致專要ニ人  
下 御例向ノ人出候大切ノ儀ニテ是輩ノ樂モ当世  
凡ニ些之標流行ノ初遣定モ堅ク慎ミ人下勿論ノ可  
テ此南人ノ不取送然此世可成下 下賤ノ下此世  
年ヨリ此世ノ不申上置免前下、世ノ親若ク積衣食  
住ノ本ヲナシ人下主人ノ是レモ下、有之故下申儀  
慮之此世申上可成下 此世向此世此世此世此世  
成ノ人、此世此世可成人當時ニテモ此世此世此世此世  
下ノ者心得ヲ以テ此世此世此世此世此世此世此世  
下 斯下結長之玉ト 將此世此世此世此世此世此世  
下時公、好ニ天賦之玉ノル笑而ヲ贈リ玉下後友姫ノ見

彼度ニ嫁シ玉下事知ノ此世此世此世此世此世此世  
辰ノ慶来リ又鞆教ヲ學ニ侍臣ノ舞ヲ學ハシ人玉下  
一藩ノ儀臣重臣ヨリ迄臣ノ玉下迄別テ 公ノ昔ニ合ヒ  
幸セラルル杯云下他下ナシ諸戦新古臣其人下ニヨリ其  
易量ニ應ヒ平等ニ用玉下使令過夫アリ臣交易ニ迄持シ  
玉下下ナリ重臣ノ進退ニ至テハ在慎玉下カリ心ヲ用玉  
下故何朕ニヨラス年ヲ積ニ奉務モ深ク思入各其分ニ  
ヒカカク尽セシトナリ 奉取江戸在勤ノ地以吉村宣温  
ハカ地不道確年病患危重ナリ、向セリト首分改事、直  
裁スレシ速ニ向川ノ行テ看護セヨト命セリト道路ヲ急  
キ知者シテシハ道確モ公、仁心ノ御下且江戸ノハ向  
知モ無シ、今ハ速ニ担リ奉仕スレト是是是是是是是是是是

見ルノ一織ノ分ヲ与ヘタリ宜温冷ガカリ別ヲ告テ  
旅亭ニ及ヒテ其屋ヲ開見レハ一首ノ歌アリ

此ノ道確義程ナリ万世ヲ宜温冷府ノ具ニ言上ノ無ク

ニ高覽ニ備ヘテレハ一公深ク感賞シ玉ヒ登城ノ節捧テ  
同川ノ方ニ玉共ニ玉一ハ河シモ大尾ノ侍殿斯リアルハ  
キ丁也ト感賞ノ余昏祀セテレシトソ世後表禁ヲ加ヘ道  
温ニ送シ与ヘ玉フ○一番ノ女子道ヲ失ヒタル程ノ下ナ  
ラサレハ容易ニ取テ賜フ下ナリ思意ヲ以テ下ナリ侍むヲ  
中島ハ即共々ハハ給ノ士ナルカ病ニ臥テ已ニ死セント  
スル夜ニ公寢室ノ次ニテ誰ハハ知テ言上ス一キナアリ  
ハ乞ケレハヨレヲ明玉ナハ即共々出テ世作後歳不肖ナ

レ旧家若徒シメ玉一ト願フト夢ニ玉一リ其夢ノ末々竟  
サレ内ニ洞箱捧来リケレハ襟メ其下ヲ知テ洞見玉一ハ  
果ノハ長生ノ末斯ノ願ナリ余リ女異ナル下ニ思ヒ一首  
ノ歌ヲヨマセ玉フ

此ノ道確義程ナリ万世ヲ宜温冷府ノ具ニ言上ノ無ク

性未可事ニ謙遜深リ在レシカ夫家ノ店接ハ殊ニ態款ニ  
ナシ玉フ凡夫未嘗世宗ノ士大夫ホ取待セ置リ下ナリ嫌ハ速  
ニ店接ナシ玉フ保固公未タ世子ニ在シ、時、公ノ前  
ニ出玉ハハ必命狀ナシ玉フニ改任ノ後、当殿ニ在  
セハ必盡ニ手ヲツカセテレ殿中ニテ行遇玉フ時ニ膝ヲ  
ツカセテ上船、於尾又子孫ノ方、勿推ニ在スモ兼テ  
其吉アリテ来玉フ時、大服ヲ正シ坐テ後行接シ玉フ内

家老臣ヨリ一藩諸臣ノ待接ホモ夫々規則以立置玉フ○  
 諸臣ノ献備ハ各授アリ又有り近侍ノ輩哉ヲ進メ秩ヲ加  
 一照フ時ハ眞物ヲ献呈セリ各身ノ礼謝ヲテメテ下レハ  
 百ノ厚キ方ニ移リ易キ故屢令メ下ノ戒メ玉フ或時侍臣  
 其固ラズ加秩賜ヒシヲ謝セシ連鮮菓ニ尾奉リケレハ其  
 少大ナル眞物ヲ必大下然ル可ク又此後ハ鮫鱈ハ美五七  
 尾鱈ノ類ハ一尾ニ過可ク又此度ハ志ヲ空リシ難シ連一  
 尾ハ納メ一尾ハ却ケ玉フ又外此ノ輩輝毫祿歌ホ賜ヒシ  
 時必献スハキニ非レ凡釣ニ必リ連鮫山目ノ類又ハ昔  
 賜ヒタルトテ松茸初音ノ類ヲ奉リ或ハ自製シクル團  
 扇榻本ノ類ヲ奉レ或珠觀玉盤凡ク價高キ物ヲ奉ル下  
 好ミ玉ハス何品ニテモ自リ得タル物ヲ喜ヒ玉フ或時

日光山ニ在代々余クシ其後程一途ニテ勤先ハ重多カ  
 此ハ必ス土直ホ配慮ス可ク又担子注取ニハ野菜多シ  
 其中奇菜ノ以味ハ都下ニ勝リタレハ一把携来可シト宣  
 口シカハ尔後其者出府ノ時ハ例下ノ青菜ヲ奉レリ有司  
 近侍ノ輩後ノ時ハ必賜アリ大凡ハ席子ノ美又世好ム  
 死ニヨリテ筆管或ハ昼登ハ美百草ノ黒焼五神燈杯ヲ添  
 テ賜フ下モアリ或時還生菓ヲ送行ニ赴ク時ヨリテ賜フ  
 歟

又廣瀬曲上岡ノ時聊送別ノ宴ヲ設ケサセラレ席上即吟  
 賜ヒシ歟ニ

旅するもの大なる海はさかぬおのきあめり

白川ヨリ出所スル者多クハ土地ノ産物ナリハ向里鶏卵  
又ハ自ラ作りタル給柄ノ料紙木奉シハ其品ニ應ニ餞別  
ヲモ賜フ或時不豫ニテ二旬余奉卧シ玉ヲヲ懸シトテ盤  
植又菓子ノ装巻タル者アリ聊ナル品ナレハ必ス扱賜ハ  
物ヲ捧戴セリ

尋常ノ宴ニモ侍出ノ者順次ニ盃ヲ回ラシ度ノ初ハ齒ノ  
上ニ果糖ノ如ク在シ玉ハ氏半研ニ及ハハ侍坐ノ者ハ思  
尺ニ坐ノ相親ニ終ニハ末出ヨリクツモ一盃受玉トテ人  
ハニ敗ヲ宴フ常ニサハ向隔ノ意アル下ヲ嫌玉ヲ故隠殿  
ノ縁窓ハ二ノ向ノ處ニ玉ヲ家族老長杯治シ時ハ一  
順次ニハ非サレハ必ス飲ニ盃ヲ賜ヒ祖公ノ祭日長  
此度ノス由シテ珍シク醉玉ヒシカ今日ハ未ク其盃ヲ

進セハハカリ宣ヒ改テ賜トケシハヤハ醉態ニ在セハ斯  
ルノ遠跡カニ十盃成ハハサレコソ賢ケシト其人ハ極テ感  
悦ニ奉シリ人ト多ク台ニ時盃行進シテハ始後醉ヲ  
羨セズハ宣ヒテ宴ハ初ニニツ重子ヨ三ツ重子ヨ下勸玉  
ヲ盃ノ多ク且長ク由ル下ヲ嫌ヒ又治ル下モ好玉ハ上  
下共ニ心ヲ盡シ奉ル定水ソノキ紙ニテ拭テ事モ好玉  
ハサレハ今ノ世用ハ所ノ至洗ト云者常用ニハ後テ置ス  
厚席ニ下戸ノ居ル下ヲ厭玉ハ又長ク侍坐スレハ別ニ菓  
子ヲ賜フ下アリ盃酒巡リ各我量ニ足ヌレハ先盃ヲト  
メサレテレ物指下リ侍出ノ者ニ賜フ酒モ悉キヲ禁スハ  
シハ毎ハ沙汰シ出テ意師ヨリ野曲ノ相手ニ出タル伶人  
ヤハ醉テ頭奉納ニ出テハ肴核サケレハ酒ハ解美也ト

枕に上りたり其下資腫入タレハ夫ハ玉シテ宣ハリ病  
患快復ノ祝杯ニハ必侍医ニ白シ其外ハ河原ニ医取出ル  
ナリ世庸ノ人悟坐スルヲ徳ヲナシ来賓ノ時ニテモ御  
坊主ヲ台ル、ナキカ独思木蘭翁、ミタマク台レテ眞  
ニモ出坐セリ凡酒宴ノ時興ハ半ナリ此上半時言上スレ  
ハ極テ納益シ玉フナレハ来賓アルノ外更ノ更ハナシ  
平生才短モ座ノ居玉フナリ嫌玉ヒ自ラ言流塵シ或時天  
性、酒造ニ那ク飲酒ヲ止メナキ却テ撰養ニ直シカレハ  
シト直ヒナレハ侍医某、公ハ酒ニ対シ快活シ玉ハハ  
シ、然日言笑ノ時ナリ神氣凝テ留飲気滞ナリ玉フハ  
シ、必大酒ハ度ニ玉フ可ナト奉奉リシトソ物語ノ時ハ  
古今和漢雅俗、ナリ片寄玉フナリ珠ニ近古厚族ノ下

ハ帝ニ好テ語り玉フ素ヨリ侍坐スル夫ハ長ナル所ニヨ  
リテ活シ玉、一活亮ニテ梓聴志自ラ董問ヲ蒙レリ河ニ  
テモ切迫ニ後論スルナリ嫌ヒ玉フ隠相ノ後ハ有月ノ外  
上郎ノ人ヲ台ル、ナリ稀ナルカ寛光公、近暇セシ起ヲ折  
ニ台キ古キ物語シ又、公、近暇セシ者ノモ折ニ活レテ  
酒ヲ賜フ其他外様ニテ元文武ニ長セル者ナト台レテ物  
活シ玉フナレハナリ  
吳岸寺美上野堂函山ノ病坊ヲ餘リ外一切浮屠氏ノ出入  
ヲ禁シ玉フ独真言ノ律傳湯田満寺ノ隠居法如ト云セ  
知識ニテ當時ノ驗者ナリトテ上野堂ヨリ在世中止人号  
ヲ賜ハリ此僧ハ人ハ大奥ニ出ルナリ得タリ公知雅ノ  
時多病ニテ屢危病ナリ有シカハ附ノ老姥本庄ナレテ

康吉祥院ニ祈誓シクル故当家ニ移ラセ玉ヒシ後モ其人  
ノ志ニヨリテ代拝ヲ遣ハサレケルカ其寺僧モ絶テ召シ  
シテナシマシテ五現ノ徒ハ固リ出入ヲ禁シ玉ヒリ○唐  
士某ノ妻血積痰痛強ク一年程ハ尚親族代ルニ兩手ニテ  
心下ヲ支一虎夕リ昼夜此ノ如クノ侍キヲモ緩ムシハ直  
ニ上衝シ為病ノ者モ痛ク苦ムト聞玉ヒ其親族ノ中近侍  
勤ムル地ニ題目不通唱一テ侍キヲ後メ見ルハ必衝心  
スル下ナシト曉シ玉ヒ乃チ病婦ニモ告ケ軀ヲ老教ノ如  
クナシケルニ聊上衝スル下ナシ平和也後ニ其故ヲ問ヒ  
答ルニ彼ノ家族法犯京ヲ信スト聞リ且キヲ復メハ上衝  
スル下ナシト病スル故ナシト答シタル故ナリハ曉シリ  
ル希リ何ノ理カ有シト笑ハセ玉フ○城南ニハ大竜王ノ

ノ初ナリ冥驗著ルキヲ以テ五穀豊熟ノ祈誓ヲ行ハセテ  
シ初宇郡造ノ命シテ至テ又旱魃ノ時自ラ其社殿ニ詣テ雨  
ヲ祈玉ヒシノ果ノ其驗ヤハ其後社宇ノ修理ヲ加フカセ  
テレシカハ土民迄傳信ノ雪祭ヲ時必ク此社ニ祈リケル  
カレシマモ其驗ヤリナシ又或時庶島明神ニ兩々祈ラシ  
物以名代ニテ越天宗千遍奉セシノ自ラ竜ノ一大字ヲ奉  
メ納メ玉ヒシカハ果ノ雨ヲ得テ諸民歡ヲナセリ此下相  
寄ニ向エテ有テヨリ願ケシハ又竜ノ一大字ヲ奉テ賜ヒ  
枇杷島村堀川ハ幡ノ堂殿ニ聽テ晴雨共ニ祈リ其冥驗著  
シトソ神仏共安ニ排傍ニ和テテ是亦ノ一二事ニテ  
其公天ノ心ヲ仰キ奉ル知ルハシ又詠歌ヲ奉テ其證ノ一  
端ト大白川ノ産キ神麻呂明神ニ納メ玉ヒシ歌

下野方よし又行あしものみわたりあゆむるにたまたまて  
釈迦、画、積

後の巻のよしをさるるをたぬかへたる母のよしをたぬかへたる

具岸幸恭情、時自茨和尙、卜物格アリシ後ヨマセ玉フ史  
物、端ニ風ヲ見セ玉フ歌

女官のよしをさるるをたぬかへたる母のよしをたぬかへたる  
仏ノ道ヲコトメ入ラシメテカシテナルヲ聞ユトテ

此のよしをさるるをたぬかへたる母のよしをたぬかへたる

公年若キ時ハ父由一輩ヲ心メ妻キ中年故事ヲ勤メ傍々  
成ニ成ト年老玉ヒテモ父由、業ハ庵セシメ又余際ヲ  
以テ以流ヲモ好シ玉フ由授ナト云ハ嫌ハ玉フナリ  
此由由ノ流ニ下リテ流シ當我流入木道各法ヲ後後伴助ニ

学ヒ又持明院家ハ代々昏ヲ以名テ凡家ナレハ其内才魔  
下人ト云傳石工内祥平ヲ格キ種ノ間セウシ其名今ニテ  
持明院春後基時姫ノ入門シ入木流兼法ノ由ヲ授玉フ其  
由縁頗多クク鏗櫃ノ前字指物、後名或ハ画旗短冊色紙  
ホニ至ル迄悉ク法則アリ就中額字ハ法則ハ珠ニ秘スル  
ナリルハ是モ皆由ヲ得玉フナリ松山徳重國モ春ヲ善クセ  
テレ東條ノ昏格士國本田安井加茂保老カ江户ノ末ニ時  
入門アリムニモ勸玉ノハ深由中一日治テ十二点ヲ習  
玉フ運筆ノ様余リ三行ハ十一ニ若古代ノ法ニ三有ンヤ  
ハ一度格ヲ習ヒ其後保老ノ高是悉昌井家ノ雜掌安田監  
物邊原ニ學玉フ只十二点ノトテ院テ次字ノ結体ヲ教ナ  
ルハ異ナルナリナレモ是ヲ熟セハ自ラ上代ノ筆意ニ叶ヒ



上代、筆意ニ叶ハ、即李唐、各法也、賞之玉ト加カク  
章ニ委ル口授ニ和後、古法惟ヨ多ク習得局ニ下サセ玉  
フ又持明院家ハ分法ヲ主トシ、今博士ハ在筆ヲ專トス小  
評シ玉フ何丁モ片寄ク掌フ丁、多ク好シ人ノ勸ニヨリテハ  
其道ヲ尚明シテ亦我リ素ヨリ各ハ規則ニ拘ハリ玉ハ子  
臣又筆ヲセテル、丁モアリ鳥獸ノ伎様アリ料紙ニハ墨  
痕眼目ニカ、テハル様ニ各ハ一ニ貴人ノ画際ノ賛ハ跋  
上ヲ懸テ各ハ一ニ及古人ノ心ヲ用ル丁厚クメ法ヲ定メ  
此物ナレハ字拙キモ、柱撰スハキニ亦ト宣一リ保  
同ハ世子ノ時前後赤壁ノ賦ヲ屏風ニ願ハセテ一  
字毎ニ草草、結構ヲ古キ風ニヨリテ局セテカハ例  
ナリ如何様ニテモ直ニカ、テハ言フ共有ケルニ草局ハ

聊ノ古筆ニテ述フ所アリト其カ云置シト云シ玉ノ肩背  
疾痛ノ比暫リ者各ヲ遠サテ百字ヲ事トシ玉ノ是カ为  
ニ拘宰ク患玉フ丁後ニテハ或時椅各ヲ評シ瓶柳ノ健ハ  
酒ニ智廣ノ温ハ高リ歌法ハ正メ得ト直トシカハ誠  
ニ自ラ一家ノ筆意ニテ健潤也或人朱文公ノ筆意ニ粗似  
タリトイヘリ後名文字ハ十四五ノ時近衛卿相因内前公  
ノ二十六歌仙ヲ聊習玉フノニナル也是モ自ラ一家ノ筆  
意也近衛孫永院殿下ハ近末、能登ニメ全リ李唐ノ筆法  
ヲ得テシシト帝ニ賞シ玉ハ時ノ人感賞セリ晚年政多クシ  
ニ似テ殊ニ勝シ玉ハ時ノ人感賞セリ晚年政多クシ  
ハ昏盲ニ玉ヲ物頗多シ九ヲ十洞ハ間ニ年ヲ求テ筆法  
我フ丁十ケレハ行丁ヲモ思慮工夫ノ操ヲ見奉テカレハ



へシ長秋の文高し凡句調聊つるに山家集の北面の時  
勝しシカ凡世ヲ拾テ後自在ニ過テ調ヲ失ハリ拾遺  
勝レタレ凡故事多ク煩シ全ニ集ハシテ拾遺モ  
年老ル迄我終テスハ直カゾト戲ニ格リ玉テ六家ヲ類  
題ニ玉ヒニ時後其四上脚門頓後ニ帝ヲ加玉テ如河有  
下河ヒニ後高四カフ一ニ帝ハ加一難シハ宜ヒ又  
新古今集ハリク面白シ古今ハ成度見テモ厭リ丁十ニ素  
朴中見下リ土佐日記ハ花実俗リ面白シト遠一リ  
房記ニ概シ行ハ土佐又歌ヲヨミ習フ丁十ニ肉奉リニ  
初学ノ者ハ新古今集時代ノ歌ヲ見尋ヒ讀ム云題ナリハ  
實ハ古歌ヲヨミシカウ此ハ五文字句所一七文字ヲ取集  
テ一首トスニ勉テ斯クスレハ初稿ニ一首調フ一ニ如

此數十首ヨミ習フ内ニハ自然河ヲ覚テ花ニ句ナリ月ヲ  
見テ已趣向淳七初モ自然ニ茂ク一首ヲ成ル得ル也然ル  
後様ニエヲ凡ニ玉葉凡雅ニ集ル如ク自在ニヨムハハシ夫  
ヨリ後ハ古今集新古今集又新初撰ニテモ何ニテモ我若  
ク所ヲヨムハハシ何レニ吟阻ヲ廢テ筆垣ニ玉テハハ自  
得セヌト教玉フ人ニヨリテ教倫ノ異ナル丁モアレモ大  
凡好ル昔趣ニ在シ玉ノリノ連教モ指シカシ玉テ茶也  
宮ニ百年点ノ時一橋一位治清卿ノ需ニテヨモセテシ  
丁モアリ退政後ハ在城中折ノ茂句ヲヨムセテテハ眠近  
句ト共ニ柳川河柳ノ忠ヲ乞ヒテ今ノ世ニ行ハル凡  
相トハ異也芭蕉ノ句集ヲ見テ勝レタル人物ナリハ廣セ  
テ凡固基ヲ基ハ知時習玉フノニ退政後余汝ノ時多ク

八卷ヲ用ニ玉一リ杖壺楊弓ハ世子ノ時取ナシ玉也

凡著述ニ玉ヲ昏數十アリテ安ニ他見ヲ許玉ハ不世内  
用杖會セテレシモアノ尺晩年ニ或ハ他杖ヲ會ニ但  
花月物語ハ遷テ人ニ許ソ見セムト定玉ヲ通雅  
物ハ自著ニ開板ヲ會セ稀此ハ其全公ノ著各ヲ他  
テ上様シタルモハ公ニ奉ル下ヲ所トセシ故都京外  
趣同ヨリモ皆任价ヲ於テ奉リテレハ是ホ珠ニ送忍  
此下ノ遺一リ大章道ハ他類數アリケレモ海島有上  
ニ玉フ  
古人ノ昏画兵器洞度ノ裝束テ好玉フニハ此レ尼當家ニ  
集メ置シテ水火世ニ金カレ下ノ厚意ヨリ寧ニ杖サ

也テレ金石楊本ノ類多ク集マシリ退賦ノ後上梓セシ述  
部類ヲ分テ玉一ハ其數十種アリ同テ外歌ヲ集百十種ト  
各分サセテ十種ハ凶器具カ劍旌旗佩飾鐘銘劍器尙  
儀典番扁額印章昏画文房ナリ初ハ古次昏ヲモ加一玉フ  
ハ十昏處ナリシカハ十昏用アリテ誤言昏換モサナカ  
大速ニ成難ナレハ是ハ逐年淨言ノ後ヲ待テシ史餘十五  
一リ集在十種數十卷ノ中ニ自テ百五ニモ少カラス  
斯レ俗ハ在ニ玉フ就中精細ヲ尽シ玉トシハ伊禮  
ノアナルハニ未校ハ玉ヲケル必モアレモ美汚ヲ得ハ  
再改ムハシ余リニ精粗ヲ倫スレハ塵穢ニ及ヒ終ニ果  
ナルヲモアル一ニハ菓ヲ決テ彫刻ヲ余シ玉フ此編集ハ  
世子ニ在也ニ時ヨリ金塔ニ玉心ニ下ニメ清昏ノ手ヲ下











玉の歌  
申来シト也 格和平威ニ 奏リ 奏内シ 全備シ 且ル 時ヨリ  
玉ノ歌  
申来シト也 格和平威ニ 奏リ 奏内シ 全備シ 且ル 時ヨリ  
玉ノ歌  
申来シト也 格和平威ニ 奏リ 奏内シ 全備シ 且ル 時ヨリ  
玉ノ歌  
申来シト也 格和平威ニ 奏リ 奏内シ 全備シ 且ル 時ヨリ

申来シト也 格和平威ニ 奏リ 奏内シ 全備シ 且ル 時ヨリ  
玉ノ歌  
申来シト也 格和平威ニ 奏リ 奏内シ 全備シ 且ル 時ヨリ  
玉ノ歌  
申来シト也 格和平威ニ 奏リ 奏内シ 全備シ 且ル 時ヨリ

玉ノ歌  
申来シト也 格和平威ニ 奏リ 奏内シ 全備シ 且ル 時ヨリ  
玉ノ歌  
申来シト也 格和平威ニ 奏リ 奏内シ 全備シ 且ル 時ヨリ  
玉ノ歌  
申来シト也 格和平威ニ 奏リ 奏内シ 全備シ 且ル 時ヨリ

至清の文の受りし書物

此巻物、田安の長巻清良、梅岡の書、高知の二、此合  
有り、子果、シ、去、ハ、川、シ、カ、今、斯、リ、十、七、不、一、ハ、カ、河、津、原、下  
ニ、テ、悦、玉、フ、リ、ン、ト、深、リ、感、懐、ナ、シ、ト、也、  
本朝古代、墨、張、西、野、大、師、道、以、朝、臣、ヲ、始、メ、定、古、ノ、珍、巻、  
至、迄、模、写、ヲ、得、シ、一、速、ニ、鑑、刻、ト、シ、テ、人、前、取、相、ハ、筆、跡、長、及、筆、  
縁、起、シ、履、物、ト、名、古、代、ノ、筆、直、ヲ、全、リ、存、シ、テ、凡、ル、者、十、山、道、火、  
次、大、ニ、失、シ、テ、遺、憾、ナ、リ、速、ニ、上、梓、ヤ、リ、唐、山、ノ、古、ノ、真、蹟、又、  
ソ、十、キ、法、帖、ハ、余、多、撰、刻、ヲ、余、セ、テ、其、寺、ノ、面、合、古、火、  
ハ、浩、瀚、ニ、シ、世、ニ、カ、シ、シ、ハ、滋、性、ノ、模、写、セ、シ、テ、其、外、古、火、  
古、登、極、ノ、所、産、ハ、汗、牛、充、棟、ト、云、フ、一、知、命、更、幅、物、ト、諸、家、和、漢、  
ノ、贈、進、見、エ、ナ、リ、更、ニ、一、藏、シ、テ、瓜、分、ノ、鑒、定、ニ、モ、勝、ル、世、玉、  
ハ、并、シ、類、本、層、岡、故、実、ハ、將、即、往、古、ノ、俗、亦、リ、モ、乞、奉、リ、  
至、教、ヲ、得、テ、并、セ、シ、ト、也、カ、リ、各、處、ニ、心、ヲ、寄、玉、一、氏、世、ノ、耽、  
好、ハ、ル、者、ト、ハ、大、ニ、異、ニ、ノ、和、漢、古、今、ト、ナ、リ、善、キ、ハ、善、キ、惡、  
キ、ハ、惡、キ、後、ニ、モ、危、守、玉、ハ、又、楸、幅、卷、軸、又、手、鑑、ノ、類、一、時、耽、  
弄、ノ、物、ヲ、得、ン、コ、リ、家、ノ、道、具、ト、ナ、ル、一、キ、考、ヲ、求、玉、テ、故、後、  
合、意、ニ、ト、ハ、シ、速、安、ニ、黄、金、ヲ、擲、テ、於、水、玉、ト、シ、テ、十、世、ニ、  
ニ、ソ、十、キ、者、ハ、帝、費、ヲ、厭、ハ、テ、可、置、セ、玉、ヲ、シ、テ、祖、公、ヨ、リ、  
傳、束、ヲ、秘、蔵、中、ニ、收、護、シ、株、株、一、對、幅、アリ、シ、カ、如、何、十、二、丁、  
ニ、カ、先、口、ヲ、身、此、遺、徳、ヲ、思、玉、セ、シ、カ、厚、和、中、或、由、人、ノ、古、キ、  
度、也、本、餘、多、持、来、シ、中、ニ、牧、淡、ノ、株、一、幅、アリ、素、紙、ノ、銘、本、モ、  
古、ノ、記、録、ノ、存、合、セ、リ、一、幅、ハ、竹、所、知、シ、ト、法、一、幅、ヲ、得、シ、  
祖、公、秘、蔵、物、ノ、証、ア、リ、廣、ニ、天、授、ト、云、フ、シ、ト、後、上、テ、求、玉、

ハ、并、シ、類、本、層、岡、故、実、ハ、將、即、往、古、ノ、俗、亦、リ、モ、乞、奉、リ、  
至、教、ヲ、得、テ、并、セ、シ、ト、也、カ、リ、各、處、ニ、心、ヲ、寄、玉、一、氏、世、ノ、耽、  
好、ハ、ル、者、ト、ハ、大、ニ、異、ニ、ノ、和、漢、古、今、ト、ナ、リ、善、キ、ハ、善、キ、惡、  
キ、ハ、惡、キ、後、ニ、モ、危、守、玉、ハ、又、楸、幅、卷、軸、又、手、鑑、ノ、類、一、時、耽、  
弄、ノ、物、ヲ、得、ン、コ、リ、家、ノ、道、具、ト、ナ、ル、一、キ、考、ヲ、求、玉、テ、故、後、  
合、意、ニ、ト、ハ、シ、速、安、ニ、黄、金、ヲ、擲、テ、於、水、玉、ト、シ、テ、十、世、ニ、  
ニ、ソ、十、キ、者、ハ、帝、費、ヲ、厭、ハ、テ、可、置、セ、玉、ヲ、シ、テ、祖、公、ヨ、リ、  
傳、束、ヲ、秘、蔵、中、ニ、收、護、シ、株、株、一、對、幅、アリ、シ、カ、如、何、十、二、丁、  
ニ、カ、先、口、ヲ、身、此、遺、徳、ヲ、思、玉、セ、シ、カ、厚、和、中、或、由、人、ノ、古、キ、  
度、也、本、餘、多、持、来、シ、中、ニ、牧、淡、ノ、株、一、幅、アリ、素、紙、ノ、銘、本、モ、  
古、ノ、記、録、ノ、存、合、セ、リ、一、幅、ハ、竹、所、知、シ、ト、法、一、幅、ヲ、得、シ、  
祖、公、秘、蔵、物、ノ、証、ア、リ、廣、ニ、天、授、ト、云、フ、シ、ト、後、上、テ、求、玉、

ハリ又或時朱父公ノ裔孫明ノ朱某父少自草ノ有像ヲ可  
シ立瓊山ノ法名家題費シタル掛幅立即ヨリ朱凡世價  
冊金也珍キニナリ速ニ見奉ニ俗ニ一曉ノ後返還ス  
ハシノ實ヲ故近侍ノ輩斯ル者ナリ何逆空リ返シ玉フヤ  
下洞々トシテ朱子ノ有流ヲ致翁父尼河ノ用ヲカキナシ  
子ヲ法用セハ成價ニテ語炎ホノ瓜ヲ多ク救メ侍生ニ与  
ハキニ如何計非ノ用ヲ為シ史ガシモ忍シ至テ先色無リ  
シハノ  
公ノ好ミニテ製セテル月影愛種花紅葉赤四季ノ十金  
大シ由保ノ方ニ賜シテ下向ノ錦備ノ欠様入錦卷鳥藤赤  
御美大ノ古代ノ本包ヲ匿出ノ命シ玉ヒシヨリ世上ニ于  
摸擬ノ依ルルモアリ其外埋木榴花鳥榴ノ色紙ノ美種ノ

製セシノ西傳ニ傳シシ織成シタル松島切ハ若竹タル  
表装或ハ標紙ニ用井親キ方ニモ贈ラセラル又古色ニ  
餅出セシモ了リ北余茶入ノ囊杯ニ用ラシシ紋様數枚  
少々替紙ヲ改テ藏板摺主ヲ命シ玉フリハ好ミニテ  
如シ玉フテ三ニ進テ同家奉向ノ財ヲ費サシシ丁力シ園  
庭ノ栽培時々酒廣或ハ侍衆ノ合ホ皆手元ノ金ヲ以テ  
併セカセシシ其手元ノ金モ昔ヨリハ造半減セラシシ也  
酒肴杯有各ニ任セ又ハ有公タル軌典幅物一二種ニ過ス  
或時楊山ノ別荘ニ時ニ玉ヒ居居ノ者ト於辭テ物語リシ  
經節ノ醬油ヲカゲシトウシ以テ塩漬ハ有テ酒ノ  
賜ラシト也○因春ノ製造モ多ク二應ノ有一キ品ハ表ノ入費  
出長正燦遠思分皆摩元有餘年而製シ玉フ表ニ製シ玉  
願

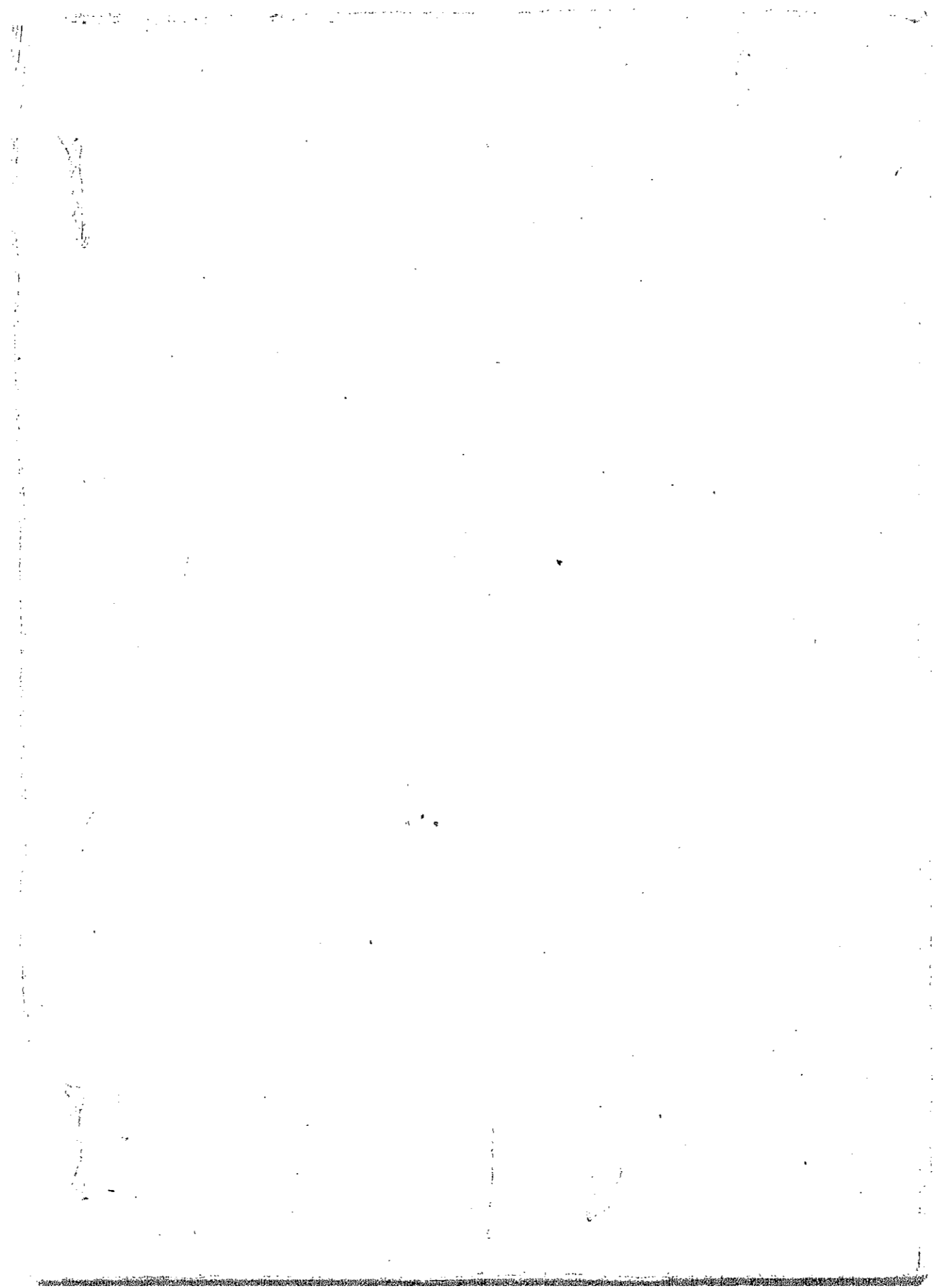
和服故ニ腹巻一領七八年ヲ歷テカシク製造ノ了ニ有  
リ古製ノ體令世ノ胸丸一領華ノ胸丸一領外ニ好三ノ體  
一領洋洋流上リ出リリ凡平生一身ノ不自由ハ顧玉ハ  
不衣能注ノ三ノ所志ニ其有金ヲ以テ子孫ノ為國家ノ  
倫ニナル一キ物ヲ新調ニ或ハ古製貴入ハ半洞度刀劍ノ  
美珍器ノ一キ物ヲ多ク求玉フ故ニ文化ノ四流ニ府庫多  
ク燒失刀劍貴器ノ所ニセシカ近年從補行玉ヒテ旧ニ倍  
セシトハ晩年ニ我亦衣食ノ節シ種ニ製シ置リハ我物ニ  
ノ我物ノ派大皆存孫ノ物也令ニモ上郎ニテ用ハキ者ア  
ラシ出レ用ハシ入帝ニ斯ル馬アリト知ルハ一キ為尚後ノ  
前道具始用シ置ハシ上郎ノ用ハ別段ニ建シ置シト  
知ルハ或時娘君ヨリシカハハ恩謝ニ何ナカ奉リ也奉リ

シハ伺玉ヒシニ天鷲絨ノ卓纏ノ望玉ヲ其後侍臣ニ物語  
アリテ机上ニ天鷲絨ヲ張リハ時ヲツリニ柔力ニ冬ノ日華  
枕ルニモ寒カラスノヨカラント年以思ヒシニ果ノヨシ  
ト宣ヒテハ斯リ思召サハ疾ク命シ玉フ一キニ七十迄  
ク成セウルハ迄何速命シ玉ハナリシト伺ヒケルニ驕ノ  
トナトハ今迄ハ題ヒカリト宣ハリハ心ヲ知奉リサ  
ル者ハ儉ニ退女ノ様ニ唱ル者アル可レ世ノ上駑奢ノ目  
主リ見止故ニテ世用ノ下ニハ候シ玉ヒ死有用ノ下ニハ  
以シニ金銀ヲ惜玉ハ下ナシ終身ノ事業十一万石ノ高  
ニテ成ルハキ下死賞ニ別テ不慶花金ノ備モ立タレハ  
世ニ終ナルトト云ハレ  
昔ヨリ英雄ノ主モ始儀リ功業ヲ立レ死後ニハ急生ノ後



世、後論、先、此、者、多、也、其、以、其、時、居、子、過、慮、也、  
公、未、以、三、十、餘、歲、一、天、下、大、名、之、成、也、退、居、閑、地、居、五、  
八、恐、以、始、有、之、後、全、力、以、其、下、之、計、難、也、思、奉、之、  
二、公、之、漢、桓、兩、居、于、愈、行、之、知、人、年、之、應、之、愈、遠、之、術、  
莫、府、之、思、退、石、氏、之、瞻、望、替、也、下、之、遂、也、終、之、全、之、也、  
希、世、之、賢、君、下、之、也、是、皆、臣、子、之、私、意、也、非、大、實、也、天、下、  
見、此、所、也、

守國山出傳記卷之



舟國公御傳記

共三



安國公御傳記卷之



此文武ノ修行ハ終身急リ玉ハス  
 惠德公及諸公子方近  
 侍ノ臣ヨリ外臣ニ至迄年少ノ者ヲ教導シ玉フ  
 尤能切  
 十ヨリ自ラ日課ヲ修テ年少ノ者侍ヲ皆看起セリ又諸  
 種ノ工夫ヲ加ヘサセテ射ノ術ヲ有志ノ者ニ傳フ  
 一キ賢慮ニテ先ツ近侍ノ輩ニ教ヘ試ミンガ年少ノ者三  
 人ヲ以テ姓ニ命シ玉フ當時ノ騎射ハ只一方ニ放ツノミナ  
 ルヲ左右ニ面縱横ニ射ル一キ工夫有リテ其法速ニ行レ  
 必リ築地ノ馬場ノ騎射ニ便ナシト述大冢ノ邸内ニ百間  
 余ノ馬場ヲ修テ之ノ的ヲ左右ニ五々所ニ面ニ一々所懸  
 テ之ヲ演習セリ  
 〇公常ニ直ニケルハ眞茶園基ノ麓ヲ樂

ムハ老人ノ常ナレバ我短所ナルニヤ此ホノ下ニテハ  
血運轉セズ却テ鬱居ルニ似ソリ武林才ナセハ陽氣ニ  
移リ気力清爽ヲ覚ルナリトテ平時外世ノ外ハ帝ニ到  
乃チ度シ玉フナシ如ニ出ル童冠ノ臣下ニハ臨奉ヲ賜  
ニ運業ノ法ヲモ授ケ又徑分ヲ暗誦セシメ或ハ侍臣ニ兵  
学ヲ口授シ或ハ野曲笛曲ヲ教一者各々守ハ固ヨリ尚  
アラセラレハ笛玉時々美ヒテ養完ハ助リナシ餘隙ニハ  
園中草木ホ自ラ培養アリテ長十日モ更ニ長シトシ玉ハ  
ス〇或時上邸ヨリ既ニ七十ニ近付玉ハ夜令壯健ニ在  
スハ朝夕奉事ノ侍女寡少ナレハ其筑ヲ増シテ怨ニ乞  
玉ヒケレハ我老情ヲ慰セシトノ厚老老悦ニ堪ス因テ胸  
底ヲ叩キテ語ルハシ陰和ノ近侍ハ六人ニテ下足ナルニ

合後意如  
武野燭習  
玉

非天欲ルニ近來朝夕専ラ武事ヲナシテ樂ハ故老体ニ健  
ニナリシト覺上レハ根系ヲ為強演習セシト思フ也此ヲ  
以テ六人ニテハ直中暇ナリ自ラ相争ヒ心ニ任セズ今  
侍女ヲ増玉ハシテ日リ年々ノ男子ニ三人増テ近侍ニ命セ  
ウレヨ相争トナシテ老ヲ養ハシトテ此度命セラレシ人  
伽心人命セテハ送前ハ側六人トテ勤ヲ此命セラレシ  
膳心仕ヲ元身侍強健ニ成セシ後ノ勤ヲ益々命セラレシ  
勤メタリテ身強健ニ成セシ後ノ勤ヲ益々命セラレシ  
自今ノ扁額ヲ掲ケ玉ハ其劍ノ形武所ヲ益々命セラレシ  
テハ具ニ創製シテ寒暄柔道ヲ藝古ノ始メ玉ハ切ニ止メ  
サント具ノ賢慮ヨリ寒暄柔道ヲ藝古ノ始メ玉ハ切ニ止メ  
烈寒ノ時早起ノ勞ヲ掛念アリテ誓古ノ始メ玉ハ切ニ止メ  
サハ言ニ送ヒ南間ノ誓古ニ改玉ヲ老後ニ

及ヒテハ後更人ノ言フ所ニ於ハク身体ニ志セサル下  
強テナシ玉ハス  
樂中ニ七弦ノ琴ヲ和奏スル下ヲ七十二成セリ始テ山  
井内茂助下云俗家ニ学テ大ニ熟シ玉ト越天樂青海波ホ  
奏樂ノ時目ヲ單シ微音ニテ相和ハル下ヲ愛シ玉ヲ〇  
詠曲ヲ学ニ使近侍ノ臣ヲ持明院家ノ弟子トナシ又催鳥  
樂神樂ヲ習ヒ重臣或ハ暇近ノ者ヲ集メ酒宴ノ余興ニハ  
旬ヲモ詠シ人ニ毛儀ハシメテ樂ニ玉ヲ  
文化十三年丙二月十一日知余ノ年賀ヲ保國公ヨリ祝  
進マセリ思遇始終易ル下ナキニテナリ且例ナキ宮席ニ  
保國公席ヲ滿ノ間ニ進メ侍足ニ任セサセリレハ慶遇ノ

深キ少感戴シ此度年賀ニ托シ扱シ玉ヲ一キ内唐ニテ三  
家ニ御方始メ贈進ノ品和漢ノ唇昼幅床錦ホノ類數多用  
意アリシカ故有テ年月ヲ任今年五十九歳ノ春此處ノ同  
キ玉ヲ甲冑及自写ノ款集卷袖冊子ノ裝白銀若干添テ  
北君保國公以下公子姫君ノ方ニ祝ヒ進セ玉ト又祝儀  
ノ期ニ先立テ一橋兩御田安紀州家ヲ首トシ親戚ノ四主  
城主滿信ノ到俟其外抗以泰江法用取次衆相繼ノ諸侯幕  
下ノ士大夫大志込大ノ賀品輻湊山積シ候江戸白川老臣及自余恩  
家贈来千百ノ賀品輻湊山積シ候江戸白川老臣及自余恩  
遇ヲ戴ナシ七日リ祝儀ノ品數リ何レモ其宜ニ施ヒ奉物  
夫ノ今千賜ノリ世ニ遺物ト死後ニ物ヲ贈ル習ナリヲ  
公ニハ此時奉物ヲ以テ他日遺物ノ贈贈ハ廢シ玉才主意

也トソの同月廿一日後宴ト稱シ上臈ヨリ保岡公始メ  
 室家奉テ隱栖ニ未ウセシ老臣用人以下古出シ宴ヲ賜  
 フ御女侍臣以下賜ハ下ノ吏田安邸ヨリノ附人ニハ一種一物  
 一白銀添テ賜ヒ又同戚アル得紳家ニモ魚テ奉物贈進ア  
 リケレハ近所家ヲ始メ皆賀物奉詠ヲ贈リ未ナシ其他幕  
 下藩中遠近ノ士庶ヨリ賀章ヲ贈呈シ且水野為長ハ廣リ  
 求メテ奉リシ待歌ト合セ其數裁許ナル下ヲ知ラズ卷十  
 シ至是亦ニ振ス一キ為豫人意師ニ於テ古今ノ様ハ盈  
 千枚ヲ造ラシメ玉ノリ如命ニ且ノ詠弄  
 梓弓のちのまをたのむるはかたがたのちのち  
 此度ノ賀進ニ  
 幣のまをたのむるはかたがたのちのち

此後耳順一賀ヲモ保岡公ヨリ乞ヒラレシカ梓シ玉ヒ  
 只上所夫婦ノ居格代儀及ハ嫁シ玉ヒタル姫君ノ方ニ  
 三指カテラシ内庭ヲ向キ保岡公ノ志ニ酬ヒ玉フ其年  
 元旦ノ試筆  
 又六十一ニ成ヒ玉フ春  
 又六十一ニ成ヒ玉フ春

〇文以十年訂三月十五日今春古株ノ齡ニナラセシ  
 保岡公ヨリ年賀ノ丁願ヒ玉ヒ一橋後同御ヨリ促サレシ  
 ル故黙止シ玉ヒ難ク殊ニ北ノ君モ耳順ノ齡ニ及ヒ  
 惠波公婚儀アリテ三夫婦佳儀在シ玉フヲ祝フハシ已ニ  
 知命ノ賀ニ意ヲ寓シ思遇ヲ仰キ奉レシ此回ハ神田新橋

勸ニ對ヒ 九年ノ志ヲ遂ルニミテ事ヲ輕クシ近親  
カリニ當方ヨリ沙汰ス可ウストノ余也抑當家ニ於テ也  
旬ノ齡ヲ保テ玉ヒシハ 田鏡公ノ外在ナク況ヤ三夫婦  
相立テ繁昌ニ玉フヤ昔日ノ秋旅ニ於テ三夫婦ノ方シ  
打揃ヒ玉ヒテ賀造ノ祝式アリ松山松代西尾始メ子孫ノ  
方ヨリ賀物捧ケ玉ヒ一橋田安兩御齋州榮翁老侯ヨリ  
賜テ老臣以下諸有司侍臣内侍女ニ各一橋後同御ヨリ  
物奉ル下難ク附賀報礼ヲ十玉一リ一橋後同御ヨリ  
船キニ心ヲ難ク附賀報礼ヲ十玉一リ一橋後同御ヨリ  
カテ高壽後ノ料紙規管鮮鯛添テ献シ玉フ此賀造ノ歌  
何

此 是 日 六 十 三 十 日 玉 子 賀 玉 子  
同 年 八 月 白 河 温 泉 浴 療 シ 且 佳 興 因 一 宮 格 全 明 神  
ハ 素 願 ア リ ケ シ 奉 指 ノ 下 願 玉 子 同 十 日 許  
シ 玉 子 也

斯 少 ナ カ リ シ 改 仕 後 ナ レ 八 珠 二 人 負 才 賦 シ 膳 着  
己 只 女 ア ル 任 セ テ 奠 物 奉 連 日 奉 子 十 七 月 阿 河  
世 日 白 河 近 年 玉 子 保 固 公 白 坂 驛 道 騎 馬 ニ テ 出  
近 五 日 盃 酒 ヲ 進 メ 畢 テ 枕 城 中 ニ テ 待 奉 ン ト 連 二 膳

川返ラセヨル已ニ封内ニ入セリシ海道、並木梢高ク生  
茂リタルヲ見玉フ

生茂るさきのものくろのけりかたのむらしきものむらしきものむらしきもの

此以ノ並木ヲ始メ眼ニ満ルルハ、清木生茂リタルハ初  
次、此植サセヨリシ苗木ナレバカク欲シ玉トシナルハ  
之南河、水西送ニ見エケレシ

此河昔兼殿生安リタル荒蕪、地ナリシヲ南キテ水ヲ

蓄メ農民ノ賜トナシ玉ヒシ也。○白河ニ稅駕アリテ甲子  
ハヨリ沸出ル濕氣ヲ汲来ラシメ入浴シ玉フ船ニ保固  
ヲヨリ、此宮中ノ居座ヲ設ケルハ、何ハセリシニ必  
ズ新設ク可クテス。暫時ノ遲延ナレバ何方ニテモ直キ音

谷玉ヒシ故常居ノ室ヲ公ノ座取トシ保固公ハ武藝  
ヲ替古取ニ屏風ヲ圍ヒ寓居アリセラレシヲ見玉ヒテ意  
父トハシメシヨリ孝子トハシメシニハ如シ松島極  
登游覽中ニ一室ヲ造ム一シト有リニ、屋シ玉フ○雪ノ降  
リハ昨日ニ極登ニ指シ建廿三日白河ヲ渡途シ玉フ如  
炭谷宗貞守使ハ當カ政治ヲ洛撰シ懇交ニ在シケレハ封  
境伊達、大木戸迄侍臣炭野勇吾ニ代官ヲ添テ出シ置シ  
管内先導極送シ所用ヲ弁セシメ玉フ、廿八日潔斎ノ極登  
明神ニ参詣アリ夫ヨリ法蓮寺勝幽樓ニ登リ海上ヲ眺望  
シ玉フ極登、浦ヨリ松島ノ辺迄一目眺景ナリ珠ニ奇観  
ナリ時雨ノ雲漸晴シテ遠キ島ノ音傳ル出シカハ

是の中ニ... (vertical text)



この書は、*Shinshu* (新書) の一冊である。

これは、*Shinshu* (新書) の一冊である。

これは、*Shinshu* (新書) の一冊である。

これは、*Shinshu* (新書) の一冊である。

これは、*Shinshu* (新書) の一冊である。

これは、*Shinshu* (新書) の一冊である。

これは、*Shinshu* (新書) の一冊である。

これは、*Shinshu* (新書) の一冊である。

これは、*Shinshu* (新書) の一冊である。

これは、*Shinshu* (新書) の一冊である。

これは、*Shinshu* (新書) の一冊である。

これは、*Shinshu* (新書) の一冊である。

これは、*Shinshu* (新書) の一冊である。

これは、*Shinshu* (新書) の一冊である。

これは、*Shinshu* (新書) の一冊である。

これは、*Shinshu* (新書) の一冊である。

これは、*Shinshu* (新書) の一冊である。

これは、*Shinshu* (新書) の一冊である。

これは、*Shinshu* (新書) の一冊である。

これは、*Shinshu* (新書) の一冊である。

これは、*Shinshu* (新書) の一冊である。

これは、*Shinshu* (新書) の一冊である。

これは、*Shinshu* (新書) の一冊である。

これは、*Shinshu* (新書) の一冊である。

これは、*Shinshu* (新書) の一冊である。

これは、*Shinshu* (新書) の一冊である。

これは、*Shinshu* (新書) の一冊である。

これは、*Shinshu* (新書) の一冊である。

世九日仙臺ノ城下宿シ玉ノハ疾マリ心ヲ尽ノ種ノ穢  
此玉ノハ汁五葉ノ睡羞是者ニ薄暮仙岳院ノ佳哉瑞鳳寺  
和南善シ名ヲ得タリ一種ヲ捧ケ旅中ノ勤耕ヲ伺ケシ  
此出テ酒盃ノ賜ニ席上昏垂ヲ揮洒セリ古梁ノ庭ニ山

ト直ニニ返歌ヲ唇テ扱シ玉ノ函前ニ端居シテ飽巨龍座  
ヲ極メ日暮ニ及ヒ人ノヲ召シ酒ヲ賜ニ泉祐ニ席画ヲ十  
廿シ人歌ヲヨマヒ玉ヲ

松島やわさめおのちの松島はなはたの松島はなはたの松島  
あまの月見の松島の松島の松島の松島の松島の松島の松島  
松島の松島の松島の松島の松島の松島の松島の松島の松島

景ヲ写サシ玉ノ須臾ノ向松島ニ着岸アリテ月見殿  
宿リ玉ヲ祖殿ノ昔豊大肉聚集ノ屋宇ヲ分テ月見殿  
疾ヨリ泳ギテ添テ未ニ松山ノ松材ヲ以テ軸ニ佐リタ  
車及ニ函産ノ金海流ヲ贈リ玉ヲ

あまの月見の松島の松島の松島の松島の松島の松島の松島

トアリケシ

庵ト云一集アリ又夜葉トナツク寧匙ノ願奉リ一首ノ具  
ヲ賜フ

考めたる人ノ名ノ記シテ後ノ遺言ヲ見ルカ

是ヨリ先キ庚ヨリ封内ノ旅館ヲ始通行ノ道路何事モ新  
ニ取設ルニ及ハズ凡流ノ所ヲナク可クスト村家ニ至ル  
迄示サレシク珍キト也ト古梁語シリ又菅野勇吉ノ公ハ  
世ヲ逾シ玉ヒテモ出着ヲ海ノ至ヘルヲ誠ニ左モアル  
キト也ト歌賦シ且近侍ノ臣六人ノモニテ諸事并シ成素  
輕便ナルヲ大ニ感賞セシトリ○斯テ再ヒ白河ニ帰リ玉  
一ハ人ノ歡欣ノ起居ヲ候スル者多ク或ハ古器物硯林ノ  
賞奉ルモアリシカ太守ノ感梅ヲ好ケシトテ俸リヲ殊ニ  
謙遜ニ在リ玉フノ游覧前夜白川滯留中朝陽山神廟ヲ

拜シ鎮守康寛社ニ詣シ一藩諸士拜福ヲ命セラル入或時  
ハ紅葉山ニ遊ヒ玉ヒテ

年々ノ行儀モハシク林ノ木ノ影ノ長クシ

ソレヨリ嵯山ニ行ヒテ昔近侍トシ人ノヲ古シ酒ヲ賜  
ヒテ

年々ノ行儀モハシク林ノ木ノ影ノ長クシ

及見ルニ昔ノ影ノ長クシ林ノ木ノ影ノ長クシ

ト詠歌アリ入或時ノ感應鑑ヲ觀シ此後年暇迄セシ外臣

ヲ古テ酒ヲ賜ヒ或ハ昔近侍トシ有リ送一テ古閑蹟ヲ

尋テ酒ヲ賜ヒ歌ヲ詠シ玉フ

とめノ心算ハ川ノ真ニシトテ行ヒテ新カクシ

或家流真  
字長臣  
又此道深  
キ者委直  
ハセシ

斯ノ旧事ヲ忘レ玉ハス待遇ノ厚キヲ人ニ仰キ奉レリ又  
保田公近眼ノ輩ト漢弓ヲ以テ的射シ玉ヲヲ関シ或ハ昔  
創草有セリシニ輕卒院隊疾炭ノ法逐年熟練セシト聞セ  
シレ和尙曲輪ニテ一覽アリ或ハ学校ニ在リ教授学詠句  
詩師ヲ召テ諸生ハ業ヲ向セリ且尙流師ニ諸生ハ草木  
ノ妙前草ノ時ヨリ直ク生立ナハ花実モ早ク開熟ス一シ  
就中ヨキ花ハ養難キ者ナレ氏前草ヲ善ク養育スレハ秀  
ナル人材モ出ル者也候此上心ヲ用ヒシト委リ教諭シ或  
苑ノ替古所卷リ巡覽シ玉ク近キ此真鍋大助南ノ陸吉ニ  
人共ニ一貫目ノ鉄炮ヲ抱打メ月俸ヲ賞賜アリト聞玉ヒ  
辱院ニ召シ其素クメヲ見玉フ所範坂中茂六ノ門モ同リ  
其業ヲナセリ○九月廿三日御別ノ内保田公ニ酒ヲ勸

又玉ヲ用人近眼ノ者モ任レ皆咫尺ノ侍セシノ親ク物指  
アリテ保田公ノ心ヲ尽メ奉養シ玉フメヲ奉祝ノ余リ  
人ニニモ誇リ玉ハハ行レモ感銘セシトナリ廿四日白川  
ヲ炭興シ玉フ政任ノ後ナレハ有司ヲ限リ送奉ル一キ例  
ナレ氏一藩一輩皆送奉ラントナリ病ニ希フ由保田公聞  
セリシサナハ皆出一シリ命セリ且通行ノ時容給メモ  
伺ハス平伏セリ送奉ルに任ナシ我前ヲ通行ノ時ノニ平伏  
シ余ハ頭ヲ上テ見奉ルハシト云ヒ玉フヲ公聞セリ  
君臣ノ間ノ親キヲ母ニ悦玉フ農工商ニ至迄深リ公  
欣慕ニ奉リ路傍ニ躰跪メ送近シ奉レリ白坂ノ駅迄保  
田公送玉ハ白毛ノ葉ヲ奉ラセリ歌ヲ詠シ玉フ

白毛ノ葉ヲ奉ラセリ歌ヲ詠シ玉フ

又所ヨリ献シタル酒肴ヲ贈ラセテ南湖ノ共楽事ニ  
行テ終日與シ玉ノ慰テヤカテ立出玉テ廿九日江戸ニ  
归駕アリテ 將軍家ノ献上ヲ好ソレク土産ヲ贈リ玉  
ニ又此度供奉ノ輩人少ニテ滞碍ナク勤勞セシテ費ノ河  
舟及金ヲ玉ノ允意沖行ハ壯年ヨリ老後ニ至ル迄必曉  
寅ニ打立テ夕申過ル此ニ尚ラセ玉ト夜ニ入挑灯ヲ用シ  
テ後テナシ途申ノ休息モ篤クホ暫ク肩ヲ息メ食畢ル  
ヲ待テ速ニ立出其身ノ休息ニハナシ玉ハサレハ壯年  
ヨリ供奉セシ儀下ノ長シケルハ此度ハ老年ニ在セハ昔  
トハカハハラセ玉フツシト思ヒシニ聊カハリ玉ハス下賤  
ノ七八早羨シテ早商シ玉ハ大ニ逸スルテ得ルナリ  
其情実ヲ知リテカリナシ玉フツノ有難シトテ只管仰キ

奉シリ○奉仕中ハ秋後吉野ノ花須六明石ノ月見シ杯  
折シ物措アテセシレシカ徳細十八年ノ間旅行ハ此時  
ノミナリ其他旅行ノ催ホハ更ニ伺ニ奉ラス九物ヲ尽ス  
テ自戒ノ玉ヲ次ナルハシ屏篋ノ後富士ノ松島ノ勝名  
ナキテヲ記シ殊ニ松島ヲ愛シ玉一  
又改六年癸卯二月廿四日保国公伊勢國素名ニ復封ノ  
台命ヲ蒙リ玉フレ時房松ニ四海ニ警備ノ切務ヲ責セラ  
普鎮國公素名ノ城主ト感玉ヒシヨリ三代ノ旧地ナシハ  
極テ殊恩ヲ感戴アラセシレ藩臣モ多クハ祖先ノ住地ナ  
レハ上下村耀シ且今年二月ハ崇源公ニ百年ノ忌ニ當リ  
ケレハ柄連感亮ノ情一層ヲ加ヘケリ公素名ヲ去リ玆  
三年ニ到リ又十然ニ一藩家族ヲ引纏ヒテ百五十里ノ行

程ヲ轉居スルナレハ凡百用度少ナカラス配慮多端一  
時節ナレハ老体ヲ惱シ奉ルハ裕アレハ國家ノ為心ヲ添  
サセ玉ヘハ保國公ヨリ切ニ願ハセラレ有可ホモ共ニ  
庶政シ奉リケレハ國家ノ一助トナル一キナラハ力ヲ  
尽スヘシト肯口玉ヒ夫ヨリ上邸ノ緊用凡百事件ハ悉ク  
冊子ニ筆記シ玉ヒシトソ或日私邸ニ風雲録ト云冊子ア  
リ近時ノ輩如何ナル冊子ニヤト伺ヒケレハ上邸一用事  
ヲ各留ル也我月迄ノ樂ヲ好ケタレハ戲ニカリハ名付シ  
ト微笑シ玉ヘリ凡流ヲ雜務中ニ存セラレシ隱栖一雅隊  
思フ一ソ○素名ニ轉送スル一藩ノ諸士何レモ江戸ヲ通  
行スルナレハ重臣ノ中年老々ル者或ハ久ク有リテ勢  
人シ者又近頃近セシ者杯隱栖ニ出起居ヲ候スル者ニハ

皆拝謁ヲ命シ適宜ニ以テ餞別ヲ賜ヘリ今其一ニヲ奉リ  
家族暇ヲ石見ニ遊御土ノ久別ヲ惜ミ白川ノ紅葉廉シク  
霜ニ染タル一杖ヲ奉リケレハ直ニ歌ヲ賜フ  
御書見下<sup>た</sup>た<sup>き</sup>を<sup>ま</sup>の<sup>か</sup>ら<sup>か</sup>へ<sup>る</sup>隱<sup>栖</sup>の<sup>ゆ</sup>き<sup>り</sup>ハ  
老臣服ヲ奉成改仕ノ日記ト号シ合記スルナラハ老後、一  
樂トス白美鬚長ク毛タルヨウ玉ヒ兼テ髯ノ髯囊ヲ賜ヒ  
シカ今度素名ノ將後スル時合面ヲ待セラレシニ江戸ヲ  
过テ直ニ岳川ニ宿セシト聞玉ヒ八旬ヲ越タル共ナレハ  
再逢フハナキ期ナシ老体ヲ勞スレハ隱栖ニ出ハシト命ヲ  
傳ハサセラレ則思賜ノ髯囊ヲ飾リテ出ケレハ大ニ悦ハ  
セラレ優待ノ上物ヲ玉ヒ又又十一月十五日大原河原ニ  
行玉フ途中六郷ノ渡辺ニテ後ヨリ梶川治左ノ山崎勝カ

祖母九十余才ナルカ夫レリト聞セラレテ暫時侍  
ヲメ治左門ニ乘輿、マ、伴ヒ夫ルハシト命シ駕籠近  
ク立寄セラレ狼河アリテ旅中ノ寒威ヲ防リ、シ史綿子  
儒半ヲ賜ヒケレハ女子共ニ感泣ノ仁惠ノ深キヲ捧謝セ  
リ、公年少ノ時ヨリ老共ヲ憐ミ玉フ下味ニ深クテ此  
ノ如キ委ニガナカウ又、東海道程ケ玉フ下味ニ深クテ此  
ノ接シ難ルハ由テ、又、東海道程ケ玉フ下味ニ深クテ此  
兼シ居ルハ、白川藩トテ、又、東海道程ケ玉フ下味ニ深クテ此  
王ハ、越ル身ニ、白川藩トテ、又、東海道程ケ玉フ下味ニ深クテ此  
公ハ、越ル身ニ、白川藩トテ、又、東海道程ケ玉フ下味ニ深クテ此  
ソシト、各キ我素志心ヲ、越ル身ニ、白川藩トテ、又、東海道程ケ玉フ下味ニ深クテ此  
轉封ノ入費許方ナレハ節儉モ一際、炭ニ命令アリシカ年  
卷ニ在セハ、漁殿ノ所ハ、減少、魚リシカ、其、促ニスハキニ非

不、此、隱、殿、公、誓、幹、事、ノ、臣、ニ、命、セ、ラ、レ、ル、ハ、此、度、上、郎、ヨ、リ  
節、儉、ヲ、令、シ、一、藩、士、卒、ニ、玉、手、傳、命、セ、ラ、レ、タ、リ、サ、レ、臣、隱、殿、  
ハ、從、前、ノ、如、リ、ニ、ト、ナ、レ、臣、固、ヨ、リ、艰、苦、ハ、上、下、一、体、ノ  
一、故、末、年、一、々、年、ハ、隱、栖、モ、上、郎、ノ、節、儉、ニ、准、シ、其、慮、ヲ、立、ス  
シ、テ、ハ、上、郎、及、一、藩、ニ、對、シ、余、理、立、難、シ、史、從、未、用、度、節、畧、ノ  
定、規、ハ、一、世、我、等、モ、奉、養、減、損、ス、ハ、シ、汝、亦、公、誓、從、厚、ノ、身、ヲ  
レ、ハ、其、心、ニ、テ、上、郎、一、藩、ニ、對、シ、我、等、ノ、志、ヲ、立、一、シ、ト、申、セ  
ラ、レ、事、ハ、心、ヲ、用、井、玉、ニ、侍、臣、ヨ、リ、ノ、末、ニ、迄、モ、令、ヲ、守、リ、識  
尾、ニ、至、リ、テ、吾、分、ノ、贏、余、出、シ、カ、ハ、俯、ノ、用、人、ヲ、使、者、ト、シ、テ  
上、郎、ニ、微、ト、節、儉、シ、タ、ル、贏、余、金、カ、ウ、サ、レ、臣、折、南、ノ、志、故、其  
仍、恭、ヲ、ス、ル、也、素、名、ニ、於、テ、朝、陽、山、造、造、ノ、入、度、ニ、加、一、ラ、レ  
ハ、奉、定、タ、ル、一、シ、ト、告、シ、人、玉、ヲ、尋、テ、此、事、ニ、預、リ、タ、ル、者、ニ



能ハ我王意ヲ守リ上郎一藩ニ対シ多理ヲ立悦ニ堪ハ  
 此各黄金ヲ賜ニ候末ニ迄酒食ヲ普リ与一勞ヲ賞ニ玉フ  
 ○素名城西走井山観音ノ密原廣ニ及ヒシノ内セリ此  
 當ハ昔祖公ノ修神ニ玉ヒシヲ多年葺肉ニ述セシカ今  
 旧封ニ復セシ上ハ葺肉ニ看過スハキニ非カ我平元ヨリ  
 入度ハ弁スハシ六守ニ啓シ修治セヨト有リニ命セリ  
 速ニ徑管アリテ病ニ罹リ玉フ前ニ落成セリ  
 惠徳公幼リシテ父才ニ長シ玉ト徑使ハ更ナリ十五ノ春  
 ヲリ史漢ホノ唐本ヲ読セリ又武時ニ三熟達シ十三ニ  
 及古製ノ天ヲ十七ニテ弓ノ數以リ真弓ノ松ニ安達ノ島山ノ  
 谷ハ久シク手蹟ヲ學ビ能ク其筆意ヲ得サセテ十二ノ

時中字ヲ呈覽シ玉ヒテ公ハ机辺ニ在シヲ近輩ノ侍ソ  
 レモ知ラテ公ハ印章ヲ押ケル下アリ歎ハ十一ニ以  
 三孺着時  
 日ハ日ニセシレ達意ノ風調ナリ公最愛ヲ種メ玉ヒ既

榮之行ヲ好シ好抄ノ老本ヲ見ル事

九年ノ春鑑初元服ホノ親式アリ皆文化ノ度ノ例ノ如シ  
 列徒キ三月十五日初ニ將軍家ニ謁シ玉ヒ私席ハ齋館  
 向四品ノ次席ニ列セラルヘキ舟枕改家ヨリ達シアリ尚  
 家ニ斯ル例ハ文化ノ度ノ保固ニ初掲ノ一例ニナレハ  
 此度ハ如何アソト思ハセラレシニ其例ノ如クナリシ  
 カハ殊ニ歡ヒ此ノ君ト共ニ上郎ニ行セリ公昔官

位進玉... 時 清照夫人ヨリ贈テセラレシ所初ノ也  
... 特ニ此蓋ニテ一ツ傾玉ト保國公ト  
... 七玉一ハ倍出ノ人ニ毛皆醉テ勸テ唱一又〇此比  
... 建徳公ニ鎮國公言行ニ記出陣先鋒ノ昏又藩士ノ軍功  
... 小ヲ記シタル冊子ヲ撰細一箱ニ納メテ謀テセラシ又人  
... 君事格ノ心得トナルハキテ自ノ昏シ忘月老人事記ト  
... 表題ノ恭テラル天職忠孝學尚以流君臣信賢政教人情  
... 凡俗治令賞罰山生財茂政礼名器教政多利仁教ホ  
... 類也政許ハ恭ル月廿二日各キ且フ〇此歳ノ夏深國公  
... 既ヨ賜リ業外ニ入部アウヒレ惠徳公久出修行專務  
... 和比ナレハ心厚ク教諭ヲ毛レ人ト成シ玉一ノ懇ニ

願玉ヒケレ愈心ヲ卷ノ周旋シ玉ヒ一月ニ四五度劍術  
... 卜柔道一替古坊礎シ玉ヒ其夕方ニハ奏康野曲ホモ六高  
... 君四節居ト共ニ學ハセラル此比机地ニ根付時計アリテ  
... 白片日裸ヲ昏記シ朝六羊起キ袴履ノ中昏簡五封五ツ時  
... 膳ニ分昏写半庭廻七公弓五十年劍術表ニ度四ツ時學  
... 半过庭廻七分字九ツ時膳对席ハツ半劍術仕合ニ度表  
... 二度儀一度七ツ寸乘馬ヲ見ル半过膳七分對話六羊写字  
... 十枚ト日毎ニ如此御祖ニ余昏シクルヲ惠徳公ニ示サ  
... セテレテ痛ク所シ怨ニ導キ就中辱奉ノ下ハ心ヲ尽メ徳  
... ハ玉ヒシト也〇晩年惠徳公ニ教誡シ玉フハ凡人主ク  
... うン大是ノ嫌ヒ是ハ好キト臣庶ニテ知ル様ニナリテハ  
... ナク又何モ好ムカ何ヲ嫌フカ知レテハ様ニ必置セラレ

ハシ去ルカ故我木更ニ好キ嫌ヒ世ハナシ因家ノ規定家  
 中ノ風俗以淺ノ管ニナリ又下ハ何ニテモ見内ニ心得リ  
 ルニ檢ハナキ下ニ宣ヒレトソ伏ルニ公ノ詠言ホニツ  
 キ億度シ奉レハ月花ハ殊更ニ愛シ耽リ玉フ下モ有シカ  
 ト思フヘケレ左ニハ非大月ニ夜ヲ深シ花ニ目ノ暮ル  
 ヲ知フハルノ類凡流ニ過タル下固ヨリ露モ有セシ  
 下故ニ月花ノ遊モ其時其度ニ隨テ適宜催サルハ三  
 ニテ起臥ノ常度ハ幻稱ヨリ晩年迄形速ノ節ヲ失玉ハ  
 又或年梅苑盛ナル夜谷火飛廣瀬典杯台ハシ帝皇賛辭杯  
 命ニ游賞シ玉フ其夜月色明ナリケレハ魁春園ニ散步道  
 邊アリテ梅花ヲ浮ハ酒盞ヲ賜フ人ノ令宵月類アルニシ  
 ト具シ居ルニ今ハ定刻ナリシ中帰ラセラレ人ニモ

取ヲ賜ヒ文冠此夜ノ真景ヲ画キ典コレカ賛ヲナシケ  
 ルカ常度アリテ此梅月ノ美景ヲ殘ソ任リ玉フ下ヲ賦中  
 ニ載タリ  
 文以十年矣 將軍家公家奇 大政大臣 世子君家廣内大  
 臣ノ轉任ヲ捧シ玉フ時 保國公彦根侯直其部執掃ト氏  
 ニ謝使ノ命ニ膺リ玉フ当蒙ニ例ナキ下ナレハ公私ニ硬  
 礙ナリ奉賤アラヒテハ為ニ保國公ヨリ厚ク垂教ヲ  
 乞玉トケレハ端緒ヲ竭ノ飽迄心ヲ添玉ヒシトリ  
 天朝ヨリ使ノ旁ヲ賞ノ少將ニ推任アリ 台命ヲ経テ捧  
 命ニ玉ヒシヲ願シ玉ヒテ  
 又素名少將ノ印ヲ恭ラセ玉フ進  
 又素名少將ノ印ヲ恭ラセ玉フ進  
 又素名少將ノ印ヲ恭ラセ玉フ進

のしんぎふをうけしつゆの海はまはるる月夜光ちりりす

斯リ旅に玉の○是ヨリ先京師、儒者類久太郎、名子成山、  
 陽小日本外史二十余卷、著シテ深ク秘シタルカ、今ノ  
 世ニ於テ此昏樂翁先侯、外ニ一覽ヲ志願タル人絶テ  
 ナシト常ニ云ケル由向セリ。保田云、大内ニ奉使  
 ノ順便ヲ以テ使臣ニ年ノ懇ニ意ヲ致シ一覽ヲ求メ玉  
 々他ハ、求テハ、謝スハ奉命ナレ。臣收明君ヨリ望ミ  
 至ラハ、我ニ於テ實ニ奈トスル所也。史新ニ洋写ノ標紙ヲ  
 粧ヒ一函ニシテ、公ヲ韓魏ニ比シ、臣ヨリ檄ニ擬シテ昏  
 々作リ之ヲ獻セリ。公是ヲ見玉ヒ、斯ル編著昔ヨリ未見  
 ナル也。ト賞セリ。自ラ和文ノ序ヲ昏テ賜ヒ、集古十種  
 全ク白銀廿枚取添酬ヒ玉ヒ。世レハ久太郎我、従身ノ栄花

此ニ至レリ。近親戚朋友ニ云告知ヒ世亦以テ盛事トナセ  
 シトソ、此昏常ニ座右ニ置ヒ、捧閱ヲ乞テ、辱ル者ニハ許シ、我  
 一是ヨリ、後久太郎、公ノ神遊ヲ痛悼シ、一回忌辰ニ、宋ノ  
 民、司馬退公ヲ祭リシ例ヲ刻キ酒饌ヲ供セ、又ヲ作リ、香  
 ヲ点メ祭リシト、公ノ太師下世ノ後、私塾ニテ上梓セシ外  
 史ニハ、公ノ序、公ニ上リシ昏、首ニ掲ケテ、今ハ世  
 ニ廣ク傳播セリ

隠栖ノ後ハ世塵ヲ隔テ、花鳥風月ニ心ヲ寄セ、樂ミ玉ヒ  
 ケレハ、日記ニモ花月ノ名ヲ負シ、ノ鳥ノ子紙ヲ大和假ニ  
 シ、又俗ニ昔物語ノ類ニ、飲ヒテ歌シ、モ昏リ、ハ日毎ノ筆実  
 ハ、淺ハス昏シルシ、又ハ筆ニ能レ、恣ヲ述ハ、或ハ者行ハ、流  
 ヲモ昏列子ヲ常席日記ニアケカレハ、秘シ置玉ヲ、懇友ノ



同十二年也 保國公案名ヨリ必賀ノ昏ヲ奉リ玉フ時去  
年京都一奉使セシ故今年、恭府ハ秋ナレハ春暖ノ代必  
ス此地ニ入セラレ移封後人心ニ漸ク折合タルヲ覽玉フ  
ハシト、下ナリシニ其志ハ愧ハシケレハ熟ク思フニ今  
七旬ヲ越テ遠路ヲ行ダシムル人ニ怪モ、北ノ君ヲ如心  
シ勞スノミ固ヨリ天下ノ為ナリハ云ニ及ハス行マシテ  
叶ハルニ固家ノ下ナリハ千里ノ山嶽波濤モ侵シ直ナニ  
打立ノ下ニ天令行リ、我慰ナリ早老ヲ行タナリ生残ル  
旧知ノ者ヲ始人ノ奉志スノ是モ、太等ノ為ニ好シ  
カク又只一室見度ナリ昔、祖國美乃境ニ十八法、早倫  
ヲ設置玉フニカク春藉、ニニナリハ明ク、博リ確ナ知カ  
レ、其地一覽、極テ禮儀、保ノ下思フ迄ナリナレ

此公ハ入州ル下下思フニヨリ断リ卷ヲセシト宜ロケレ  
ハ國ヨリ轉封ニ付テ我ハノ力心ヲ添玉フニナレハ一  
度ハ覽玉フニナリ奉レハ百里ノ山川ヲ隔ツ上ハ軍喻  
天容然ル下也下書上セシニ我心疾ク決セリトテ遂ニ旅  
御下ハ此リ玉フ  
同年凶月下旬ヨリ餘寒ニ感同マラセテ、咳嗽ヲ獲シ床  
上ニ在セテ飲食ハ常ニ減セヌ不日粗快復ニ至ラセテシ  
ニ二月三日、夕又熱氣暴發シケルカ是モ医藥速ニ功  
ヲ奏シケレハ老体故痛ク疲勞シ玉レ、此ノ居昼夜側ニ  
侍坐シ茶膳必ス自ラ試シ、取玉懈ラセテ、下ナリ病ニ  
罹リ玉フナリ、十六日、什リ昼夜時モ側ラ思カセテ  
レ不其後タマク寢ニ就セテ、一昨、過ス帯ハ多病



二在七代 公、病中百日餘、病ニ臥玉フナシ 惠康  
公ト、貞四郎公子ハ、臥ニ来リ夜半ニ沸リ看獲ニ心ヲ尽  
サセラシ又上郎ノ所北ノ方ニ數日會宿メ昼夜懈ラセラ  
ル、丁ナリ大洲村上面訪候ニ嫁シ玉ッ姫君モ代ル侍  
出アリテ茶餅ヲ始抱持奉ニ心ヲ尽サセラシ侍候モ看獲  
ニ勤勞セリ 公此事ヲ悦玉ヒテ九ノ妻ヲヨリ臣下ニ聖  
止定斷テ省病ノ周ナリハ、養育ルマシト再座宣ハシ、ソ  
保回公此時來名ニ在シケレハ、先ツ伺ハソ速ニ用人醫師  
ヲ遣ハシ松代候ニ在シケレハ、直ニ松代ニ往リ使セ  
下醫師ヲ遣ハシ、此ノ病ノ人ヲ在城ノ直ニ松代ニ往リ使セ  
リ日改テ決テ参ラセテ、此ノ病ノ人ヲ在城ノ直ニ松代ニ往リ使セ  
ハ、保回公看獲、願アリテ、二月十日日業名ヲ遣ヒ使  
ハ、保回公看獲、願アリテ、二月十日日業名ヲ遣ヒ使

夕日ニ徒テ廿一日ニ着府ニ玉フ夫ヨリ茶膳ノ下ナシ  
ノ君ト也ニ謀リ百本心ヲ尽シ又侍医ヲ出テ屢如諭シ又  
ハ有テ、部ヲ出テ、命セラル、十五アリ又梓湯ヲ乞フ或ハ上  
唇スル、大アリ極テ繁劇、ノ速裡、此ノ病ノ味上候  
ノ姫君、天敵、病、危、萬ニ至ラセラシ、數告奉シ、茶、餅、下  
ノ、沙汰、ア、リ、テ、一、度、モ、向、セ、ラ、ス、公、病、狀、ノ、所、シ、玉  
フ、丁、ナ、シ、初、保、回、公、看、病、ハ、セ、ラ、シ、由、向、一、ケ、ル、時  
公、松、代、重、臣、ニ、実、察、メ、又、大、病、ナ、リ、速、者、獲、テ、願、フ、丁、同、シ  
リ、有、テ、一、ケ、ル、時、一、度、モ、其、侍、候、ヲ、以、テ、云、遣、ス、一、ケ、ル、時、  
ラ、シ、候、テ、病、中、一、度、モ、松、代、侯、ノ、噂、ハ、ナ、シ、玉、ハ、ナ、リ、シ、ト  
ソ、口、養、完、堂、ニ、藤、臥、シ、由、ハ、其、扶、ケ、レ、用、子、ハ、西、方、ヨリ  
歸、人、ノ、茶、方、ヨリ、送、テ、林、ノ、左、右、ニ、分、レ、テ、侍、連、ス、保、回、公

より徽章、羽織ヲ醫師ニ賜ニ者病ニ奉ル者ニ連日ノ帝  
ヲ子キテハ、亦、食膳其外賜物アリナシ、病ニ侍スル者  
ニ益精カク、悉シ、浴湯、梳、外、百、分、リ、松、定、ニ、選、キ、ニ、者、十  
シ、侍、医、ハ、不、侍、昼、夜、上、直、シ、其、外、官、區、中、リ、帝、春、後、法、印、等、間  
立、球、法、眼、ハ、以、大、唐、法、印、又、リ、世、唐、ハ、區、モ、時、ニ、招、キ、玉、ヲ、佛  
法、印、ハ、以、公、印、更、ニ、其、茶、ヲ、服、シ、玉、ハ、始、メ、茂、熱、盛、ナ、リ、ニ、此、ハ  
折、リ、論、案、ヲ、以、テ、其、茶、ヲ、服、シ、玉、ハ、始、メ、茂、熱、盛、ナ、リ、ニ、此、ハ  
葉、方、何、ニ、テ、モ、心、ニ、注、セ、玉、ハ、始、メ、茂、熱、盛、ナ、リ、ニ、此、ハ  
葉、方、ハ、ナ、リ、ト、言、上、ス、シ、ハ、是、リ、調、劑、セ、玉、ハ、始、メ、茂、熱、盛、ナ、リ、ニ、此、ハ  
孟、野、黃、貞、ニ、折、リ、治、ル、是、ハ、公、法、テ、后、不、リ、ナ、リ、ナ、リ、主、張  
、大、馬、ニ、ハ、痛、リ、疑、惑、ス、ル、也、ト、宣、ヒ、シ、故、ナ、ル、一、ニ、〇、此  
、君、ヨリ、東、四、院、去、祥、院、ヲ、祈、禱、ヲ、願、ヒ、玉、ハ、一、ハ、汗、ヒ、玉、ヲ、固  
、安、命、ヲ、君、十、日、ハ、祈、禱、ナ、リ、ト、言、上、ス、玉、ハ、自、リ、言、禱、ノ、端、ニ、ス

宣ハス、某品攻劇ニテ、老体ニ如何有シト、北ノ君、保固  
公疑悉シ玉フ時ハ、祚、藏、ヲ、向、玉、フ、ト、モ、禁、ヒ、テ、レ、大、親、族、ノ  
方、リ、ヲ、始、メ、良、氏、ニ、玉、ル、迄、神、戒、寺、僧、ノ、祈、禱、ヲ、終、シ、奉、ヒ、ハ  
何方ノ字札ニテモ人ノ誠心ヲ感シ、一度ハ必痒シ玉フ  
ハ、レ、ヒ、或、日、保、固、公、ニ、厚、志、ノ、程、ハ、悦、ハ、シ、テ、レ、ハ、我、齡、七  
十、ニ、余、リ、テ、病、ヲ、レ、ハ、必、ス、奉、復、ノ、一、ハ、神、驗、モ、類、シ、難、シ、斯  
ル、丹、誠、ヲ、回、蒙、ニ、為、ニ、コ、ソ、尽、サ、ル、一、ニ、ト、終、ニ、云、シ、玉、フ、〇  
教授廣、漱、典、中、以、ノ、程、リ、三、四、年、奉、臥、セ、シ、廿、二、日、九、日、廿、世  
シ、タル、由、向、セ、ラ、シ、終、歎、シ、至、ヒ、テ、  
引、キ、テ、一、尾、方、に、住、ス、ル、也、ト、後、御、醫、ノ、父、ノ、云、フ、事、  
お、と、ね、一、人、の、言、に、  
斯、ク、ヨ、ミ、ニ、テ、香、奠、白、飯、ニ、杖、ヲ、添、テ、賜、ヒ、  
惠、德、公、ニ、ハ、俸、儀

勤ノ武藝ノ所業トハ丁遠ノ心傳キ一ノノ遺ハ  
コテレハ白銀ニ枚ヲ番賣トシ、應傳勤慎ノ情ヲ尽シ玉リ  
○二月、半大災アリヨ多年心ヲ開キ、花水菴ヲヤ  
シリル大風、園庭一時ニ烏布トナリ、此等ノ筆言ニ  
選託セシカ、平生隠佛ハルノ、愚玉一ノ直ニ其由ヲ略  
ニ達シケルニ是モ天也、座敷中雜儀ハ一ノ宣ヒテ園庭  
ノ盛現、心惜ニ玉リ、丁十日、月廿一日、亦神田佐久間町  
ヨリ夫丈シテ北ノ烈リ、日夕、此際柵ヲ始メ、上及柄売  
一ノ邸一時ニ燒亡セリ、春以、秋長有ニ大移リシ時、疾ク兼  
與ヲ進メシニ、自若トシ、保ガニ、此世年少、定替劇遇テ、於  
揚ヲ、芥ノ青萬ノ響キケレハ、急度具玉ニ、靜ニセ玉、速ク  
常ニ交テセシレ、ス松山翁、上邸ニ立退セラル、堀中ニ

手歌ヲ詠シ玉リ

自他多事ノ心ヲ、  
其夜心靜ニ物傳アリテ、  
其夜心靜ニ物傳アリテ、  
其夜心靜ニ物傳アリテ、

其夜心靜ニ物傳アリテ、  
其夜心靜ニ物傳アリテ、  
其夜心靜ニ物傳アリテ、  
其夜心靜ニ物傳アリテ、

患演公ハ、馬止ニ疾ク行テ、来駕ヲ待セリ、保固ニ  
歩ニテ、駕ニ乗リ、玉リ、是ヨリ先或日、此定、服息ニヨリ、  
都下ニ火災、熱トシ、田中、先疾ニ指、揮メ、平風、儂ニテ、  
テ、ト、熾ニ用テ、程ナシ、此、松山、翁、至リ、玉一、道通、和、  
事、周旋セシ、先ト、寝テ、疾自ヲ、常用、  
レ、カ、リ、以、兼テ、新キ、器具、ハ、速ニ、度ナリ、者、ナリ、ト、  
シ、玉、ノ、由、傳、テ、去、々、年、若、ク、シ、尼、賢、ノ、心、付、シ、テ、殊ニ、  
玉、ノ、疾、ヲ、朝、夕、向、來、リ、飲、食、ノ、丁、遠、心、ヲ、卷、心、先、公、朝、  
玉、ノ、疾、ヲ、朝、夕、向、來、リ、飲、食、ノ、丁、遠、心、ヲ、卷、心、先、公、朝、

入美一、時、金福、取、毎、掛替、序、屏、以、給、金、雜、勝、十、  
 二、便、正、時、用、出、者、備、因、の、贈、り、玉、う、粉、金、多、難、數、盆、茶、碗、持、  
 三、三、正、障、り、出、者、備、因、の、贈、り、玉、う、粉、金、多、難、數、盆、茶、碗、持、  
 四、三、正、障、り、出、者、備、因、の、贈、り、玉、う、粉、金、多、難、數、盆、茶、碗、持、  
 五、三、正、障、り、出、者、備、因、の、贈、り、玉、う、粉、金、多、難、數、盆、茶、碗、持、  
 六、三、正、障、り、出、者、備、因、の、贈、り、玉、う、粉、金、多、難、數、盆、茶、碗、持、  
 七、三、正、障、り、出、者、備、因、の、贈、り、玉、う、粉、金、多、難、數、盆、茶、碗、持、  
 八、三、正、障、り、出、者、備、因、の、贈、り、玉、う、粉、金、多、難、數、盆、茶、碗、持、  
 九、三、正、障、り、出、者、備、因、の、贈、り、玉、う、粉、金、多、難、數、盆、茶、碗、持、  
 十、三、正、障、り、出、者、備、因、の、贈、り、玉、う、粉、金、多、難、數、盆、茶、碗、持、  
 十一、三、正、障、り、出、者、備、因、の、贈、り、玉、う、粉、金、多、難、數、盆、茶、碗、持、  
 十二、三、正、障、り、出、者、備、因、の、贈、り、玉、う、粉、金、多、難、數、盆、茶、碗、持、  
 十三、三、正、障、り、出、者、備、因、の、贈、り、玉、う、粉、金、多、難、數、盆、茶、碗、持、  
 十四、三、正、障、り、出、者、備、因、の、贈、り、玉、う、粉、金、多、難、數、盆、茶、碗、持、  
 十五、三、正、障、り、出、者、備、因、の、贈、り、玉、う、粉、金、多、難、數、盆、茶、碗、持、

此、知、移、玉、の、時、も、大、災、有、三、の、速、三、取、集、リ、テ、漸、會、  
 一、ノ、手、半、段、一、物、ノ、心、得、ノ、自、ラ、筆、記、ノ、六、五、五、カ、事、蹟、  
 帝、三、皇、リ、玉、了、了、ナ、シ、日、ノ、保、田、公、ニ、因、家、ノ、交、災、ニ、必、置、  
 以、知、移、玉、の、時、も、大、災、有、三、の、速、三、取、集、リ、テ、漸、會、  
 一、ノ、手、半、段、一、物、ノ、心、得、ノ、自、ラ、筆、記、ノ、六、五、五、カ、事、蹟、  
 帝、三、皇、リ、玉、了、了、ナ、シ、日、ノ、保、田、公、ニ、因、家、ノ、交、災、ニ、必、置、

大、ル、丁、杯、ヲ、持、玉、ノ、方、兼、キ、上、所、自、然、回、轉、ノ、災、有、ノ、時、ノ、必、置、  
 藩、中、禁、出、ル、ノ、丁、ヲ、始、メ、師、菜、四、五、年、仅、建、其、後、本、建、ノ、給、因、  
 運、送、テ、膝、手、ノ、痛、ト、ナ、シ、ヤ、ハ、良、法、ヲ、筆、記、シ、玉、ト、江、戶、白、川、  
 點、定、真、ニ、預、置、タ、ル、ヲ、此、度、有、リ、出、ル、保、國、公、ニ、奉、リ、シ、  
 一、ノ、預、置、櫛、カ、リ、速、ニ、外、田、ノ、替、置、可、キ、相、救、メ、給、コ、ト、置、テ、木、屋、ニ、  
 一、又、其、預、置、テ、カ、リ、速、ニ、外、田、ノ、替、置、可、キ、相、救、メ、給、コ、ト、置、  
 時、三、五、ノ、心、ヲ、用、フ、テ、上、ニ、カ、ナ、ル、天、灾、有、ノ、モ、ナ、レ、可、  
 一、ヤ、レ、シ、藩、中、ノ、者、常、用、器、財、ノ、外、ニ、餘、厘、一、納、置、ハ、キ、ナ、リ、  
 此、レ、ニ、今、此、ニ、依、居、ノ、如、何、氏、一、キ、術、十、レ、汝、亦、知、所、ノ、高、  
 一、家、ノ、倉、庫、ヲ、借、受、入、置、リ、シ、レ、ト、余、セ、テ、レ、蛇、ヲ、余、ノ、如、リ、行、  
 一、一、レ、ト、ソ、大、意、ノ、申、ニ、在、レ、ト、斯、處、心、ヲ、用、玉、ヒ、不、レ、悔、ミ、  
 一、交、災、ノ、俗、ヲ、措、擇、シ、至、フ、丁、人、皆、仰、慶、セ、リ、○、將、厚、家、ヲ、日、決、



以天細カニ向ハシ贈遺、西天亦不カ魔下ノ士大夫借藩、  
老匠借士徳入ニ至迄未漢カル者、前市ヲ成セリ或時禮、  
州榮而老侯ヨリ、因作北村、其史ヲ使テ、問セリ、良其揮、  
冷ノ後、以、病、志、不、没、也、狀、ニ、言、借、英、力、ニ、遺、漏、ナ、リ、  
宣、コ、コ、ソ、恠、シ、テ、一、斷、一、病、ト、心、ト、二、ツ、ニ、在、シ、玉、ツ、カ、如、  
ハ、不、凡、リ、一、也、一、感、積、シ、テ、ル、ハ、ソ、又、榮、前、老、侯、ヨ、リ、美、音、ハ、  
ハ、鳥、ヲ、贈、リ、セ、リ、一、屋、代、必、覺、深、山、葉、ヨ、リ、益、植、ト、一、恭、リ、シ、  
ハ、何、シ、之、暫、リ、欣、ハ、シ、置、キ、心、ヲ、慰、メ、玉、リ、由、意、甚、日、リ、懸、羨、  
蓋、ハ、其、樂、樂、ノ、答、奉、リ、シ、又、殊、ニ、亮、ニ、上、テ、三、海、ノ、地、ス、ハ、  
テ、我、ヲ、日、カ、玉、リ、

其田ニヨリ、謝奉、ハ、シ、後、二、五、口、分、道、ハ、寄、代、事、十、一、年、  
少、カ、ハ、シ、  
其田ニヨリ、謝奉、ハ、シ、後、二、五、口、分、道、ハ、寄、代、事、十、一、年、  
少、カ、ハ、シ、

原、是、忠、真、飯、田、氏、親、實、又、林、登、河、林、ニ、ハ、自、身、ニ、テ、各、ノ、玉、  
レ、一、氏、ハ、ア、リ、表、奥、ニ、シ、使、者、ニ、出、入、ス、伺、扶、干、膳、所、ニ、テ、人、モ、カ、ケ、  
口、記、シ、テ、飲、シ、テ、玉、ノ、福、〇、大、患、中、十、レ、尾、何、ト、モ、常、ニ、変、テ、シ、  
不、日、記、シ、テ、毎、月、八、日、ハ、教、公、十、レ、ハ、其、聖、也、ヲ、採、  
奉、リ、シ、テ、也、祿、藤、ア、リ、何、ト、モ、終、焉、迄、効、カ、シ、玉、ツ、事、成、  
及、一、十、三、日、ハ、日、無、事、ノ、内、

見、卷、尾、數

其、田、ノ、ヨ、リ、謝、奉、ハ、シ、後、二、五、口、分、道、ハ、寄、代、事、十、一、年、  
少、カ、ハ、シ、  
其、田、ノ、ヨ、リ、謝、奉、ハ、シ、後、二、五、口、分、道、ハ、寄、代、事、十、一、年、  
少、カ、ハ、シ、  
海、上、眺、池、年、日、ノ、  
其、田、ノ、ヨ、リ、謝、奉、ハ、シ、後、二、五、口、分、道、ハ、寄、代、事、十、一、年、  
少、カ、ハ、シ、



皆伏居、實際也病中、歌九首、及一、世云、  
世林、歌、ヨマセ玉ハス。○所寄、八日、二、集、リ、玉、上、シ、カ、  
折、候、刀、力、ト、ソ、佳、来、シ、玉、ヲ、或、日、常、ニ、的、射、ス、ル、ヲ、持、来、  
一、佩、刀、ヲ、力、ト、ソ、佳、来、シ、玉、ヲ、或、日、常、ニ、的、射、ス、ル、ヲ、持、来、  
一、シ、メ、床、上、坐、シ、二、度、月、ヲ、試、玉、ト、又、  
年、若、キ、近、侍、一、者、ヲ、相、手、ト、シ、床、上、候、二、テ、鈕、指、一、飛、ヲ、試、玉、  
一、ノ、メ、心、ヨ、ク、見、玉、ト、又、一、近、侍、一、者、音、樂、曲、本、命、セ、リ、シ、  
一、テ、引、取、リ、一、貞、四、島、公、子、ノ、能、ハ、師、範、松、代、一、西、村、某、ヲ、一、折、  
一、折、出、シ、テ、儀、ヲ、同、ト、シ、テ、神、游、ノ、五、月、前、ニ、出、シ、時、ハ、野、會、ノ、  
一、曲、者、ハ、一、切、杯、縣、ニ、一、進、一、シ、一、玉、一、或、一、近、侍、一、七、二、早、天、  
一、ヨ、リ、玉、川、一、行、テ、若、船、取、来、ル、一、ト、一、不、時、一、遠、来、一、十、  
一、メ、玉、ノ、一、美、九、平、帝、一、如、ク、年、若、キ、共、一、聊、毛、魚、一、十、一、筋、マ、シ、

玉、一、或、時、古、一、武、人、一、信、終、一、時、正、坐、正、服、シ、テ、候、決、リ、ル、候、  
一、ヲ、一、又、一、一、ア、リ、ト、同、ク、是、ホ、モ、時、ニ、ヨ、ル、一、シ、何、ト、一、自、故、十、  
一、十、ル、一、一、如、ス、リ、如、女、子、一、例、ニ、侍、セ、ル、時、候、一、テ、指、リ、玉、  
一、ヲ、一、○、医、菜、扁、倉、一、良、術、ヲ、極、メ、保、護、因、曾、一、孝、養、ヲ、尽、シ、レ、テ、  
一、レ、一、天、命、限、リ、テ、其、臨、ヲ、漸、ク、衰、微、シ、玉、ト、兼、テ、命、有、シ、  
一、如、ク、終、焉、ノ、際、一、北、ノ、君、ヲ、嫁、入、如、女、子、一、一、等、遇、ケ、テ、一、遠、ニ、  
一、五、日、十、三、日、申、一、村、長、逝、シ、玉、ヲ、享、年、六、十、二、上、中、下、一、愁、傷、  
一、云、計、リ、一、年、以、親、キ、方、一、更、ナ、リ、諸、侯、座、下、一、士、大、夫、ヨ、リ、  
一、清、藩、一、士、人、農、工、向、ホ、一、玉、ト、一、一、徹、ル、一、一、悔、惜、セ、テ、  
一、ル、其、子、一、一、慕、恋、ヨ、リ、待、遇、一、北、有、一、一、九、日、一、一、神、如、一、表、  
一、ヲ、一、一、玉、ヲ、先、ツ、病、革、ヲ、以、テ、一、台、體、一、達、セ、  
一、戸、頭、取、一、神、田、祖、馬、一、上、伏、一、一、病、狀、ヲ、尋、玉、一、一、法、曾、清、翹、一、曲、

拜照下リ 瀨内席ニ魚ノ刺シハ補丸(満)廿五日(辰)未(辰)辰  
 遠使(寺)リ 上(辰)トノ再(辰)内(辰)リ(辰)所(辰)牙(辰)茂(辰)長(辰)リ(辰)保  
 國(辰)口(辰)始(辰)以(辰)達(辰)姫(辰)君(辰)友(辰)堅(辰)田(辰)後(辰)心(辰)敷(辰)香(辰)文(辰)法(辰)眼(辰)十(辰)ト(辰)進(辰)悼(辰)ノ(辰)玩  
 歌(辰)大(辰)多(辰)氣(辰)斯(辰)前(辰)ニ(辰)林(辰)テ(辰)リ(辰)棺(辰)梓(辰)何(辰)レ(辰)者(辰)カ(辰)リ(辰)ナ(辰)リ(辰)後(辰)ニ  
 底(辰)ヲ(辰)庭(辰)中(辰)ニ(辰)架(辰)ノ(辰)進(辰)未(辰)リ(辰)取(辰)リ(辰)六(辰)月(辰)三(辰)日(辰)法(辰)士(辰)松(辰)前(辰)ニ(辰)捧(辰)礼  
 了(辰)リ(辰)五(辰)日(辰)卯(辰)ノ(辰)申(辰)刻(辰)送(辰)葬(辰)ニ(辰)深(辰)川(辰)奥(辰)岸(辰)寺(辰)ニ(辰)進(辰)リ(辰)奉(辰)山(辰)此(辰)日(辰)曉  
 天(辰)ヨ(辰)リ(辰)埋(辰)矣(辰)ノ(辰)後(辰)畢(辰)ル(辰)迄(辰)天(辰)急(辰)驟(辰)騰(辰)下(辰)リ(辰)日(辰)光(辰)ヲ(辰)失(辰)テ(辰)上(辰)天(辰)モ  
 哀(辰)憐(辰)ヲ(辰)毛(辰)玉(辰)ツ(辰)テ(辰)如(辰)レ(辰)長(辰)康(辰)院(辰)ニ(辰)復(辰)テ(辰)宿(辰)テ(辰)七(辰)日(辰)失(辰)テ(辰)上(辰)天(辰)モ  
 外(辰)門(辰)ヲ(辰)清(辰)涼(辰)ノ(辰)中(辰)ニ(辰)設(辰)テ(辰)如(辰)レ(辰)長(辰)康(辰)院(辰)ニ(辰)復(辰)テ(辰)宿(辰)テ(辰)七(辰)日(辰)失(辰)テ(辰)上(辰)天(辰)モ  
 大(辰)門(辰)ヲ(辰)清(辰)涼(辰)ノ(辰)中(辰)ニ(辰)設(辰)テ(辰)如(辰)レ(辰)長(辰)康(辰)院(辰)ニ(辰)復(辰)テ(辰)宿(辰)テ(辰)七(辰)日(辰)失(辰)テ(辰)上(辰)天(辰)モ  
 多(辰)キ(辰)実(辰)ニ(辰)市(辰)ノ(辰)中(辰)ニ(辰)設(辰)テ(辰)如(辰)レ(辰)長(辰)康(辰)院(辰)ニ(辰)復(辰)テ(辰)宿(辰)テ(辰)七(辰)日(辰)失(辰)テ(辰)上(辰)天(辰)モ  
 以(辰)當(辰)テ(辰)旧(辰)長(辰)木(辰)ノ(辰)傳(辰)代(辰)ノ(辰)女(辰)十(辰)七(辰)日(辰)未(辰)亡(辰)リ(辰)奉(辰)仕(辰)ス(辰)ル(辰)コ(辰)ソ  
 主(辰)君(辰)ノ(辰)慶(辰)ス(辰)ル(辰)所(辰)不(辰)ニ(辰)公(辰)意(辰)カ(辰)ル(辰)ニ(辰)シ(辰)且(辰)切(辰)駿(辰)亦(辰)北(辰)ノ(辰)浮(辰)屠

二迷フ一端也(宣)ヒシ(ア)レハ(作)シ(五)ハ(石)ノ(切(駿)セ(レ)用  
 者(坐)リ(シ)ト(ソ)○(世)年(清)照(夫)人(長)逝(ノ)時(公)封(后)ソ(用  
 人(ニ)預(テ)我(ノ)秋(ノ)後(南)見(ル)ニ(シ)ト(余)ニ(置(玉)ト(シ)ナ(ク)此(度  
 同(見)ル(ニ)盜(ハ)年(回)院(殿)ト(稱)ス(フ)ノ(守)固(ニ)非(ル)ハ(昔(モ)亦(六  
 三(置)玉(ト)墓(碑)ニ(銘)ハ(云)フ(ス)ハ(シ)ト(ノ)遺(骨)ナ(リ)テ(レ)ハ(其  
 昌(一)連(ヒ)保(ハ)具(傳)寺(ニ)十(七)世(哲)侯(侯)贈(号)ニ(テ)宗(回)院(殿)藏  
 蓮(社)天(養)經(源)康(前)大(展)ト(進)シ(奉)墓(碑)ノ(大)廿(ハ)昔(朝)度(ヲ)  
 三(置)玉(ヲ)如(レ)碑(ノ)正(面)ニ(故)日(河)城(主)栗(前)公(墓)ノ(祭)後(ニ)  
 ヲ(リ)テ(定)メ(サ)セ(シ)ウ(ル)位(階)ヲ(カ)リ(テ)一(千)餘(ノ)大(石)五(ツ)世(中)ニ  
 ヒ(リ)テ(除)カ(レ)ソ(シ)ニ(從)側(面)ニ(大)石(二)枚(五)田(内)親(補)無(ニ)  
 ノ(上)ニ(取)テ(石)ヲ(石)木(二)柳(ヲ)蓋(シ)テ(南)面(ニ)瑋(之)ヲ(振)フ(石)柳(不)柳(ノ)後  
 ヲ(上)ニ(取)テ(石)ヲ(石)木(二)柳(ヲ)蓋(シ)テ(南)面(ニ)瑋(之)ヲ(振)フ(石)柳(不)柳(ノ)後

山先德... 碑... 刻... 南... 裝...  
下齒骨... 施... 碑... 險...  
公詳定信... 幼... 賢... 九... 晚... 吳... 崇... 田... 安... 中... 何... 言... 崇... 武... 節... 第... 七... 年... 母...  
永... 年... 以... 寬... 光... 陵... 繼... 子... 命... 公... 為... 其... 嗣... 任... 上... 德... 介... 天... 明... 三... 年... 葬... 封...  
曰... 河... 任... 趙... 中... 年... 四... 年... 叙... 四... 品... 七... 年... 為... 加... 判... 上... 度... 任... 傳... 遂... 未... 幾... 時...  
會... 相... 佐... 寬... 政... 五... 年... 拜... 職... 免... 為... 海... 信... 任... 少... 將... 文... 化... 九... 年... 次... 任... 文... 武...  
十... 二... 年... 五... 月... 十... 三... 日... 病... 逝... 享... 壽... 七... 十... 二... 歲... 回... 葬... 同... 院...  
德... 文...  
故... 曰... 河... 城... 主... 西... 位... 少... 將... 世... 平... 越... 中... 年... 次... 任... 崇... 倫... 公... 墓...  
以... 律... 定... 信... 幼... 松... 賢... 九... 晚... 吳... 崇... 田... 安... 中... 何... 言... 崇... 武... 節... 第... 七... 年... 母...  
永... 三... 年... 甲... 子... 浚... 明... 大... 尺... 餘... 武... 寬... 先... 公... 墓... 以... 為... 嗣... 任... 上... 德... 介... 天... 明... 三... 年... 葬... 封...  
天... 明... 三... 年... 癸... 亥... 葬... 於... 白... 河... 任... 趙... 中... 年... 四... 年... 甲... 辰... 叙... 四... 品... 六... 年... 丙...

午... 今... 大... 君... 五... 七... 年... 不... 未... 拜... 執... 以... 任... 清... 使... 特... 會... 輔... 佐... 班... 上... 列...  
時... 年... 三... 十... 補... 佐... 尤... 難... 其... 人... 慶... 安... 中... 公... 津... 庚... 心... 之... 終... 居... 是... 職... 而... 已...  
八... 年... 戊... 申... 忘... 所... 災... 厄... 及... 禁... 劇... 大... 君... 命... 以... 德... 考...  
營... 宮... 之... 事... 寬... 政... 五... 年... 癸... 丑... 奉... 旨... 巡... 視... 相... 皇... 治... 海... 未... 成... 之... 罪... 乃...  
免... 其... 職... 任... 少... 行... 班... 湘... 間... 仍... 令... 不... 時... 入... 政... 府... 奉... 預... 大... 後... 文... 化... 六... 年...  
三... 已... 乞... 改... 任... 不... 允... 七... 年... 庚... 午... 令... 倫... 洋... 警... 因... 易... 白... 河... 封... 內... 三... 乃... 而...  
地... 於... 房... 係... 九... 五... 年... 再... 乞... 改... 任... 降... 先... 左... 於... 崇... 地... 別... 賦... 時... 年... 五... 十...  
五... 初... 天... 明... 三... 年... 初... 以... 稱... 池... 加... 以... 飢... 荒... 時... 以... 以... 京... 宣... 諭... 親... 臨... 齋... 嘗...  
重... 補... 佐... 印... 主... 監... 賢... 士... 德... 輝... 靈... 與... 文... 教... 振... 興... 倫... 禁... 屠... 豕... 務... 儉... 素...  
祀... 祠... 法... 度... 為... 之... 煥... 然... 一... 新... 定... 罷... 改... 之... 後... 履... 春... 不... 衰... 徵... 時... 存... 尚... 終...  
如... 如... 一... 公... 以... 宣... 慶... 八... 年... 丙... 寅... 十... 二... 月... 廿... 七... 日... 生... 以... 文... 政... 十...  
二... 年... 己... 丑... 十... 月... 十... 六... 日... 逝... 享... 年... 七... 十... 二... 歲... 配... 寬... 先... 公... 女... 建... 德... 逝...

再安於大洲加藤氏女一男三女男即 今公測室中井氏

奉一男四女  
夫政十二年己丑六月五日 臣南公并謹誌  
初病罹玉日前午後 惠法公来玉此時延侍之  
子親教減之長逝後批川出之世論之題也  
三日未下三日後三日未成之日入替負ツ  
日未下三日後三日未成之日入替負ツ  
又置玉之七日保固三奉リケレハ南見玉ヲニ保  
固之北ノ居ヲ始メ有司ホニ玉ヲ一才遣命敷通アリ又別  
一故以ニ進達ノ各前一通例取次禁之贈玉ヲ各一通固  
少封ノ下世ノ後達ニ答フス一才肯命置セ玉一ハ惠法  
冷自ヲ携テ答フセリ又兼テ命セリシ如ク五十ノ賀

二邦物奉テセリシ方ハ遺物ニ及ハハ世外ノ方ニ  
ノニ奉テセリシ御威ノ體ハ保固公亦流兵學ノ秘局ハ  
惠法公ニ漢テセリシ下ヲ始メ大國清女延侍ノ輩又侍  
月ノ冥昧金子未賜占一才遣細カニ各置セリシ也拜賜  
ノ心服衣其ノ孫ノ後ニ追々着シカテ又ト亦ニ置セリ  
レシカハ皆分贈シ玉ヲ在取中批以ニ同テ世外廟陽山ニ  
寄附ノ遺金ノ下浴恩團成股ヲ兼テト地ノ東田院境内  
ニ移テ一後代ノ寄費ヲキ為香粧供物ノ料ヲ寄附シ玉ヲ  
下學教ニ學用ヲ寄附シ各齋水ノ法費ヲ助ケテ一キ下  
杯大ニ滿ル心ヲ仁シ置セリトソニ遺各ノ一キ下  
推誠ニ奉ルニシ 依高ノ除遺言ノ煩ヲ省キ玉ヲ除履ノ程



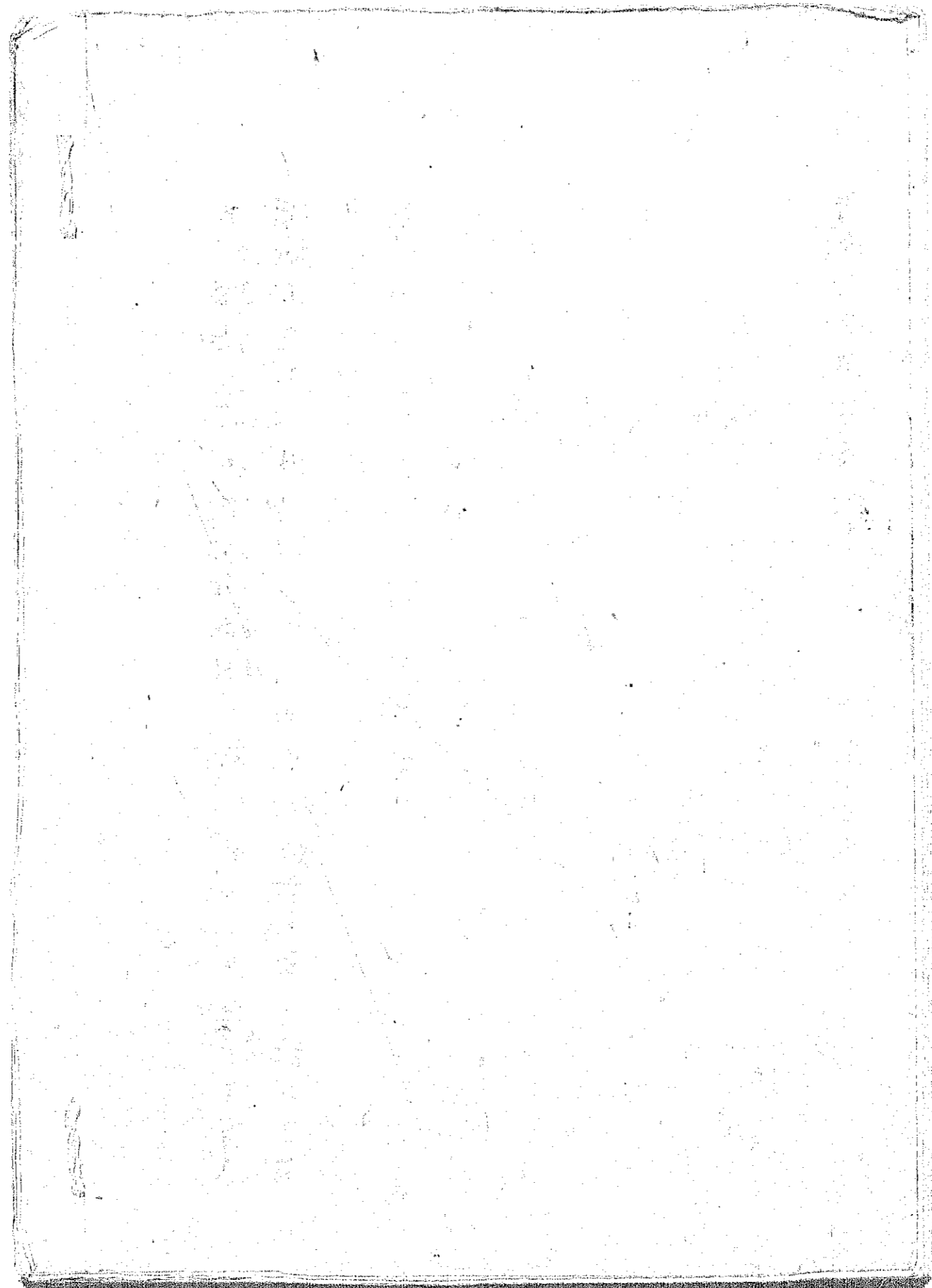


東山先生の御遺言

是ニテ兼テ播磨ヲ定置セリトシテ不巧ノ忠志ヲ示シ知レ  
レハ積徳忠功ノ余慶ニヤ茲於テ我公家ノ如ク榮工  
玉フテハ多カクナル也祖出ル血縁在セル本宮ニ保  
田公誕生アリ姫君モ三人生レ玉。側室中井ニ相代夫人  
姫君モ四人存シ保田公廿二歳ニテ封ヲ蒙リ玉ト今室  
所州筑前昭流平所ノ姫君ニテ其腹ニ惠徳公生レサセ  
テ上奉室側室ヲ并セテ十部君迄誕生シ玉フニ父政九  
年八月六日。惠徳公産阿蘇翁老侯ノ姫君ヲ迄一玉ト  
夫婦並ニ榮工玉ヲ將軍家ニテ公ニ相代ノ勲帝天  
下澄清ノ勲烈ヲ志シ玉ハ又及天保五年甲子二月。惠徳  
公ヲ湘格格ニ命セテテ尋テ深徳ニ任シ七年甲子二月史

ニ父湘格ノ妾ハ嫡子湘格格ノ家於タル一子有テ命ヲ  
崇リ玉トシテ是皆端ニ公ノ忠烈後世ニ玉ヲ打サレ者  
也



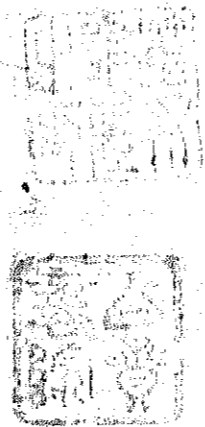


守國公御傳記

卷三

守國公御傳記卷之

退職ノ後モ凡質素ヲ至下ニ注昔ヨリ代々用玉ヲ簪筆ハ  
 緑竹ヲ以テ縁トシ世子ハ細竹ヲ用エ是ハ二ツナキ泉  
 物故旧裏ヲ攘リ至フ意ナリト言傳フレ凡由緒ハ兒モ尙  
 和是等ハ無用ノ形容ニソイツ迄緑竹ニテ有ルハキヤ尙  
 後父子共ニ細竹クルヘシト命シ玉ヲ費エガナカラストソ  
 又與簾ノ縁ハ古未ヨリ羅紗ニテ製シタレ凡桐末ノ品ニ  
 限ル可ク又吾國ニ産スル物ニテ製スヘシ連日ニ復シ玉  
 ハ又又出火ノ前ニ纏ハ銀ノ捲馬瀧ナリシヲ胡粉ニテ塗  
 タルヲ用ルノ類凡テ無用ノ装ヲ除玉ツナカテカラス  
 一寛政六年庚申五月十五日日歸國ノ暇ヲ賜ヒ鷹馬ヲ賜フニ油語



ハハ城ノ時鷹ヲ賜ニ又鷹ノ鳥ヲ獻上モアレハ白川ニテ  
カハ其後ハ鷹ヲ出玉飼ハルニ年ハ種ニテ鷹ハ夫モアリハ  
ニ我輩ハスル鷹得セモ非ハ教ヲ封内ノ農南橋下路傍ニ  
及ハサニシテ鷹也子孫ニ教ヲ封内ノ農南橋下路傍ニ  
九八年ニシテ白川ニ有シ故封内ノ農南橋下路傍ニ  
代ノ近奉リ又入城シ玉ハ一藩林躍ノ松賀シ茲又ノ年  
歴ヲ始末ル少待陀タルカ如シ入城有テ直ニ朝陽山ニ指  
標シ夫ヨリ鎮守麻島社常宣寺学校本順次ヲ以テ恭拝シ  
玉フ恒例トリ後昔後述ハ時三九ハ四祿ニ罹リ其後  
ハニノ九殿中ニ住居有シカ地所狭キレハ今度棟宇ヲ三  
九ニ遷シ修理ヲ加ハ常居ト成玉フ固ヨリ素朴ヲ尚ヒテ  
俯餘ノ下ハ深リ禁シ玉ト何方モ禪ハ赤松葉ニテ渠リ墨  
ハ琉球也

公身侏儒弱ニ在セ也志気勇邁ニハ物ニ撓カズ時下ノ盛  
ル可キトヲ成シ玉フ或年日城ノ路中連日雨降続キ大田原  
迄至玉ヒレニ佐此川出水ノ渡リ難リ人ハ躡蹠也シ時  
公野袴着タルハ藤ノ川ニ入玉フヲ見テ是ハ一内水ニ  
入據渡倍送ノ山ハ水枯腰ヨリ上ニ漲リ迂急ナル所ヲ  
難ナリ打渡リハハ濡レル衣服ヲ絞リテ此後駕籠ニ  
乗玉ヒ徒士ヲ込シ後ヨリ渡来ルルニ手ヲ助ケヨ仕安ハ危シ  
互ニ手ヲ携テ渡リ流来ル樹木ハ手ニテ避ヨリ是ニ当レハ  
直ニ倒ル者少ト示玉ヒケレハ皆川逸シ助合テ恙ナリ  
渡リケル追ニ水萬添ヒ點ヨリ渡リトセシ輩ハ皆渡ル  
下能ハスノ滞留セリ公ハ其袂錦掛ニ荷シ玉ハ凡夜ハ  
襖モ此ニ残リルハ只座ノ袂ヲ明サセテ下宿ヨリ新

キ其具奉リタルヲ侍臣ニ授ケ順次用ニテ候ヘシト命シ  
出テ翌日越後川ニ絶津セシカハ屬籠野村田表兵多士  
市川源七二人命ヲ奉シ川ヲ泗キテ渡リ近ノ人ニ  
人志ナリ在大下ヲ告難ナリ归リケレハ達者ニ遊キタリ  
速厚ク賞賜アリ此ホモ畢竟一藩ノ英氣ヲ勸奨シ玉フノ  
賢慮也。是ヨリ後文化五年恭親ノ時久リ白川ニ大火魚  
レハ火災ノ用心ナクハシテ備シ藩士ニ貸置ル。武英ノ  
庫匠防火ノ沙汰シ玉ヒシニ果ソ翌春二月廿四日大火ニ  
テ馳駆ノ津進アリ諸人皆色ヲ失ヒシニ以テ自若トメ  
事ヲ処シ翌日江戸ヨリ急脚ヲ發シ早ノ城下ニテ火災大  
向所者ヘシト命シ玉フ控城ノ所置常人ノ思慮及ハル  
下ニテ則京流ノ火漸中和流砲所置玉町一貫目玉町相継テ

試設セリ是亦外海ヲ慮キ人元ノ川立玉ノ力也トソ奉行  
牧与左ノ門出所ノ火災ノ朝未委リ言上セシ時酒ヲ賜ヒ  
狂歌杯日々セリ是ホニテ暇字ノ廣大河知ルヘシ此  
学校ノ始演武場場不ク灰燼ニ成シケハ諸士文武懈怠  
ヲ有リ命シタル深慮ニテホ一祖廟オニ学校徑堂ト命シ玉  
キヤト何ケレハ人才ヲニ成育セハ樓櫓ノ二三ハ無キ也  
四家ノ備ハ整フヘキト也速才ニニ謀接徑堂有シト也  
造士ニ弓炮稽古ヲ命シ玉ヒ又同米蔵蓋ニ鉄炮稽古ヲ命  
シ郷出ノ時ハ奉行ニ隨フヘシト定玉フ此炮新ハ奉行  
ニ隊伍ノ指揮シ玉フ其外ノハ火災ニ候炮稽古ヲ許サレ江  
戸ニテハ度士ニ水練ヲ命シ幕府ノ寸事野田吉五郎ニ依

頼シ偶田川ニテ替古ナシメ  
シ試モアリ水馬毛自由ニ控  
四隍ニテ替古ナシメ家中  
其後徒士西人水市川源長  
リニ是道其山一急流テ江  
里外童崎大川ニ殊ナリ水  
董筋骨ヲ固メシ込本宅  
シヲ及玉口内ニ用人  
其初焚ニヨリ鏡テ健  
住未スルニ至シ本官ニ  
毛鎌倉遠見ノ沙汰有テ  
諸士毛望ニ任セラレ失  
倉邸物見前ニテ其業  
得クリ白川ハ追  
行テ見玉フ  
中大河ノ游方  
逐年大ニ熱  
水ノミナレハ六  
○藩中少年ノ  
健足ヲ試ミ  
往來ノ健  
煙袋ヲ賜フ  
穿テ本松迄  
木履ヲ穿テ  
江戶ニテ  
シ者有シ  
日里ノ  
出共  
ニ本松  
出共  
日里  
シ者  
有シ  
日里  
出共  
ニ本松  
出共  
日里  
シ者  
有シ

文化四年魯西亜ノ賊松前  
初奥前ノ決策馳駆ノ以テ日  
路ナシハ既後紛々ナリカ故  
ナシタルヲ老シテ年々久  
シ貴子持タル下ノ賞シ玉  
首ヲナシ志有ル者ハ一魚  
○海濱險然リノ取ヲ領シ越  
火矢ノ手配ヲ定メ不虞ノ  
ノ兵制ヲ研究有リ数年ノ  
圖ヲ編シ監言ハ雷學六ヲ  
シテ遠西洋考考下為廿五  
大ニ用ヲ成セリ又電四ノ  
諸士毛望ニ任セラレ失  
倉邸物見前ニテ其業  
得クリ白川ハ追  
行テ見玉フ  
中大河ノ游方  
逐年大ニ熱  
水ノミナレハ六  
○藩中少年ノ  
健足ヲ試ミ  
往來ノ健  
煙袋ヲ賜フ  
穿テ本松迄  
木履ヲ穿テ  
江戶ニテ  
シ者有シ  
日里ノ  
出共  
ニ本松  
出共  
日里  
シ者  
有シ



大祭車ノ時谷甲曹ヲ得道具シ栞色白深分一  
差物ヲ管ノ負種ニ隊ツ、加ル事ヲ定至フ諸組  
シ大隊中ニ鉄炮ノ放ツ、方考究改革有テ速  
尚下定々鉄炮ノ放ツ、方考究改革有テ速  
組十組ノ人唱テ大組ノ人唱テ大組ノ人唱テ  
一組ノ人唱テ大組ノ人唱テ大組ノ人唱テ  
ル由ニ教杖ハツ、玉ニ一ノ人唱テ大組ノ人  
自二由ニ教杖ハツ、玉ニ一ノ人唱テ大組ノ人  
用二由ニ教杖ハツ、玉ニ一ノ人唱テ大組ノ人  
ト進退ハツ、玉ニ一ノ人唱テ大組ノ人唱テ  
ノ陣退ハツ、玉ニ一ノ人唱テ大組ノ人唱テ  
仁ト陣退ハツ、玉ニ一ノ人唱テ大組ノ人唱テ  
レト陣退ハツ、玉ニ一ノ人唱テ大組ノ人唱テ  
頭レト陣退ハツ、玉ニ一ノ人唱テ大組ノ人唱テ

箱ニ納メ教授学致一学人ハ三人ノ内ニ預ケ置玉  
中軍隊諸士ノ炮術ノ備打ヲ工夫シ、后院番大  
ニ自テ教玉ノ隊伍自在ニ変化甚便也、早打番  
物該十六騎ノ中ヨリ四人ニ命シ、鉄炮ノ射、三  
少格ノ者ヲ選テ、大前役ト右舟是カ部下ハシ、  
炮術警古ナカシメ、候度ノ熟練スルヲ、下ハシ、  
非常ノ時ハ短キ長刀ヲ輪末ニ負、口大銃、建  
長刀ヲ以テ、接戦スルハ、進退用、習フ、前立物  
ル罷審、板也、炸術ニ勝レ、進退用、習フ、前立物  
者ニハ、小長刀ヲ炸術ニ勝レ、進退用、習フ、前立物  
是ヲ励マシ、半長刀ヲ炸術ニ勝レ、進退用、習フ、前立物  
撰ヒ、獲物組トシ、終ルハ、夫ノ獲道具ヲ持、重  
二当リ、平日ハ、魚ニ加、獲物組トシ、終ルハ、夫ノ獲道具ヲ持、重  
二当リ、平日ハ、魚ニ加、獲物組トシ、終ルハ、夫ノ獲道具ヲ持、重

シテ折ツ下ノ款ハ玉一丸度士松ハ下ハ弓矢玉菜ノ入費  
賜フ下谷定メアリ  
是ヨリ先キ一番ニ出タト云厄過分ノ費ヲ省キ質素堅序  
シ主トスヘシト令シ置玉ヒシニ大化五年寅月城ノ時諸  
臣ニ拜閣ヲ許シ玉ノ甲冑及大刀養添ノ類皆金銀ヲ倭ノ  
善美ヲ尽シタル装也 公唐漸典ニ對シ世亦怪リ思フハ  
シ自然外國ヨリ攻来ル時馬我人物ヲ知サレハ何レヲ  
誰ト辨ハ得ヌ唯其紫ノ美廣ナルヲ大將ト見ルハケレハ  
我此ノ製シタリト造リ玉ノ〇指物ハ葵梅鉢ノ四章ニ金  
ノ際ニ木其下ニ五枚ノ金ノ粒冊ヲ付ケ取仕リ此ヨリ  
毎春試革ニ貫短冊ニ三枚宛試革ノ款ヲ各玉ヒシカ如何  
思出レケン七十ノ春十枚計リリシテ悉ク尽然リ玉ノ  
是指物ハ馬印ニ用ヒ短冊ハ割符ニ用玉クハキ深慮

ナリトシ武為指具是亦寸革ノ七ヲ命シ巫人明玲改吉ヲ  
抱ヘテ修補セシメ公ノ着料ヲモ製シ陣羽織モ多ク製  
造アリ斯ノ如ク百重純ニ就シカハ硝炭ノ工人ヲ集メ製  
法種々尋究有テ江戸大塚ノ邸内ニ數多造ラシメ年期ノ  
至ルヲ待テコシテ試シ又加州ヨリ出ル硝炭勝レテ上品  
ナリト因友能者洛リケレハ多ク搬運セシメ炮術燧銃ノ  
如ク搗和ノ余シ其造術善悪ヲ試シ非常ノ備ニ蓄置キ大  
ノ様内ニ雷火ニモ打碎ケル鉛ハ封内牧野ニ多ク産シ大  
成玉ニ一品菜連白燧硝ヲ蓄ルニ火患ノ恐アル故工夫ヲ  
シ置田ル時ニ迄テ混和スレハ用ヲ成スニ妨無シテ平日  
イカナル所ニ蓄ル共大患ノ恐ナキ下ヲ得ルリカク銃術

ノ丁ニ心ヲ用玉ニ後敵銃ヲ防クヘキ楯ホノ丁迄モ工夫  
ヲ凝シ実効ヲ試ミ夫レ猶ヨナシ玉ハリ  
公位ノ始ヨリ學問ヲ勤メ一藩東孝ノ道ヲ知ヌシテハ  
此時ニ立難キ丁ヲ後余シ大臣柱不ノ責ニ任スルノ佳別  
シテ道理ニ暗クシテハ四家ノ政務所置シ難キ理ヲ論シ  
玉フニヨリ重臣ヲ始洛學問ニ志ヲ與セリ初改ノ以テ  
年ニテ救荒專務ノ時ナレ兵ニ先立文學武好ヲ勤メ決  
生ヲ台ヲ父ヲ備シ武ヲ講シ諸師範門外共初等急ナキ由  
向玉ニ山歳ノ後何レモ難美タルハ一修日流金ヲ賜  
フ幾ハクナリ執政ト成玉ニ大改改革ノ時ニテ取務態劇  
中ニモ心慮ヲ尽サレ廣政ニ年拜金津町ニ番町ニ於テ是  
迄有来リシ學問研ニ士流ニ軒ニ地ヲ并セテ學校ヲ經營

シ立教館ト名付自願字ヲ番シ公業素読習昼算數  
ノ局ニ相列シ各屬ノ學校ヲ奉行教授ノ學校目付奉  
改ハ後文ノ化四年ニ於テ學校ヲ兼修リ後流師ホノ政  
用番執政ノ化四年ニ於テ學校ヲ兼修リ後流師ホノ政  
子十ノ才意ノ上ノ七皆入學ト兼修リ後流師ホノ政  
向ノ大主意ノ上ノ七皆入學ト兼修リ後流師ホノ政  
ヲノ奉法ニシテ入學ト兼修リ後流師ホノ政  
諸士ニ親居ニ於テ北ノ南ノ梓見セシメ然於テ  
七シム河ノ下ニ有テ服ニ於テ北ノ南ノ梓見セシメ然於テ  
廉河ノ院掲之ヲ傳又徳聴滿ノ唱ハ毎四月廿日  
教授學以小學ノ後凡レ七神ノ日我ニ刻也但爾  
日ハ備ハス後河ノ後凡レ七神ノ日我ニ刻也但爾  
平ハ備ハス後河ノ後凡レ七神ノ日我ニ刻也但爾  
シカト云也者ニ平後ノ後凡レ七神ノ日我ニ刻也但爾



未ニ取調ハ唇上シメ向後毎月、未ニ出席帕面ヲ其終差  
出スハキ肯余シ玉トケレハ一人勉勵セシトナリ文武  
共テ可免状目錄、俸授ヲ得ル者ニハ必賞賜アリ出學  
幼童十才以七十四序十四才以下五経読了又十歳以下五経  
読了復読遺忘ナキ者ニハ賞賜必差アリ或ハ行状読唇亦  
苗実拔群ノ者ハ特賞ヲ蒙レリ  
責善集ヲ著シ才ニ勸学次ニ武士カレ其怯気ヲ去ハキ  
心得又教義仁ノ事杯解シ易ク唇玉ニ同志六七人ツ、社  
ヲ結ビテ多人數ヲ禁シ互ニ心腹ヲ明シ徑庭ナキヲ一  
トシ教授學以テ合致トナスモアリ善ヲ勸人惡ヲ懲シ專實事ヲ  
研究セシメ遊習ノ人ニモ此意ヲ会統シ奉職ノ基礎トナ

大ニキ為南合義之ヲ合致トメ講習シ又、公自ヲ細ニ教  
諭シ玉フ丁モアリ九武人ノ友ヲ公スル多クハ無益ノ難  
談ニ長シ終ニ言行ヲソコナラニ至リ易キヲカク尊キ玉  
ハ切實ニ文學ニ疎キ者ニ自ラ過ナキニ至リ此社中ニ志  
告切實ニ成テ著書切實ニ著シハ過テテ後害有ルハシト  
教テ信ヲ用教化極ヲ著シハ過テテ後害有ルハシト  
在城ニ時重臣ノ年若キ者又立教館法生ノ中志厚キ者ヲ  
召ルテ大學ヲ首トシ其外経局ヲ自ラ講シ玉ハリ儒生ノ  
講釈トテ趣ヲ異ニシ修身治四ノ一ヨリ日用ノ事務ニ及  
フ迄深切ニ説玉ハハ文學ニ疎キ者モ公得シ易シ又重臣  
ノ嫡子年少ノ人ニモ古人之志孝義烈ノ事蹟ヲ列記  
シ心術ノ成敗得失ノ分弁亦細ニ説示シ人林成就ノ一特





ハ平坊主迄出テ学フ時、甲曾ヲ着テ誓古大ヘシ又庚合  
ハ合功ヲ積時ハ必自ラ合得タル者也ト教ヘ玉ヒ或ハ年  
少達夫ノ輩ヲ庭上ニ召甲曾一俯ノ終日其業ヲナシ筋骨  
ヲ練シメ或ハ居間ノ次ニ於テ暗祀ニ乗シ近侍ノ者ニ帯  
甲十廿シメ其遲速ヲ試ミ居合刀モ長短共ニ出シ置キ朝  
夕ノ暇ニハ稽古セシメ玉フ故ニ此時ノ侍臣亦文武ノ業  
一二苑ニ熟セサル者無リシトソ  
在城ノ年毎ニ兩家及老臣ノ輩ヲ召テ酒肴ヲ賜ヒ或ハ園  
庭游豫ノ信送メ俸セラル、アリ鎮岡ハ祭日又ハ  
祝宴ホ知ニ必給テ酒ヲ賜フ兩家及老臣ノ宅ニ入セ玉フ  
節ハ在城ノ復シ給テ酒ヲ賜フ兩家及老臣ノ宅ニ入セ玉フ  
便路ニ物アリ城ノ復シ給テ酒ヲ賜フ兩家及老臣ノ宅ニ入セ玉フ  
便路ニ物アリ城ノ復シ給テ酒ヲ賜フ兩家及老臣ノ宅ニ入セ玉フ

子輕ニ敷弓劍槍侍歌ホヲ十者ヲ拾キ饗應トナシ前髪  
成テ輕ニ敷弓劍槍侍歌ホヲ十者ヲ拾キ饗應トナシ前髪  
輩ハ所業ニ畢テ主人ヨリ格ノ武術ヲ習フ五シテ或ハ近侍老  
臣ノ子共ニ横笛笙杯吹也且シ至テ後ニモ遊情ニ  
流至フトモアリ或時松平老ノ宅ニ行セラレシ時碁ヲ圍  
玉フトモアリ或時松平老ノ宅ニ行セラレシ時碁ヲ圍  
家ニ碁盤トキコソ祝肴スヘシ能シ汝ニ記シ置ヘシ後世  
必碁盤双六皆設置テ尺ルヲナキ時ハ今ノ如ク物具ノ備  
ハ如何アリシト也又兩家及諸老長ニ平時將見非帯立退  
レリト直ヒシト也又兩家及諸老長ニ平時將見非帯立退  
谷水ノ陸ニ回テ別荘ヲ経営シ立寄ヲ願ケレハ是ニモ

一巡 立寄 玉 此 時 八 教 授 学 始 待 歌 賞 長 玉 吉 村 氏 呂  
別 庄 南 湖 共 具 傳 父 例 玉 以 山 水 歌 賞 長 玉 吉 村 氏 呂  
入 和 元 年 学 校 每 年 有 講 壇 其 外 馬 路 上 達 九 有 子  
享 和 元 年 学 校 每 年 有 講 壇 其 外 馬 路 上 達 九 有 子  
公 誠 意 以 王 勸 王 玉 行 驗 題 欣 々 月 一 度 ヲ  
待 歌 公 王 勸 王 玉 行 驗 題 欣 々 月 一 度 ヲ  
作 者 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十 一 十 二 十 三 十 四 十 五  
又 漏 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十 一 十 二 十 三 十 四 十 五  
水 戸 界 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十 一 十 二 十 三 十 四 十 五  
一 水 戸 界 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十 一 十 二 十 三 十 四 十 五  
待 歌 公 王 勸 王 玉 行 驗 題 欣 々 月 一 度 ヲ  
日 待 歌 公 王 勸 王 玉 行 驗 題 欣 々 月 一 度 ヲ  
園 待 歌 公 王 勸 王 玉 行 驗 題 欣 々 月 一 度 ヲ  
取 前

各 五 其 業 試 演 考 試 後 諸 生 及 物 酒 年 終 祭 事  
葉 子 賜 甲 甲 四 各 集 規 則 有 於 學 校 再 建 後 始 天  
素 對 德 甲 甲 四 各 集 規 則 有 於 學 校 再 建 後 始 天  
或 學 校 入 殿 中 於 考 試 十 三 日 學 校 再 建 後 始 天  
歸 城 時 視 學 唱 學 校 臨 三 教 授 三 大 學 綱 領 天  
講 款 命 學 校 掛 諸 有 司 諸 范 師 範 台 講 遠 西 側 天  
列 坐 七 十 八 公 中 央 三 座 占 玉 庭 上 三 雜 水 天  
奏 吸 物 酒 賜 通 口 校 中 兒 童 畫 讀 本 三 雜 水 天  
者 二 命 児 童 勸 諸 師 範 倍 文 武 業 盛 勸 勉 天  
へ 幸 命 了 此 日 諸 生 進 歩 歡 喜 三 雜 水 天  
我 玉 詠 奇 了 諸 生 進 歩 歡 喜 三 雜 水 天  
行 末 回 先 三 十 七 四 言 業 露 毛 玉 十 三 雜 水 天  
小 松 原 朝 夕 露 三 十 七 四 言 業 露 毛 玉 十 三 雜 水 天

武苑ヲ試ミ玉フテ年ニ一度ニ丸馬場ニ於テ行ハル一  
藩ノ士悉ク出ツ又居間ノ庭上ニテ諸戎一ニ流ツ出精  
ノ者ヲ召テ毎月一二度替ル見玉フ矢賜フ扇ヲ出多  
クハ常ノ試合ナレバ或ハ東西試合中左右ニ人数ヲ分テ  
勝負ヲ争ヒ又一本勝負ト唱ハ一人ノ者ハ稽ル出死モ  
アリ或ハ雪降ル日杯今日ハ何流出席ノ者皆出ツハ建  
俄ニ庭上ニ召テ見玉フアリ其時ハ必酒ヲ賜ヒ肴  
美酒ヲ飲リ其ハ酒好ハ田重ヲナシ上ノ肴ハ酒ヲ賜ヒ肴  
毎ニ眼ヲ配リ其ハ酒好ハ田重ヲナシ上ノ肴ハ酒ヲ賜ヒ肴  
故ソ杯卓或ハ但合置シカクスト沙汰シ玉フテ不  
師中合ニ心モ業モ一入研究ノ上達ノ者多シ武苑ノ  
定度日會ニ流ル一待テ勝負アリシニ市森守和信  
世或日四天一流一待勝負アリシニ市森守和信

正片ノ利カニ刀片ノ突カハ切方勝レテ一カナリヤカテ  
中思ハ片ノ利カニ刀片ノ突カハ切方勝レテ一カナリヤカテ  
殊勝ハ以下ノ声ヲ羨シテ其ハ酒好ハ田重ヲナシ上ノ肴ハ酒  
士格ハ以下ノ声ヲ羨シテ其ハ酒好ハ田重ヲナシ上ノ肴ハ酒  
負ナルル者六ト宣ヒハ勝リツ又純朝月ハ杯ニ和壽侍文ニ  
長セル者六ト宣ヒハ勝リツ又純朝月ハ杯ニ和壽侍文ニ  
賜ヒテ其ハ酒好ハ田重ヲナシ上ノ肴ハ酒ヲ賜ヒテ其ハ酒  
ノ者武苑ハ其ハ酒好ハ田重ヲナシ上ノ肴ハ酒ヲ賜ヒテ其ハ酒  
玉ヲ立教ハ直ニ閣シ玉フ○藩中ニテ車馬ヲ糞キ置ク者  
隊ヲ立教ハ直ニ閣シ玉フ○藩中ニテ車馬ヲ糞キ置ク者  
ノ乗馬ヲ見玉フアリ又時ニ和虎曲輪ニ於テ屋敷シ  
成ハシムル所多ク出シ玉フ廣キ曲輪ニ於テ屋敷シ  
テ治ト雖ハ其ハ酒好ハ田重ヲナシ上ノ肴ハ酒ヲ賜ヒテ其ハ酒

十カシノ其後小笠原伊勢ノ西流ヨリ丸物堂掛、美種、  
射礼ヲ習ハシノ大退物ノ寒式ヲ工夫アリテ同ク行ハ

レタリ  
公夜間寝休ニ在シ人材退ニ成智シ封内庶属ニ赴キ教化  
ヲ行ハル、一ヲ堯ヒ族教舞誘掖、二法ヲ友求シテ眠ル一

ヲ念レ玉フニ至レリ諸生講読、一為ニ歳昏ニ年、二賈上或  
ハ勝写ヲ余セテ文化六年迄ニ二万餘卷ニ至ル、三額ア

モテ坐有ニ部外ハシ迄年昏暮ヲ戒メテ七五ヲ陰、四額ア  
納テ玉アリ、五部外ハシ迄年昏暮ヲ戒メテ七五ヲ陰、六額ア

向所ニモ夫、七貯ハ公常用ノ昏ハ小納戸、八文庫ニ納メ  
珍心ヲ普通シ、九昏藉ハ六テ所ニアリ、一〇花借家、一一秘記、一二納メ

文少楷字ニシテ伊治ニテ奉御侍、一水戸治、二徳川、三月、四二年、五己丑、六辰、七月、八五日、九リ  
表題ニシテ、一〇徳川、一一治、一二奉御、一三侍、一四水戸、一五治、一六徳川、一七月、一八二年、一九己丑、二〇辰、二一月、二二五日、二三リ  
氏名、二四徳川、二五治、二六奉御、二七侍、二八水戸、二九治、三〇徳川、三一月、三二二年、三三己丑、三四辰、三五月、三六五日、三七リ  
山侯、三八徳川、三九治、四〇奉御、四一侍、四二水戸、四三治、四四徳川、四五月、四六二年、四七己丑、四八辰、四九月、五〇五日、五一リ  
野侯、五二徳川、五三治、五四奉御、五五侍、五六水戸、五七治、五八徳川、五九月、六〇二年、六一己丑、六二辰、六三月、六四五日、六五リ  
典、六六徳川、六七治、六八奉御、六九侍、七〇水戸、七一治、七二徳川、七三月、七四二年、七五己丑、七六辰、七七月、七八五日、七九リ  
加、八〇徳川、八一治、八二奉御、八三侍、八四水戸、八五治、八六徳川、八七月、八八二年、八九己丑、九〇辰、九一月、九二五日、九三リ  
四、九四徳川、九五治、九六奉御、九七侍、九八水戸、九九治、一〇〇徳川、一〇一月、一〇二二年、一〇三己丑、一〇四辰、一〇五月、一〇六五日、一〇七リ  
比、一〇八徳川、一〇九治、一一〇奉御、一一一侍、一二水戸、一二治、一三徳川、一四月、一五二年、一六己丑、一七辰、一八月、一九五日、二〇リ  
以、二一徳川、二二治、二三奉御、二四侍、二五水戸、二六治、二七徳川、二八月、二九二年、三〇己丑、三一辰、三二月、三三五日、三四リ  
品、三五徳川、三六治、三七奉御、三八侍、三九水戸、四〇治、四一徳川、四二月、四三二年、四四己丑、四五辰、四六月、四七五日、四八リ  
年、四九徳川、五〇治、五一奉御、五二侍、五三水戸、五四治、五五徳川、五六月、五七二年、五八己丑、五九辰、六〇月、六一五日、六二リ  
校、六三徳川、六四治、六五奉御、六六侍、六七水戸、六八治、六九徳川、七〇月、七一二年、七二己丑、七三辰、七四月、七五五日、七六リ  
用、七七徳川、七八治、七九奉御、八〇侍、八一水戸、八二治、八三徳川、八四月、八五二年、八六己丑、八七辰、八八月、八九五日、九〇リ  
下、九一徳川、九二治、九三奉御、九四侍、九五水戸、九六治、九七徳川、九八月、九九二年、一〇〇己丑、一〇一辰、一〇二月、一〇三五日、一〇四リ

有テ諸生ソ待作ヲ余ニ玉フ寛政ノ末僧白雲中四ヨリ帰  
リ未テ倫及四朝浦ノ民家ニ横溝恒三郎ト云俊重ア凡ヨ  
シ活リテハ志有テモ都合遊學成難リハ先ッ白川ニ寄  
テ寮ニ入リ於行セシムト沙汰シ玉ヒ路費送賜ヒケ  
レハ彼ノ父母丸ニ荒口速ニ白川ニ送リ衣服草履ノ料  
ヲモ賜ヒテ學ハシメ経史ヲ始侍父モ能シ天性ノ文材ナ  
リ十六歳ニテ来リ三年ニノ親ノ病ニ因テ归省セリ他方  
ノ人ヲモ材番アル者ハカリ愛シ玉ヒリ○廣瀬典ハ居宅  
ニ厩樓ヲ増築シテ賜フニ詩文ノ盟社ヲ合集セヨト命  
チリシカ懇遇シ心ニ味ナシヲ恐懼ヲ拜シ奉リシニ教  
授ヲ為ニ北ノ必祥ナルヲ勿レト自製ノ文章ヲ賜ヒ樓  
ヲ勿錦樓ト名付玉フ○井上龜寿ハ子自製ノ文章ヲ賜ヒ樓

ニテ能ク居テ徳ニ待テ賦シ父ヲ衛メ收ニ孝経ヲ賜ヒテ  
之ヲ特賞シ者ヲ徳ニ賞シテ任ヲ賜フハ推與トス秩其後本  
ヲ受シ劉明相去来ノ語ニ原キ自尔ノ文章ヲ添ハ意奉ニ  
松御ハ十郎ニ任御桂ニ菊御ト字ヲ賜ヒ其成本ヲ勸勵シ  
玉フ其文ニ云

定借生而十二以正直之生而長之一歳並好同常賦待属  
文以為三奇我甚愛之依劉明之語字之曰松御回所  
御回菊御所以愛共欢其奇而成林也若其奇而不成林則  
我將何持愛焉欽哉 寛政八年十二月十九日  
清水既音尚ニ刻意ニ江戸遊學中病ニ罹リ病中ニモ枕魚  
子ナリシ由メ向玉ヒ此波ノ時憚惜ノ香花ノ料ヲ賜フ者  
未惣本漸門年来到所ノ許研ニ卅九才ニメ始テ自得シメ

ル丁アリト問セウレ親ク其意興ヲ尋テ詠歌ヲ賜ヒ其門  
人山内又十高石原兵左門下召シ是モ詠歌ヲ賜ヒ古  
傳友門四天流劍術指南ニテ自得スル所アリ門人モ教  
多勲勳進業ハルカアルノ賞ノ官席ヲ進メ岡田平右門  
才所妙手ナルヲ賞ソ公ノ師ヲリ叙授シタル佳辰ヲ讓  
與一青木長兵考劍ヲ自在ニ揮揮スレハ望ニ任セテ三尺  
五寸ノ長刀ヲ叙匠ニ作ラシメテ是ヲ賜フ首差金ハ大腕  
百目五寸目半ノ炭ヲ試シテ時手自座右ノ大目荷ヲ賜  
上狹間後者十一歳ニテ大腕十女目三首差ノ演習セルヲ  
黄ノ金子ヲ賜フ此後又於テ是ノ賞ヲ厚ク修シテ其ノ  
此者松村志不ノ門春秋流旗幟ヲ修行シ武藝ハ心掛厚リ  
シテ齋力ヲレハ巨横ヲ賜ヒ植日飢ニ昂肥大ナルハ力ヲ

發出スルニ逆直ハ鉄棒四安源兵決武苑館於劍ニ長  
ルヲ以テ長叙賜ハ又賜ヒ學憲法生ノ疏食スルヲ問玉  
ヒテ或ハ贈ヲ賜ヒ又教授學以ニ能掌ヲ熟シテ賜フノ類  
文武ニ分テ細ニ心ヲ用テ勸奨ナシ玉下ナシハ年壯ノ者  
ハ云ニ及ハス老幼凡文武ノ業ヲ勵ニ僕隸ニ至ル迄文學  
ニ志ス此輩中ニテ賞ヲ蒙ル地亦多シ  
昔隋唐ノ樂吾朝ニ漢リタル後彼王ニ絶佳ノ吾朝ニ  
存セシカ是モ朝綱ノ解池ニ隨ヒ或ハ秘シテ失ヒ或ハ世  
乱ニ廢シ其行ハル所モ認使多ク古樂絶タル均  
シカリシヲ有佐大君召置モ有セウシ味ニ田安魚出  
御復古ノ志厚ク在シ五ノ法家ノ秘術名山ノ秘蔵ヲ悉  
ク纂集有テ其志ノ遠サ也玉ノ宗武卿才渾有セウレ目ヲ





朝陽山神廟、於五帝樂、可哉樂、音曲、一日午  
 回或、百回覆奏、又學校、於五月一度、試與、於紫  
 未、習樂、也、玉、抑此、美意、有德、九、及、京、武、廟  
 遺、志、也、進、卡、天下、為、當、席、一、雅、持、也、置、注、古、樂、再、具、  
 時、玉、朝、廷、用、成、子、一、天、ア、ル、且、之、教、  
 助、下、成、玉、之、也、ト、ソ、舞、樂、ハ、禁、中、テ、タ、マ、  
 行、ル、ハ、英、園、本、ニ、終、テ、十、ケ、レ、ハ、殊、ニ、復、古、ノ、盛、事、ヲ、叙、  
 慕、シ、玉、ハ、厄、伊、大、納、言、治、室、御、ヨ、リ、懇、希、セ、テ、ル、ニ、マ、リ、  
 交、リ、厄、部、ニ、出、シ、舞、樂、ヲ、十、サ、シ、メ、玉、ハ、カ、ハ、御、大、ニ、感、悅、  
 下、リ、儀、奏、廣、橋、一、位、伊、先、御、ヲ、指、キ、玉、ハ、シ、時、モ、舞、樂、ヲ、奏、セ、  
 下、レ、シ、カ、御、大、感、悅、御、ヲ、指、キ、玉、ハ、シ、時、モ、舞、樂、ヲ、奏、セ、  
 在、セ、ル、年、三、月、廿、日、也、後、同、七、年、指、キ、玉、ハ、シ、時、モ、舞、樂、ヲ、奏、セ、  
 文、化、元、年、三、月、廿、日、也、後、同、七、年、指、キ、玉、ハ、シ、時、モ、舞、樂、ヲ、奏、セ、

命、シ、賀、セ、テ、レ、テ、御、翌、日、使、ヲ、以、テ、謝、行、ヲ、述、玉、ヲ、オ、  
 知、命、シ、賀、セ、テ、レ、テ、御、翌、日、使、ヲ、以、テ、謝、行、ヲ、述、玉、ヲ、オ、  
 其、使、ヲ、賀、セ、テ、レ、テ、御、翌、日、使、ヲ、以、テ、謝、行、ヲ、述、玉、ヲ、オ、  
 ト、ヨ、シ、儀、奏、廣、橋、一、位、伊、先、御、ヲ、指、キ、玉、ハ、シ、時、モ、舞、樂、ヲ、奏、セ、  
 リ、已、ニ、儀、奏、廣、橋、一、位、伊、先、御、ヲ、指、キ、玉、ハ、シ、時、モ、舞、樂、ヲ、奏、セ、  
 吾、ハ、贈、答、又、古、代、侍、ノ、シ、儀、奏、廣、橋、一、位、伊、先、御、ヲ、指、キ、玉、ハ、シ、時、モ、舞、樂、ヲ、奏、セ、  
 伶、人、ノ、家、ニ、健、フ、ル、者、ニ、メ、田、安、ノ、復、古、ト、雖、私、事、ニ、屬、セ、  
 ル、故、任、家、ノ、舞、樂、ヲ、学、ヒ、置、ハ、シ、史、京、師、ノ、伶、官、上、左、近、將、監、  
 伯、近、之、尊、和、元、年、日、光、ニ、行、キ、帰、路、暫、ク、滯、府、セ、シ、時、舞、ヲ、ヨ、  
 リ、ス、ル、近、也、四、人、ヲ、選、ヒ、入、門、ヲ、命、シ、先、ツ、近、之、ヲ、召、レ、厚、リ、  
 托、シ、玉、ハ、ケ、レ、ハ、左、方、十、八、曲、ノ、興、意、ヲ、悉、リ、傳、授、セ、リ、古、ノ、  
 舞、曲、中、ニ、遙、ト、抑、有、リ、是、モ、宗、武、御、ノ、考、行、ニ、テ、其、心、ヲ、得、テ、  
 レ、厄、持、明、院、家、ニ、入、門、シ、其、傳、ヲ、受、シ、メ、玉、ヲ、其、心、慮、ヲ、  
 尽、メ、後、世、一、傳、ハ、シ、テ、謀、テ、玉、ヲ、宗、武、御、既、ニ、樂、曲、考、  
 數、小、卷、ヲ、著、述、シ、玉、ハ、テ、復、古、ノ、道、ハ、洋、十、レ、モ、古、代、ノ、法、則、

存セサルヲ歎キ五ヒテ古樂昏數十部ヲ卷リ抄録シ樂管  
殺徑雅俗ノ樂ヨリ 朝廷、行事臨時ノ祭式游宴等ニ  
至ル迄内御ヲ分テ撰ハシメ五ノ此合ハ左記三年在城中  
ニ命ジテシテ稿本既ニ成リ後橋仲家ノ記帳ヨリ當時行  
ル、必、事實ヲモ加ヘシニ述致仕ノ後松山成徳ニ命セウ  
レ西半抄録ノ功ヲ竣シニ文政十一年、大定ニ稿本ト共  
ニ燒亡ス是、於テ再<sup>成徳</sup>加流<sup>成徳</sup>流<sup>成徳</sup>編集ヲ命セテレ也ニ  
西卷<sup>成徳</sup>抄<sup>成徳</sup>リ脱稿ニ及ヘリ此昏初ハ為樂大成成樂美編樂典  
十ノ半玉一シホ未夕定名ナリノ長逝シ玉フ○公岡通、  
業ニハ横笛ヲ吹セウル幼年ノ時習ヒ玉フ、ミナルカ事  
和ノ阿京師ヨリ伶人下リニ内密淡<sup>成徳</sup>吹<sup>成徳</sup>笛ニ長シタル由  
ヲ聞セテシ招テ横笛、蘆與ヲ同セテウル岡氏感賞ノ業ハ

能三角毛斯迄扱心ナル方ヤアルハナシ<sup>直</sup>大曲、傳ヲ授テ  
奉<sup>成徳</sup>シ<sup>成徳</sup>リ 密右馬允ニ命シ幕臣ノ礼麻<sup>成徳</sup>ハ笠原平兵衛ヲ師  
容儀ハ<sup>成徳</sup>此<sup>成徳</sup>密<sup>成徳</sup>右<sup>成徳</sup>馬<sup>成徳</sup>允<sup>成徳</sup>ニ<sup>成徳</sup>命<sup>成徳</sup>シ<sup>成徳</sup>幕<sup>成徳</sup>臣<sup>成徳</sup>ノ<sup>成徳</sup>礼<sup>成徳</sup>麻<sup>成徳</sup>ハ<sup>成徳</sup>笠<sup>成徳</sup>原<sup>成徳</sup>平<sup>成徳</sup>兵<sup>成徳</sup>衛<sup>成徳</sup>ヲ<sup>成徳</sup>師  
ト<sup>成徳</sup>ノ<sup>成徳</sup>学<sup>成徳</sup>ハ<sup>成徳</sup>シ<sup>成徳</sup>人<sup>成徳</sup>皆<sup>成徳</sup>傳<sup>成徳</sup>ヲ<sup>成徳</sup>得<sup>成徳</sup>タ<sup>成徳</sup>リ<sup>成徳</sup>又<sup>成徳</sup>其<sup>成徳</sup>馬<sup>成徳</sup>毛<sup>成徳</sup>小<sup>成徳</sup>笠<sup>成徳</sup>原<sup>成徳</sup>ハ<sup>成徳</sup>礼<sup>成徳</sup>ヲ<sup>成徳</sup>學<sup>成徳</sup>ヒ  
春<sup>成徳</sup>ニ<sup>成徳</sup>テ<sup>成徳</sup>數<sup>成徳</sup>百<sup>成徳</sup>卷<sup>成徳</sup>シ<sup>成徳</sup>リ<sup>成徳</sup>右<sup>成徳</sup>馬<sup>成徳</sup>允<sup>成徳</sup>内<sup>成徳</sup>才<sup>成徳</sup>、<sup>成徳</sup>中<sup>成徳</sup>田<sup>成徳</sup>中<sup>成徳</sup>由<sup>成徳</sup>章<sup>成徳</sup>ハ<sup>成徳</sup>二<sup>成徳</sup>ノ<sup>成徳</sup>學<sup>成徳</sup>ヒ  
伊勢平<sup>成徳</sup>茂<sup>成徳</sup>ニ<sup>成徳</sup>入<sup>成徳</sup>門<sup>成徳</sup>ヒ<sup>成徳</sup>シ<sup>成徳</sup>人<sup>成徳</sup>是<sup>成徳</sup>モ<sup>成徳</sup>皆<sup>成徳</sup>傳<sup>成徳</sup>ヲ<sup>成徳</sup>受<sup>成徳</sup>テ<sup>成徳</sup>佳<sup>成徳</sup>昏<sup>成徳</sup>殘<sup>成徳</sup>ル<sup>成徳</sup>也<sup>成徳</sup>十<sup>成徳</sup>ノ<sup>成徳</sup>學<sup>成徳</sup>ヒ  
河<sup>成徳</sup>シ<sup>成徳</sup>二<sup>成徳</sup>流<sup>成徳</sup>ノ<sup>成徳</sup>中<sup>成徳</sup>弓<sup>成徳</sup>馬<sup>成徳</sup>ノ<sup>成徳</sup>礼<sup>成徳</sup>妻<sup>成徳</sup>夕<sup>成徳</sup>初<sup>成徳</sup>欠<sup>成徳</sup>ル<sup>成徳</sup>也<sup>成徳</sup>十<sup>成徳</sup>ノ<sup>成徳</sup>學<sup>成徳</sup>ヒ  
授<sup>成徳</sup>興<sup>成徳</sup>ニ<sup>成徳</sup>命<sup>成徳</sup>セ<sup>成徳</sup>テ<sup>成徳</sup>シ<sup>成徳</sup>テ<sup>成徳</sup>御<sup>成徳</sup>射<sup>成徳</sup>礼<sup>成徳</sup>ニ<sup>成徳</sup>擬<sup>成徳</sup>シ<sup>成徳</sup>学<sup>成徳</sup>校<sup>成徳</sup>講<sup>成徳</sup>前<sup>成徳</sup>ニ<sup>成徳</sup>テ<sup>成徳</sup>攝<sup>成徳</sup>儀<sup>成徳</sup>上<sup>成徳</sup>下<sup>成徳</sup>  
ノ<sup>成徳</sup>勝<sup>成徳</sup>負<sup>成徳</sup>ヲ<sup>成徳</sup>争<sup>成徳</sup>ヒ<sup>成徳</sup>飲<sup>成徳</sup>酒<sup>成徳</sup>ス<sup>成徳</sup>ル<sup>成徳</sup>、<sup>成徳</sup>礼<sup>成徳</sup>等<sup>成徳</sup>モ<sup>成徳</sup>行<sup>成徳</sup>ハ<sup>成徳</sup>シ<sup>成徳</sup>也<sup>成徳</sup>ハ<sup>成徳</sup>女<sup>成徳</sup>後<sup>成徳</sup>絶<sup>成徳</sup>射<sup>成徳</sup>ニ<sup>成徳</sup>及<sup>成徳</sup>  
諸<sup>成徳</sup>義<sup>成徳</sup>ノ<sup>成徳</sup>修<sup>成徳</sup>行<sup>成徳</sup>ハ<sup>成徳</sup>公<sup>成徳</sup>ヨリ<sup>成徳</sup>命<sup>成徳</sup>ジ<sup>成徳</sup>玉<sup>成徳</sup>フ<sup>成徳</sup>モ<sup>成徳</sup>アリ<sup>成徳</sup>或<sup>成徳</sup>ハ<sup>成徳</sup>巴<sup>成徳</sup>カ<sup>成徳</sup>起<sup>成徳</sup>テ<sup>成徳</sup>ハ  
テ<sup>成徳</sup>願<sup>成徳</sup>出<sup>成徳</sup>カ<sup>成徳</sup>ル<sup>成徳</sup>モ<sup>成徳</sup>アリ<sup>成徳</sup>繼<sup>成徳</sup>孫<sup>成徳</sup>ノ<sup>成徳</sup>二<sup>成徳</sup>三<sup>成徳</sup>男<sup>成徳</sup>迄<sup>成徳</sup>文<sup>成徳</sup>武<sup>成徳</sup>游<sup>成徳</sup>學<sup>成徳</sup>ノ<sup>成徳</sup>志<sup>成徳</sup>有<sup>成徳</sup>テ<sup>成徳</sup>貧

廣、力ニ遠ル、能ハハル者、願ニ因テ、行料トシテ、米屋  
ヲ賜ヒ、其力ヲ竭サシメ、玉フ故ニ、人オ成テ、行料トシテ、米屋  
十、千、枚、菟、智、得、タ、ル、者、少、ク、ナ、リ、又、流、島、中、島、流、佐、中、二  
伊、勢、流、古、真、智、得、タ、ル、者、少、ク、ナ、リ、又、流、島、中、島、流、佐、中、二  
華、道、手、理、古、真、智、得、タ、ル、者、少、ク、ナ、リ、又、流、島、中、島、流、佐、中、二  
新、規、古、人、理、古、真、智、得、タ、ル、者、少、ク、ナ、リ、又、流、島、中、島、流、佐、中、二  
二、州、警、所、ノ、余、ヲ、蒙、リ、玉、フ、時、地、所、ノ、劍、南、ヨ、リ、シ、テ、凡、百、ノ、徑  
營、隊、ノ、備、ハ、置、キ、玉、フ、軍、用、金、ヲ、以、テ、并、又、シ、テ、不、容、易、ノ、入、度  
十、レ、ハ、族、ノ、前、俗、ヲ、全、シ、修、行、ノ、給、賜、毛、暫、ク、止、メ、玉、ヒ、タ、ル  
力、退、後、ノ、後、ハ、其、身、ノ、衣、食、ヲ、前、ノ、贏、餘、ヲ、賜、ヒ、修、行、ヲ、續、セ  
子、レ、文、武、ノ、外、樂、曲、又、俗、画、ホ、ノ、修、行、ニ、出、ル、者、ニ、モ、同、ク、典  
ハ、玉、フ、星、野、文、良、ハ、益、ノ、長、ノ、志、尊、ク、シ、テ、京、撰、ク、地、ヨ、リ、中  
因、迄、持、歷、ス、一、千、百、余、セ、テ、レ、テ、旅、費、ヲ、賜、フ、且、是、ノ、後、ハ、世

廣、ク、交、リ、十、ハ、益、事、ノ、助、ト、ナル、ハ、シ、申、勤、仕、ヲ、免、シ、玉、ヒ  
子、遠、家、ノ、如、ク、外、宅、ス、ヘ、シ、ト、命、セ、テ、レ、佛、家、文、是、ノ、近、隣、下  
谷、町、ニ、卜、唐、ノ、其、入、費、悉、ク、賜、ヘ、リ、昔、王、リ、医、家、モ、取、人、ノ、外  
所、宅、ノ、例、ナ、シ、逆、有、リ、業、免、商、言、上、セ、シ、カ、人、林、ヲ、養、ヒ、玉、フ  
昔、趣、ク、委、ク、諭、シ、玉、ヒ、ケ、レ、ハ、梓、諾、セ、リ、又、中、村、春、順、江、戶、ニ  
出、テ、南、部、伯、民、ニ、入、門、シ、医、業、ヲ、學、ヒ、シ、時、モ、格、テ、平、定、ヲ、賜  
上、伯、民、伯、國、ニ、付、長、州、迄、隨、行、テ、今、一、年、モ、修、行、セ、シ、ト、欲、ス  
ル、由、肉、玉、ヒ、テ、又、其、旅、費、ニ、賜、ヒ、ケ、レ、ハ、或、人、春、順、先、ニ、水、子  
ノ、原、南、河、北、本、元、厚、ノ、兩、師、ニ、入、門、セ、シ、時、モ、卷、ク、手、處、ヲ、賜  
上、恩、顧、深、キ、ニ、過、ヘ、シ、ト、言、上、シ、ケ、レ、ハ、波、仕、ノ、後、昔、職、ニ、扱  
フ、ハ、十、一、ナ、シ、責、テ、人、材、ヲ、養、育、シ、テ、因、家、ノ、為、ニ、ナ、サ、シ、ト  
宣、ヒ、キ、嵩、長、庵、老、生、丹、ヲ、製、セ、シ、ト、谷、池、ス、レ、正、費、用、心、ニ、任







經教條約、為付テ之ヲ授ケテ教ヘシム人教諭ノ為  
時、教授學以ニ巡視ヲ命ジ、如ハ句徒師ヨリ一人  
出席ノ講釈シ、ホニ舎ハ初林某、後樞池、其ヲシテ適宜ニ隨  
ト遠留メ教ヘシメタルハ、必モ演習川一行セラル、ナ  
必郷學ニ任シ玉フ、寛政十一年五月十一日、南滿有テヨリ  
諸生、日毎ニ多シ出席シ、漸シ教化行ハシ、人々孝才、道ヲ  
知リ、家業ヲ勵ミテ、凡俗自ラ善ニ移レリ  
仁惠ノ事ニ多カリシ中ニ、江戶ハ此、佐郎前ノ板川、汲洪、聖  
塞シ通船、得難カリシ時、官ニ任シ玉フ、許多ノ費用ヲ出シ  
之ヲ浚ハシ、人々速ニ成リ、アリテ、其利ヲ蒙リ、人々多シ  
江戶藩邸ノ中間、部屋ハ年々、疫癘ノ病々共下リ、賤者十  
レハ、医業ニ心ニ任セ、大治ス、ハナキ者モ動モスレ、死、至

ル下ノ、火、恤ニシテ、海ノ五、ハ、ン、為ニ、毎年、四月、九日ニ、倉、米、ヲ  
燒キ、テ、疫、氣、ヲ、除リ、一、十、百、餘、也、テ、レ、後、又、創、製、シ、玉、ヒ、タ、ル  
餘、疫、丸、ヲ、興、一、專、ヲ、コ、シ、テ、服、セ、シ、人、北、上、キ、テ、ヲ、得、ル、ニ  
至、レ、リ、或、年、疫、癘、流行、ノ、是、極、中、間、共、病、者、多、ク、リ、シ、時、共、部  
屋、ノ、前、ヲ、故、ナ、シ、ニ、通、行、シ、玉、ヒ、ケ、レ、ハ、人、々、大、ニ、感、其、セ、リ  
ト、ソ、ノ、或、時、管、内、ニ、テ、高、中、ヲ、溢、シ、打、殺、シ、皮、ヲ、剥、取、タ、ル、者  
二、人、アリ、有、リ、斬、断、ニ、処、ス、ハ、キ、肯、言、上、シ、ケ、レ、ハ、其、罪、アリ  
ト、虫、獸、ノ、故、ヲ、以、テ、人、ヲ、殺、ス、可、ク、ス、百、杖、ヲ、罰、メ、管、内、ヲ、退  
拂、フ、ノ、シ、ト、命、セ、リ、シ、ト、也、○、天明、六、年、午、坂、下、ノ、市、廬、ヲ  
リ、失、火、ノ、由、ハ、是、ノ、輩、ノ、家、ニ、至、ル、迄、延、燒、セ、リ、此、時、以、自、ラ  
出、島、ニ、テ、指、揮、シ、玉、ヒ、鎮、火、ニ、及、一、リ、連、年、飢、饉、ノ、後、人、民、甚  
疾、シ、タ、シ、ハ、有、リ、ナ、シ、テ、三、日、ノ、間、飯、ヲ、炊、キ、飢、民、ニ、與、一、玉

フ何レモ感泣シテ幸フ一限リナシ獲飽迄賑恤シ玉フ一  
キ尊慮ナシ正慮入寡ガ、時ニ當リテ心ニ任テ玉ハ伏  
ニ親リ艱苦ヲ見玉ト惻隱ノ心ニ怒ヒス入城以來衣食ヲ  
始メ茨ニ節制ヲ加ヘ玉ト儲蓄ノ心ニ諸官局ノ餘金或ハ獻  
金等不虞、用ニ餘カ置キタルヲ以テ焚燒セシ小吏ヨリ  
市井ノ者穢多ニ至ル迄金ヲ賜フ一差アリ常時村市ニ  
大災アル毎ニ糶一俵俾テ賑賜フ以テ例トセリ郡中火災  
明上ノ年ハ向後糶穀ヲ金ヲ借渡サレ會セシリ天○蠲  
夷地ニ魯西無乱妨セシ年ハ糶役暇無リテカ滯礙ナリ勤  
兵番ノ糶モ搬運少カラズ糶役暇無リテカ滯礙ナリ勤  
外ル賞ノ糶中ニ錢若干賜ヒ入朝辭隣使ノ入費因從  
高百石ニ命金一兩納ムノ旨天下一休ニ

命アリシカ村ニヨリ一時ニ納ムノ旨天下一休ニ  
玉ハ一時ニ納ムノ旨天下一休ニ  
田産ノ事ニ心ヲ用玉ト織座役所ヲ建テ有司ヲ命シ番ニ  
テ寡流ノ妻女亦係ヲ録リ納得備ヲ織リ其債銀ヲ以テ家  
禄、不足ヲ補ヒ塗物役所ヲ設ケ城北湯本村ニ木地挽ア  
レ正塗物スル者無シハ一人占抱一木地ヲ塗シノ其傳ヲ  
得テ食此ニ塗慣ヒ活汁ノ一助トナセリ又孟宗竹ハ播仁  
、楓生萋産ノ草館多兼粉芋、種ヲ求テ播シノ宇治ヨリ  
種ヲ受テ茶ヲ製セシメ玉ト是ニ上品ノ茶ヲ出シ又盪表  
、種ヲ出用、水地ニ植付其外附子人恭ホ培養シ其品ニ  
ヨリ多少善無アレ正皆成功ヲ得タリ○寛政八年甲ヨリ

命シ金ヲ下シ絹布太物綿鉄物何ヨリ入弘ノ商賈ヲナ  
城西甲子山温泉名湯ナレバ辟地ニノ岩嶮ハ屋ニ成  
七シノハ屋ニ成シノハ屋ニ成シノハ屋ニ成シノハ屋ニ成  
ニシノハ屋ニ成シノハ屋ニ成シノハ屋ニ成シノハ屋ニ成  
三ニシノハ屋ニ成シノハ屋ニ成シノハ屋ニ成シノハ屋ニ成  
江ノ川ナリト入ルノ東ノ南ニ門朝日ナリナキ  
外ハ深井ナリテテニ東ノ南ニ門朝日ナリナキ  
破損ナリテテニ東ノ南ニ門朝日ナリナキ  
夜上ニテテニ東ノ南ニ門朝日ナリナキ  
故ナリテテニ東ノ南ニ門朝日ナリナキ  
道中奉行ニテテニ東ノ南ニ門朝日ナリナキ

亦益ノ為新ニ馬市ヲ取立年々四月櫻町ニ他方ノ馬多  
未ル故是カ力ニ取立ニヨリ又横町ニ野菜ナリ取立五  
フ馬市點菜市取立者ニ金ナリ借上ル願ル○一藩諸士ヨリ  
農南ニ至ル迄回者ノ力ナリ借上ル願ル○一藩諸士ヨリ  
養ナシシノ成木ノ精織用ナリ楮ハ追年繁茂セ  
シカハ紙匠ノ抱ハ先ツ諸役常用ノ紙類ノ濶シメ次  
ニ巧ニ至リ後ハ上ニ出テ他方ニ賣鬻シ難ク國益ニ  
土地米多クハ酒味悪ケレバ他方ニ賣鬻シ難ク國益ニ  
庫シレ上同ノ釀方ヲ學フシ史公津ヨリ林氏ヲ傳ヒ  
其後ニ追々上同ノ釀方ヲ學フシ史公津ヨリ林氏ヲ傳ヒ  
テレニ故ニ追々上同ノ釀方ヲ學フシ史公津ヨリ林氏ヲ傳ヒ  
ニ御賣天ル程ノ高ナク便直ナリサレハ之ヲ取立一キ肯

屋村迄 取道 堤 築 干 向 側 魚 木 植 工 一 下 毎 三 日 即  
植 紅 夏 日 影 遊 冬 凡 防 旅 人 履 履 無 了 三 公 初  
の 内 村 重 苗 木 抽 取 注 未 牛 馬 踏 荒 日 月 功  
老 痛 外 患 上 シ ヲ 木 柄 又 堤 櫻 一 本 ツ 植 テ 界 十 月 谷  
持 堀 ヲ 定 テ 並 木 柄 又 堤 櫻 一 本 ツ 植 テ 界 十 月 谷  
命 七 月 又 シ ヲ 村 長 幸 心 補 一 裁 培 シ 二 年 二 月 稍 生  
立 ヲ リ 又 道 橋 於 後 掃 除 十 年 市 井 持 場 毎 匠 碑 石 少  
立 置 シ カ 此 地 未 七 向 又 山 比 封 内 九 丁 月  
知 一 諸 士 屋 敷 内 賈 商 迄 二 十 年 前 比 又 上 大 葦  
治 二 元 殊 十 心 見 儿 如 十 山 林 一 位 立 松 榎  
栗 榎 松 榎 唐 松 櫻 柏 胡 桃 榎 買 松 桐 女 岡 木 楮 桑 漆 三 重  
根 豆 柿 類 植 舟 人 寛 以 十 一 年 紀 定 二 八 始 十 十 余 万

二 空 山 見 田 役 人 増 シ 諸 士 友 二 三 男 内 二 三  
野 火 制 道 苗 木 見 回 リ 命 シ 近 辺 侍 長 三 毛 見 回 リ 命  
三 五 其 後 三 追 苗 木 成 立 シ 已 二 丈 六 年 記 大 火 二  
藩 中 日 井 三 至 儿 迄 八 本 余 木 林 少 賜 一 始 程  
城 近 山 毛 只 草 菜 三 生 茂 川 夕 儿 二 後 二 八 樹 本  
赤 樽 貧 民 赤 三 豊 二 下 刈 シ 三 薪 木 用 二 不 足 十 年 月 少  
得 儿 三 五 山 林 茂 リ 夕 八 林 多 成 テ 田 島 少 流 又  
十 下 三 九 有 シ カ 林 木 長 ス ル 二 林 廉 多 成 テ 田 島 少 流 又  
又 其 無 物 十 外 骨 柳 隨 七 反 十 成 テ 田 島 少 流 又  
輝 旅 有 要 物 十 外 骨 柳 隨 七 反 十 成 テ 田 島 少 流 又  
工 江 戸 日 招 キ 須 山 二 岳 二 鉄 山 新 田 牧 野 内 二 充  
願 出 銅 鉛 鉄 下 堀 製 鉛 夕 極 買 入 蓄 物 新 田 牧 野 内 二 充

立是朝鮮人恭或附子杯多栽培ノ年ノ菜品ヲ製シ  
白川ノ山野ニ産スル菜州他邦ニ勝ル者モ有シ本草ニ  
長シタル水友平ニ即ト出ルヤ江ノ山野ニ入テ菜州ヲ採ノ  
用ヲ賜ヒ医師ノ身壯ナルニ入テ菜州ヲ採ノ  
園中ニ移シ培養セシメ樂成スルニ極ニ是レ製菜ノ令シ  
附子ノ菜州ニ白川ノ産ト任テ年々出サシム  
江ノ大都ニテモ稀ナル物ニ此地ニ絶テ無シハ急故  
ハ占一其品ニ取テ鐵物ヲ納メシメ利病瘵ノ菜劑ホハ  
貴高ノ家ニ值ハリ得難キ秋方ナルヲ以屢買家ニ至リ  
求メ得テ此菜園ニ下テ貯置又丸散ノ類ヲ多ク待医ニ製  
セシメ家ノ療者ヲ救ヒ玉テ○八天狗ノ鎮火ニ異ナル神

シノ或ハ好ニ至テ相進ヒル蓋ハ中菜鹽ニ用玉テ花日  
賜アリル子ハ又白川ニ鯉魚ノ親魚ニ付テハ是レ江ノ  
川取寄セ所ニ放テ置四用ニ瓦テ或ハ城下通行ノ諸炭  
凡也史籙ヲモ放テ置四用ニ瓦テ或ハ城下通行ノ諸炭  
方ニ贈リ玉テ斯ク種ノ事ナシ玉一ハ世費夥キナラ  
諸有司始メ世用ノ事ニ多ク金銀ヲ費シ玉ヲ採ニ思ヒ  
カカシ民ヲ聘ス一キテ上ニ減損スル金銀ハ下ニ増  
益スルヲナシ嘗テ厭ハセリトナリ  
採領ノ朝鮮人恭ヲ城州北ノ路ノ山城西ノ深山甲子山辺  
ニ植付懸ル者ヲ餘ヒ傳以者内城ハ斯ル皆菜トシノ  
又三九園庭ニ得難キ菜州ノ植一道成寺小路ニ菜園ヲ取



ナレハ此世將ノ藩中及村市ニ賜ヒテ人心ヲ安シシ王  
天明八年ヨリ所ノ界ニ木戸ヲ建テ物念ノ時ハ其木戸  
ヲ鎖シ姓未ナク改メ年々十月ヨリ翌春迄諸士萬族ノ者ニ  
市中火ノ先田川ノ倉シ五テ能テ廣ク人民ノ患苦ヲ放  
ハシテノ賢慮筆ニ何物ニ因テ周伴ナル下斯ク如シ  
越後官料出官寄辺ハ取繫リノ地ニテ人氣應ク治メ難キ  
必ナレハ公ノ私領一轍ニ必置シ忍依テ変化九ル操ニ  
尽カアル一ニ進同亦五石ノ地ヲ御預所ニ命シ至テ欠  
新是ノ規範ニモ成ルル奥趣共治方直キヲ得リシハ御代官一  
公務ノ一端ナレハ周密ニ指揮シ五ニ其教化ノ及ビル  
驗ニヤ庶民私ナク農業ヲ修メ已ノ勤ム一ノ道ヲ勵ミテ

ル故再此地ニ有司ニ多クテテ八ノ長由預地ハ年  
ル至力此地ニ有司ニ多クテテ八ノ長由預地ハ年  
ルヲ九ノ諸侯ニ賜テ御賞アリテ或ハ秩一ノ加一ノ  
玉ノ方ノ内寺ニ御賞アリテ或ハ秩一ノ加一ノ  
白ノ神ノ君一ノ画ノ安置ニ寺カ其由信造ヲナ  
東照ノ神ノ君一ノ画ノ安置ニ寺カ其由信造ヲナ  
英牌ノ公家歴代ノ主位ヲ設置シ在ノ時ハ情捧ヒ玉  
牌室ノ名付タル一室又堂ニ後常置取テ令シ五テ親  
ル方ノ牌子ヲ納メテ産火災策ニ地取テ令シ五テ親  
寺ニ土藏添リテ牌室ヲ産火災策ニ地取テ令シ五テ親  
城北金勝寺ノ地ニ諸山ヲ遠近ニ見阿武隈川ニ依リ景  
包美ヲ集メ觀月ニ玉直シケレハ別荘ヲ覺ニ其西リニ櫻



多ク植五櫻山ト名付ケ碑ヲ立自詠ノ契ト刻也  
又桃其外莫大ク多ク植テ實ニ濟土人ノ取ルニ任セラル  
阿武隈川原ハ帝ニ水少クシテ廣野ノ如ク瘠地ト云ハレ  
松ノ面多ク種セ玉止シテ昔柿又ハ程ニ空山ト時  
別在遊覽有テ詩歌ノ具ヲ僅ニ射野大的杯見奉テ下モ  
中ノ藩中ノ先ノ以テ間ノ竹庭家族ノ毛存行跡道運ニ  
越覽又ハ下リ許シテ此ノ地多ク中ニ珠ニ眺望月干  
深月候下一尊ノ散野玉トシテ念多ク知ン速航又ハ園ニ移  
ル所ナリ見玉ハ人ト樹念多ク知ン速航又ハ園ニ移  
湖月亭ト名付玉ハ樹念多ク知ン速航又ハ園ニ移  
山麻島ニ遊遊見玉ハ樹念多ク知ン速航又ハ園ニ移

紅葉ノ地ト名付玉ハ白川ハ寒國ニテ未ク紅葉ノ梢朝凡  
ヲ待テ朝ノ霜漬ケレハ一奇ニ染出ノ珠ニ蕭ハシ削碑ヲ  
嘉歌自詠ノ歌ヲ刻シ玉ヲ

年久ク用玉トシテ秀筆數百卷ヲ集メ削碑ヲ添テ此山ニ埋  
メ玉ヲ文例ニ小亭ヲ造ニ蓋子一階一階為諸侯度ノ格ヲ  
取リ此亭ヲ一階亭ト名付ケ松山ノ別荘ヲ一階亭ト号シ  
玉ヲ  
山水遊歴ヲ好ミ谷所ノ溪流スル下ヲ深ク歎惜シ処ニ  
碑ヲ立其迹ヲ標シ玉ヲ中ニモ白河ノ関ハ世ニ名高キ名  
所ニテ唐山ノ人ニ関及ヒテ待ニ依レル程ノ地ナルニ其  
跡泯没ノ年久ク故ニ其迹ヲ得カシメ殊ニ心ヲ尽サレ昏

其側ヲ流ル川ノ界トシタル民盾ヲ擲目村ト云南朝ニ仕  
一シ徳城宗廣ノ堀アリ本朝白城ニ移シ今ハ城ナリ廣瀨  
興宗廣親光次子廣ノ父ト志烈ノ隆ニナリ今ハ感慕ノ余リ  
石ニ刻ル其忠勳ヲ子孫ト傳フシ今ハ合意ノ不墮トニ  
倅スル村長内山重濃領内ニ結城氏ノ遺臣ニ志厚ノ其  
膏助ヲ助シテ夫謀シテ矢ニ於テ興碑陰ヲ撰ニ加長孝章  
業ヲ取ルニ其盛奉ヲ歎ヒ感忠銘ノ三太字ヲ昏シテ賜  
正内山氏ノ全没古樹鬱葱トシテ断岸ニ太余峭壁ノ如ク  
ナク平面ニ銀ノ刺ス大ニ断岸ニ太余峭壁ノ如ク  
ニシテ殊ニ偉大ナリ刺成テ打本ヲ江戸ニ呈ス隱栖ノ後  
文以十三年丙午白川ニ入浴ノ時駕ヲ枉テ向セテ上儀ヲ  
ル石壁ヲ仰キ古今未曾有ノ碑也ト賞シ至ノ入盧山ト云

籍三原キテ其徴ヲ考一村落ニ間テ旧ヲ尋子千研所究メ  
始テ確証ヲ得玉フ城南ニ里余ニ在ル旌指村ヲ闕村ト云  
比傍ノ高山ノ山ヲ闕山ト唱テ闕ノ明神ノ祠アリ前ニ流  
ル能ク清冽ナル川ト云フ是闕ノ外流ト云ハ一明神ノ祠アリ  
北ニ能ク見テ工部所ノ闕ノ遺跡ト云ハ一明神ノ祠アリ  
其地ニ昔ノ街闕ト云ハ一明神ノ祠アリ  
下ノ路ト云ハ一明神ノ祠アリ  
此事ト云ハ一明神ノ祠アリ  
楓本ノ者少カシ其後廣瀨興ニ命シ一不仁ノ由縁  
又春カシメテ碑ヲ立玉フ  
城東ノ距ル二十所許一ノ麻島明神ノ社アリ河武隈川



ノ時属目アリ于此廣平路ニ夕ハタル水ハ何方ニ注キ  
出ルノ村ニ尋玉トシニ東南ノ方ニ堤アリ其際ナル  
必ニ水集リテ前面ノ田向ニ注ク由テ奉リケシハ天ヨリ  
賢慮ヲ回ラサシ草和ノ初凶年ニ當リ小民ヲ救ハシカ  
老カ婦女ヲ援ハス土一荷運ハス奮目何程ナ定メ堤ヲ築  
カシメ玉一ノ功ヲ用ル下不多シテ下新田村皮箆村辺ノ  
小流皆此路ニ合シ水凍ク夕ハ兼葭枯腐シ小高キ山ト  
見エ之ニ鳴ノナリ周圍里合ノ湖水トナリ東南ノ向ニ  
水門ヲ造リ是日ナリ水ヲ固山ノ柵旗宿村迄引キ其下流ヲ  
南壑シテ新田トナシ居民亦村茂ク成セリ山辺ニ見エ  
シハ龍ノ山ト名付テ十勝ノ名ヲ採ヒ侍弄ニ為シ易カ  
濯鏡岡松凡ノ里松津里常盤ノ真萩ノ浦ヲ玉花泉松也ノ原ヲ

鴨秋原月待ツ山ヲ向月旅月見カ浦ヲ返月浦シ夕子ノ島  
月一曉月清洲三カケ村ヲ當ラ五津村ノ千代ノ松ノ原ヲ播  
彌ノ詩章ヲ需メ碑ノ三背ニ列シ公モ自ナキ世ノ松原  
鏡山ノ奇ヲ泳シ玉ノ湖辺ニ小亭ヲ設ケ鎖鑰ヲ開キス  
共采亭ト名付テ親榻リノ願来游者ニ皆鯉魚ナルヲ許シ  
山水ノホヲ樂ト共ニテ玉トシトナリ○白川ハ山國  
ニテ舟ノ見ル下ノ無ケレハ行舟ノ業ハ絶テ知ル者ナ  
キヲ常ニ愁ヘ玉トシカ南湖ノ邊ニ成切アリケレハ諸士  
ハ行舟ノ美モ心得居ルハキ下也自然海國ニ行カシム  
ケトナルハシ連船ヲ造リ置キ藩中ノ若ニ借シ玉トシカ  
ハ年壯ノ諸士始テ水上ノ進退奉動ニ習熟スルヲ得ル  
リ或夜凡南波シカリシニ所田旌馬往リ凡波ヲ犯ノ邊稽

力邊ヲ試シテ了ラントシテ珠ニ悦ビ玉ヲ幾ハリモナリ  
房徳一州海岸備際ノ余ヲ蒙リ玉口ニ州ノ成堡ニ趣キ  
中者此終煉ニ至リテ天ヲ助ケトハナリ  
二十七日玉一匹又時ヲ待テハ御休ト裕ニ在マセリ初大治  
ヲ嘗テ保舟ヲ常ハシムハ十深慮ニテ南湖已ニ成功アリ  
シニ造舟ノ後熟セヌ又一二年経テ余シ玉ヒニ候決評  
ニ至ラズ斯クハ仙臺合津ノ人数概夫ニ祗役命セラレシ  
此重テ余シ玉口ケレハ速ニ熟後アリテ不日ニ船ヲ造製  
シテリルソ斯ク復ニ待テ玉ヲ取レハ或年殆概ノ即日昏暮  
ニ執以度テス台ノ家十午当武番心掛ノ義ニ付云ニ命シ  
玉ト早ク評後ノ明日表合スハ心トアリシニ批政及口諸  
有口政吉ヲ幸望日貴シ行ハシムリ其時下レ玉ヲ金子七

少ナカテ井ルナリシニ半刻ニ過テ決定シテルト也  
奉職中下谷租屋敷ノ廢地ヲ拝領シ玉ヒシヲ大洲ノ上郎  
ニ近ク使置タルニ遠漢リ玉口處ニ轉シテ築地ノ一橋  
下部ノ内一カ七ノ坪余ヲ譲リ得玉ヲ此所ノ南隅海濱ニ  
通リテ又沿岸ヲ拓碎クテ度ヒナレハ治済御濱リ玉ヲ下  
ヲ甚善念シ玉ヲト肉五ケルカ水辺ニテ米敷ノ運漕ニ便  
ナレハ葉ヲ決シ領内ノ田來ヲ貯置家中ニ与ヘ玉ヲ為ニ  
河辺近ク倉廩ヲ依リ柳ヲ多ク植テ日ヲ悼一玉ヲ又佐久  
間甚ハシ洗ヲ用ヒ地岬一亂杭ヲニ行ニ打セラレシカハ  
其後南風烈ク波荒キ時ニ崩ルハ下流テナシ元ハ崩レ上  
々ニ皆人唱メケルカ不慮岸トソ改玉ヲ此下郎ノ園ヲ浴  
恩周ノ名付テ柴野博士ニ祀文ヲ属シ時ノ親戚ヲ公ニ親



睡ノ交ヲナシ或ハ雅人ノ川キ凡雅ノ道ヲ娛ニ保四公  
ハ松代侯トシ筋骨ノ鍛ニ五ハシカ此地ニテ教ハ漢獵ヲ  
成シ水練ノ替古ヲ勵ニ貴族ノ常態ヲ去リ勞勤ノ下ヲ成  
サシメ玉フ寛政ノ末ニ公如老ノ越玉ヒシ比池ヲ浚ヘシ  
為ニ列綱ノ莫ク移サシ世傳臣ヲ始メ多ク水ニ入テ綱ヲ  
引ケリ以テ玉羊纏ヲ著テ水ニ入玉ヒシカ水深リノ或ハ  
野ノ辺ニ及ヘリ保四公松代侯ハ十四ノ比ナリシカ  
淺瀬ニ入テ綱ヲ引玉フハシ世傳侍ノ輩ト共ニ水ニ入セ  
ラレ大魚餘多捕ヘ得テ珠ニ具アリ拵シモ寒天ニテ風吹  
ケレハ人皆怒身敗果ノ處ノ合ツ共無リシニ公獨リ自  
着下ノ御戰栗シ玉ハ不然ニ水気ヲ病マセシレシ比ナレ  
ハ池ノ君ヲ始メ聖慮シ玉ヒ湯ヲ沸シ鹽器取役玉ヒシ

ニ保四公松代侯ノ浴シ玉ハシ世湯ヲ持運フヲ公見玉  
ヒ大ニ不具ヲ在マシ幾年若キ時ハ深川ノ下邸ニ行毎ニ  
池ニ入シカ兵手呈テ水ニテソノキシニ濡レムル処ハ  
手拭ニテ拭ヒ置キ羊纏ハ攸リテ其俵服シ居ヌレハ何ツ  
カ靴ノナリ狀ルヲ今ハ湯ヲ用ル杯余リノ素弱ナル下也  
ト附ノ者又痛ク此リ玉ヒシ公ハ固ヨリ浴シ玉ハ不具  
ホハ一時ノ不具ノニ非ス何事モ展弱ニ流レ行リ下ヲ  
歎キテ斯ル時ニ戒諭シ玉フナリ壯年ノ比ハ勿論其後モ  
漢獵ノ時ハ無ニ先ク水ニ入リ拵ヲ玉フカ気力盛ニ  
在テ故嘗其カ為ニ痲痛シ玉フ下ナシ  
保四公松代侯十二年或時皆定メ為相伴ニ玉ヒシニ  
拵節燕向ニテ礼ニ向ヒ居サセラレシカ迄客トメ直フハ



今右ニ心術ノ一端ヲ得ル一シ人ノ一命ニカケ腰ニ横  
ルルカ釵ニ譬ヘテ言シ先ツ世ノ中ニ稱美スル正宗カ鍛  
タル釵モ其地鉄ノ源ハ生金ナリリシヲ沸シ成度モ折返  
シ鍛ヒクシテ後形ヲ依リ扱ハ一心不乱ノ精神ヲユク燒刃  
ヲ渡シ馳テ研上テ如釵トナリ今世モ正宗ノ依トテ  
珍重スルソカシ人ノ上モ其通りナリ先ツ才一人是カテ  
シ者ハ學問ナリテハ叶ハス我身ヲ徇メ一家ヨリシテ國  
天下ヲ治ル修行鍛錬才ナリ今俗ハ彼生鉄ノ如シ是ヨ  
リ修行鍛錬ヲ重テ先ツ大學ヨリメ四昏五徑至賢ノ訓真  
クハ修行和漢ノ歴史ヲ著リ見テハ一ノ賢人君子名將  
勇士等ハ人カセシ事蹟目前ニ並ハ見ル如シ是ヲ一ニ我  
身ニ揮當テ我心ニ此ノ味ヒテ修行工夫スルガ成宗ノ幾

度カ折返シ鍛ヒ接リ業ト同シト也斯ク修行ノ功ヲ積テ  
四天下ヲ治ル時ハ必政道ニシテ人心悅服シ有道ノ君ト  
人ノ尊ミ後世ニ名ヲ残シテ載ノ後迄人稱美スルト則正  
流ノ刀劍ノ如シ今俗良助禰ヲ招キ進講ヲ乞置キ又學歌  
共侍傍メ命シ置リ是皆三宗カ如キ名刀ニ成シ世ノ一  
十レハ良助ニヨクノ事テ學上族學頭共ニ何ナリ正不審  
メ問ヒ鍛ヒメ修行ヲ重ヌハシ宛南人君トナリテハ家臣  
イオシナヘテ家臣ナルソ虞罪ニ毫末モ私ナリ只仁愛ノ  
ニツテ齎レテハナラズ下ソカシ賞スルモ罰スルモ仁愛  
ヨリ出タルトニ非レハ道ニ叶ハズ天心ニ應セズ人心服  
セサル者トヨリ覺悟ノ法ト修行ヒラレト懇ニ教訓  
ナシ玉ヒシヲ保國ト加代炭モ終身此庭訓ヲ服膺シ玉

運名、物ヲ製シ玉ノ丸尺余ノ平尾ノ表裡ニ建任ヲ練  
字ニ琴徑ヲ楷字ニ昏ヒタルノ刺ノ境ニナリ、刻ニ侍者ニ皆  
テナリ、簾下ニ重テ置テ、朝夕庭ノ内外ニ自ラ運ヒ、侍者ニ皆  
野博士、跋文ヲ作リ、詳ニ其事ヲ記セリ  
退、賦ノ後、一侍系、局、查、琴、基、杯、ノ、合、毛、時、ノ、催、玉、フ、廣、改、八、年  
元、丹、尾、一、老、博、士、其、外、六、七、人、招、キ、後、秋、田、彦、信、川、矣、又、八、十、月、記  
長、尾、元、長、一、作、堂、因、田、頭、吉、志、人、招、キ、後、秋、田、彦、信、川、矣、又、八、十、月、記  
清、由、未、幸、ノ、ノ、卷、次、巻、濱、此、星、堂、大、長、十、村、田、彦、信、川、矣、又、八、十、月、記  
ハ、至、成、二、ノ、ノ、種、東、城、カ、此、合、壁、二、遊、日、年、ノ、平、文、同、シ、テ、和、二、年、ハ、  
七日、既、望、三、ノ、九、園、亭、二、テ、琴、基、局、盛、待、昇、ノ、造、ヲ、召、シ、茶、園、  
入、湖、岡、亭、ニ、テ、月、ヲ、待、玉、ヲ、時、音、楽、ヲ、奏、セ、シ、ハ、月、出、テ、後、池、  
水、ニ、舟、ヲ、浮、一、詩、昇、大、禮、ノ、具、アリ、十、月、望、ハ、江、戸、ニ、在、シ、

元集、冥ハ、役、十、玉、ハ、又、只、樓、上、ニ、升、リ、月、ヲ、見、余、語、克、俊、侍、并  
上、改、矩、松、平、定、緝、姁、侍、坐、ノ、侍、ヲ、作、リ、大、泉、昼、ヲ、カ、キ、ル、  
ニ、此、時、ヨ、三、玉、ノ、歌、ニ、

わろこのの世はかゝるとおの月の影あゝ  
酒あつたあはれおのの月影あゝ

今宵、柴野博士ノ対、岳、接ニ、諸名家、集、合ニ、盧、瀬、典、モ、此、会ニ  
赴、リ、ト、園、玉、ニ、月、白、凡、清、ノ、大、春、ヒ、大、十、ル、新、興、ヲ、贈、リ、生、容  
二、侍、ヲ、乞、也、行、テ、典、明、日、詩、文、ヲ、奉、シ、  
島、十、苑、繁、瀨、行、テ、言、會、成、道、清、文、ヲ、奉、シ、  
田、十、苑、繁、瀨、行、テ、言、會、成、道、清、文、ヲ、奉、シ、  
赤、登、二、相、似、製、ル、海、自、ア、テ、席、ヲ、春、五、誠、ニ、盛、重、  
赤、登、二、相、似、製、ル、海、自、ア、テ、席、ヲ、春、五、誠、ニ、盛、重、  
ル、者、少、カ、ク、リ、ホ、ル、又、彼、ル、如、シ、文、ノ、行、テ、リ、月、有、見、ル、カ、  
ル、者、少、カ、ク、リ、ホ、ル、又、彼、ル、如、シ、文、ノ、行、テ、リ、月、有、見、ル、カ、

壁ノ月見シ人モ数多人ナラシト云々  
待文モ所モ只人ニコソヨレト云々  
退取ノ後遠州流ノ奈ヲ三輪元門長  
玉ノ自狀ニ其直ニ勝レサセラシ年  
サ口ヲル其後種ノ工夫アリテ茶  
ノ草記シ仙流前ニ与一茶當ノ物  
モ茶ヲ好ミテ其技ヲヨリスレハ代  
茶ノ下ノ老ノ飲ハ玉モ其香ハハ  
ア川品ナリ茶ハ物ワニタル  
西行ノヨメル

ト云昇ヲ色儀ニ辱テ致様ニセラシ  
多限ヲ知テ何事モスハキナ也  
公見玉口テ我

斯ク有ルハキ史載テ四五ノ句ヲ

ト改玉ヲ又名アル番ヲ賤ニ玉フ  
ル也ハ袋箱ホニ心ヲ用ニ使未  
歳ノ玉ヲ災地圖中ノ茶煙ニ類  
理ニ弄ヲ昏セリル

入茶室ノ壁厨ヲ板ニ錯テカケ玉ヲ

判書及持御ノ一ノ事ナリ  
おろそかさまのあはれ  
おろそかさまのあはれ  
おろそかさまのあはれ  
おろそかさまのあはれ

寛光公長逝ノ後、清照夫人寡居シ玉ヒシカ方西条権  
ノ天性ニ在リセハ花柳業ヲ遊覧ホハ言フヲ待テ庭前ヲ  
玉道邊ニ玉フナシ只折ニ觸レ侍女輩ニ酒ヲ賜ヒ自  
ラモ微酌ヲ勸メ幼サノ時習玉フニ位ヲ彈ヒ或ハ三位歸  
サトハル者ヲ古シ一時、旦ヲ催玉フナモアリ 此時  
横臥トシ侍生シ玉ハ自ラ 大夫人ノ如ク掛念アリテ  
與ノ妨トナシテナリシヲ抱シ帯トカ打カハ自ラ人形リカ  
ウ直心ナリト具ヲ添玉フ或時起居ヲ彈シ或ハ三途ヲ  
自ラ彈シ居玉ヒシ故ニ公モ旦ヲ助ケテ一首謡玉ヒシカ  
ハ 大夫人殊ニ素ニ具シ玉一リ世後同安ノ時 公ノ謡

曲ヲ小冊子ニシルシ小ヤキ見甚ニノセ一曲ヲ乞ヒ自ラ  
三途ヲ彈シテホシ玉ヒケル寛政三年癸未大夫人年六十二  
戌セ玉一ハ公ヨリ寿物ヲ捧ケテ年賀ヲ祝シ玉フハ  
公孝養ニ心ヲ尽シ玉フナ大方ナラス 大夫人南居シテ  
東意ノ良適ナキナラ大ニ苦心シ玉ヒ切ニ構シ兩國辺ニ  
テ別荘ヲ於メ是ニ住居シ玉ハ、密前大川ニ位ニ舟ヲ注  
来ナド眺望シ玉ヒ消閑ノ具ニモナルハキヤト伺玉ヒシ  
ニ大夫人大ニ嘉悦アリケレハ速ニ矢ノ倉ノ別荘ヲ取メ  
是ニ住シ玉ヒシカ寛政九年丁未十一月火災ニ罹リ上座ニ  
避玉フ翌日戲狂言踏仁左ノ門ナトシ古シ焚燒ノ聲ヲ散  
シ築地東殿ヲ修理シ人夫ヲ多リシテ皆促シ玉ヒ速ニ切  
身返ハ仮居アリシカ南靜ノ地ニテ養老ノ好栖也トテ終

身返ハ仮居アリシカ南靜ノ地ニテ養老ノ好栖也トテ終

身爰ニ住シ至テ如此心ヲ尽シ後モ是ナクニシ日夜大  
夫人ノ心ヲ安シシ樂シメンテテ尊ク庶幾シ玉一リ大  
夫人尤来康健ニ在シ病患絶テ無リシカ文化五年行ノ春  
ヨリ漸ク食量減シ元力衰一玉一氏旅飾ハ日ニ懈テセ  
シス二月ノ初ヨリ床ニ就キ玉バケレハ公日毎ニ行テ  
奉侍シ旅官ニ乞テ樂地邸ニ遷留シ晝夜此ノ君ト共ニ  
例テ去テ藥餌奉養心ヲ尽メ周旋有セシレ眠寤ヲ惱ニ玉  
其ハハサキ右圍敷多造テシメ痛疾ヲ支一玉ヲ次珠ニ是  
脱ヲリシカ菜養其臨ナリ二月十七日終焉ノ際シノ顛  
ヲ撞ケ皆ク厚ク介保ニ預リ此上ナキテ下宣ヒテ眠ルカ  
如ク屬纏シ玉ハハハ公ノ悲悼不淺在セリ大夫人終身  
肌ヲ痛シ玉ハハカリシ掛守アリヨレテ開キ見玉フニ寛

光公ノ昏玉ヲ歌アリ

法明御子隆興ノ格ニ寄リテ送るノ下ノ復シカク事改ノ事ト  
主涉スルニ及ズ

隆興の御子隆興ノ格ニ寄リテ送るノ下ノ復シカク事改ノ事ト

其貞順ノ程何知ハセ 躬テ表装シテ一幅トナシ 公自  
詳ニ其<sup>概</sup>察シテ白川ノ軍庫ニ納メ玉フ  
文化六年己丑年五十三多病ニシテ自テ出仕モ懈リ玉一  
致仕ノ内慮ニテ八月十五日朔ノ宴ト稱シ田安ヨリ  
ノ附人并老臣奉行用人疇近ノ輩ヲ召テ酒ヲ賜ヒ又岩物  
ヲ賜フ賴テ致仕ノ人ヲ執政ニ付玉ニシニ八月廿九日推  
改古河侯利厚<sup>次</sup>ハ大ノ邸一係國公ヲ召レ隱居内存ノ  
趣上向一達シテハ未老年ト申スニモ無之南養生ヲ加

一 出仕の成るにナシ在野の暇は川氏式の大捕可願  
各令ヲ蒙リ玉に異本、因侍ヲ深ク所銘シハ故仕止  
テ斯ル所ハ絶テ酒席ナトナリ

斯リ台命有之上ハ勉テ出仕スハ之速先ツ概改ノ郎ニ行  
玉フ疾痛ノ朝ナリテレハ

此の如き事板橋ふきりしりてはまきりては

是ヨリ花月ノ別号ヲ命シ玉フ十一月十八日登城アリ行  
拜謁、上總命ヲ蒙リ玉フ斯ク于明歳七年廣六月廿一日  
保田公ニ暇ヲ賜ヒメ代トメ白川ニ赴キ玉フ代官名  
送ハ行玉侍ハ錢別メ殊ニはク尽シ例役兼務川藤ハ待  
彼テ懸敷ニ侍テ玉フ疾痛ノ朝ナリテレハ



余シ金ヲ下ニ玉ト絹布太物綿鉄物何ヨウス弘リ贖賣  
ヲナシム  
城西甲子ノ温泉ハ名湯ナレバ僻地ニシテ路ハ小窪ヲ  
壞シリレバ浴客ノ為ニ道路ヲ平托シ危稜ニ堅固ニ改造  
セシメ小窪ヲ受シ不自由ナキナリ得タリ高シ山ニ連ケル  
下ニ鎮田山ノ厩内朝陽ヲ結及ハ公ノ加峯ノ嶺皆此山  
ニ原ツケリ又東南ニ鶴山